

リ、仏カ普ニ対シテ将来ノ約束ニ關スル要求ヲ為シ且英ノ調停ノ議並ニ「ロシヤ」ノ列国会議開催ノ議ヲシテ、且ツ十五日ノ議會ニ於テ、論議ト宣戰ト公視セルカタメニ、仏政府ハ戰ヲ好ムノ名ヲ負フニ至レリ。七月十七日附、仏帝ノ宣戰ノ正式ノ宣言ハ十九日普政府ノ手ニ受領セラレタリ。其ノ中ニ於テ、普王ニ「所未ノ担保ヲ拒絶セル事ト、仏大使カ謁見ノ拒絶ヲ列國ニ通知シタルコト、ヲ宣戰ノ理由トナセリ」。

「ビスマルク」ハ同日仏政府ハ宣戰ノ宣言中ニ説ク「トコロヲ戰セル公ニ對シテ、國ニ對セリ當時独乙ハ戰備整ヘルモ、仏ニ於テハ實際ニ於テ戰備整ハナリ、且意慮ノ宣戰ノタメニ、同盟ヲ求ムルノ外交談判ニ積極又ハ至レリ、而シテ、仏カ普ニ担保ニ干スル要求ヲ普ニ對シテ提出シ、且ツ英及「ロシヤ」ノ平和的解決ノ提案ヲカスシテ、先ツ議會ニ於テ軍事費ノ議決ヲ行ハルヨリ、南独ヲ含メ、獨乙全國民ノ敵愾心ヲ喚起シ、列國ニ戰爭ノ初メニ於テハ、仏ヨリ心ヲ寄スニ至レリ」。

英ノ如クハ、仏ノ企圖ニツキテ、疑ヲ懷クニ至リ、且ツ「ビスマルク」ハ普英戰役ノ折、Belgiumニツキテ「ナポレオン三世」ノナセル代價ノ談判ノ折、文

書ヲ巧ミニ手寫シテ之レヲ公ニセルヨリ、Belg.ニチシテ利害干係ヲ有スルコト深ク、英ハ愈々、仏ニ對シテ猜疑ノ念ヲ懷キ、Belg.ニチシテ、コレカ中立ヲ尊重スルノ條約ヲ結フコトヲ、外交戰國ニ對シテ要求スルニ至レリ。

八月九日及十一日ニ於テ、英ハ普及仏トBelg.ノ中立ノ担保ニ干スル條約ヲ結ヘリ、爾後英ハ戰爭ノ範圍ヲ限定スルニツト、自ラ戰爭ニ干渉セザルノ政策ヲ採ヘリ。露ハ其ノ帝室カ當時普ノ王室ト親善ナルノミナラス、東方問題ニツキ、比較的無頓着ナル普ヲ利用シテ、「パリ」條約改正ノ素志ヲ達セント欲スルヲ以テ、英ニ對シテ戰ニ加ハラハ「ロシヤ」モ中立ヲマモラサレハ、其ノ勢ヲ示シテ、英ヲ牽制セリ。

仏ハ七月八月ノ頃ヨリ、英及普ト同盟談判ヲ開始セリ、英ハ「ロシヤ」ニ對シテ、以テ、仏ノ勝利カ顯著ニシテ、伊モ亦同盟ニ加ハルニ非レハ、敵ヲ勤ク所ナカラントセリ、而シテ、伊ニ於テ「ローマ」問題ヲ同盟談判ノ障礙トナレリ、而シテ、一八七〇年ノ九月三日ニ、仏ハ「ローマ」ニ駐在セシメシ、仏兵ヲ撤兵スルコトヲ、伊政府ニ告ケタルカ、伊民間ニ於テハ、サキニ、仏ト約スル

Ag. 九月協約 (一八六九年)ニ違反シテ之レヲ無視シテ「ローマ」ヲ占領

スルノ説燦ナリキ、埃ハ戰備ヲト、ノフル南「ロシヤ」及ヒ普ノ侵襲ヲ防タノ
 必要上中立ノ態度ヲ守ラサルヘカヲサレテ且ツ伊ヲ同盟ニ引入ル、ノ
 必要ヲ説ケリ、然レトモ仏ハ「ローマ」ノ伊ニ入ルヲ認ムルヲ欲セサルヲ以テ
 「ローマ」問題ノタメニ同盟ナラサリキ、仏外務大臣 *Delcandolle* 公ノ
 後ニ至リテ辭ケトコロニヨレハ「自分、書ケル書ニヨル」ニ因テ同盟ノ談判進
 捗シ埃及伊ハ仏ニ約スルニ九月十五日ヲ以テ軍備ヲ整ヘ交戦千係ニウツル
 コトヲ以テセントシ仏兵カ南独乙ニ侵入スルコトヲ以テ埃伊ノ交戦千係ニ
 ウツルノ條件トシス仏カ伊兵ノ「ローマ」ニ入ルコトヲ許容スルヲ以テ條約
 ノ成立ヲ條件トシ其條約ハ八月五日ニ調印サル、コト、ナレルカ其ノ前日
 タル八月四日ヨリ仏軍破レシタメ同盟遂ヒニ成ラサルニ終レリトナシ仏軍
 ノ敗戦ヲ以テ同盟不成立ノ主要原因トナセリ最近ノ研究ニヨレハ八月四日ノ
 仏ノ敗軍ノ略一週前ノ埃（七月廿九日）仏ハ埃伊兩國カ仏ト同盟ヲ結フノ
 條件トナセルトコロノ伊兵ノ「ローマ」占領ノ承認ヲ明白ニ拒絶シ其後モ
 埃仏間ニ談判行ハレサルニ非ルモ同盟ハ成ルヲ得スシテ「ローマ」問題カ
 同盟ノ成ラサリシ主因ヲナセルモノ、如シ、

當時仏ノ主戦論者ハ仏軍方一度南独乙ニ向ヘハ南独ハ合スヘキヲ想ヘリ、
 然レトモ普ハステニ南独ニ於テ其ノ実権ノモトニ（軍事情勢ノ）及ヒ財政上
 （関税同盟）ノ統一ヲナシトケシノイナラス仏カ一ハ六六年ソ「ライオン」
 地方ニ関スル要求ニヨリ南独乙ノ人心ヲ火ヒタルヲ以テ先ノ「プロシヤ」
 トノ同盟條約及軍事條約ニ基キテ十萬ノ兵乙第ニ軍ハ迅速ニ「アルサス」ノ
 北方ニ於テ集合ヲシ普ノ皇太子「フレデリック」ヲウキリヤムレノ麾下ニ
 立ツニ至レリ、コ、ニ於テ仏ハ巴ノ一ツノ同盟モナクシテ独乙全体ヲ敵ト
 スルニ至レリ、戰事開始ノ折「ナポレオン」三世ハ「ストラスブルグ」及
 「メツツ」ニ兵ヲ集中シ「ライオン」河ヲ渡リテ南北独乙ヲ中斷セントセリ、
 然ルニ南独ノ独乙弟三軍ステニ「アヤマ」兵ノ軍隊ハ不整頓ヲ極メ進軍ノ実行
 シ得ラレサルカタメ急ニ策戰計畫ヲ改メ八月ノ終リニ「モーゼル」ヨリ
 「ライオン」河ニ至ル仏ノ國境ヲ防禦シテコノ方面ニ前進シ来ル独軍ヲ敗ラ
 ントセリ、

一八七〇年八月六日ニ於テ「マツクマホン」ノ軍（アルサス軍）カ
Warck ニ於テ敗ラレ全日「バゼーヌ」軍（仏ノ主カヲアツムル「ライオン」軍）

ノ先鋒 (Speakers) 敗ルモ亦敗ラレタリ、後バクモナブ独乙軍
 カ「アルサス」「ローレン」ニ殺到シ「メッツ」
 「ストラスブルグ」及其他
 一三ノ要塞ノ外ハ「アルサス」「ローレン」ノ全体カ普軍ノ侵入スルトコロ
 トナレリ、之レニヨリ *Belgium* 内閣倒レタリ、从ノ戰敗ノ形勢ヲ見テ
 喫及伊ハ戰爭ニ加ハラサルコトヲ決意スルニ至レリ、伊ハ英ト協議シ八月
 中旬英ヲシテ中立聯盟 *League of neutrals* フ提議セシノ聯盟
 因ハ相互間ニ相通知スル「ナクシア」中立ノ態度ヲステサルコトヲ約シ以テ
 「ナホルメン」ノ要請ニヨリ戰ニ引入ル、コトヲ防カントセリ、英、ロシヤ、伊
 カ之ニ加盟シ喫ハ之レニ加盟セサリシモ「ロシヤ」ノタメニ牽制セラル、ノ故
 ヲ以テ勳カサリヤ、

喫ハ強國ノ協同調停ノ議ヲ提出シテ其ノ遲延ヲ決スルノ時期ヲ引延ハサ
 ントセリ、コノ折ニ「ナホルメン」三世ハ「メッツ」ニアリテ議ノ出ツル「ラ
 知ラス其ノ退却ヲ初メシ折ニハ強軍ニ近ク「メッツ」ニ迫レリ、「バセーヌ」
 略ニ十万人ヲ以テ「メッツ」ニ籠城セリ、「ナホルメン」ハ「メッツ」ヲ出テ、*Châlons*
sur Marne 「マツクマホン」ノ陣ニ合セリ、十七日ノ參謀會議ニ於テハ

退マテ「パリ」ニ守ルヘキヲ可ナリトセルカ「ナホルメン」ハ「パリ」
 ノ皇后ヨリノ電報ニヨリ「パリ」ニ歸ラハ人々ノ動搖ノタメ形勢カ倒ルヘ
 キコトヲ信シテ遂ニ北方ニ退ンテ一八七〇年八月二十九日ヨリ九月一四日
 巨ル「セダン」ノ戰ニ敗北シ「ナホルメン」ニ世ハ八万人ニテ「メッツ」ニ
 條件ニ降服シ俘虏トナレリ、

「セダン」ノ敗報「パリ」ニ達スルマハ人々ノ動搖甚シク主トシテ「パリ」
 送出ノ議員ヨリナル国防政府 *Defense National* 組織サレタリ、
 衛代總督 *Trochu* カ首相トナリ *Gambetta* 内相 *Franse* 相、「ナホル
 レオン」三世ノ皇后ハ皇子ト共ニ英ニ逃レタリ、

国防政府ノ外相 *Jules Favre* ハ九月六日各國駐劄ノ各國ノ外交官
 等ヲ總統スルノ責任ヲ負ハサルハカラスト、仏ハ一寸ノ土地城塞ノ一石ヲ
 モ讓ルセサルヘシトノ宣言ヲナセリ、而シテ英、喫、伊等ノ中立諸國ニ對シテ
 調停ノ勞ヲトラン「ナホルメン」ハ「ロシヤ」ト協議シ喫及ヒ伊ニ懇會シテ
 交戰兩國ハ英ノ提出スル條件ヲ承諾スルノ見込ナキヲ以テ調停ヲ試ミル

ヲ碎セリ、然レトモ *Frank* ハ英ノ國政ニヨリ媾和談判ノタメ普ノ大本
營ニツキ「ビスマルク」ト會見スルニ至レリ、

九月十九日及二十日、*Chateau de Ferrières* ニ於ケル「ビス
マルク」ト *Frank* 間ノ會見ニ於テ *Frank* ハ媾和條件ヲ定ムルタメ
仏ノ國民議會ヲ召集スルノ目的ヲ以テ休戦ヲナス「ビスマルク」
ハ媾和ニハ「アルサス」全体並ニ「ローレン」三分ノ一割讓ヲ要求シ休戦ニハ
「トラスブルグ」*Gene* 等ノ要地ヲ放棄ヲシテ占領セシメ「メツツ」方面ノ戰
闘ヲ繼續スル「ラ」要求セルヲ以テ談判ハ結果ナクシテ終レリ、國防政府ハ九
月十七日ニ其ノ分「*Tours*」ニ設ケルニ至リ *Frank* ト「ビスマルク」トノ談
判カ不調ニ終レル後國防政府ハ終局マテ戰闘スルニ決セリ (*guerre a
autruiance*) 九月二十日「パリ」ハ全ク普軍ノタメニ包圍セラレ、
ニ至レリ、

國防政府ハ *Thiers* ヲシテ政諸國ヲ巡歴セシメ國防政府ヲ承認セシメ
諸強國ノ干渉又ハ調停ヲ求メ出未得ヘクハ仏ノ全盟國ヲ求メントセリ、
Thiers ハ九月十二日「パリ」ヲ發シ先ツ英ニ赴キ「*Tours*」

帰リタル後更ニ北伊ヲヘテ境ノ *Vienna* ニ達シ *St. Petersburg* ニ向ヒ
更ニ *Vienna* ヲシテ *Belgrade* ニ向ヒ十月二十一日 *Tours* ニ歸
シリ、其ニ於テハ人心漸ク仏ニ同情スルニ至リタルカ英政府ハ調停ノ成立
スルノ望ナキ故ヲ以ツテ調停ヲ行フコトヲ辞シタリ、而シテ國防政府ノ承
認ニ至リテモ仏ノ國民議會カ先ツ承認スルヲ待タフトセリ、伊ニ於テハ
Victor 戰ノ結果仏ノ *Napoleon* カ捉ヲ失ヒタルニ乘シテ一八六四
年九月ノ条約ヲ無視シテ一八七〇年九月廿日遂ニ *Roma* ヲ占領スルニ至
レリ、

而シテ國防政府ハ伊カローマ占領ヲ行ハルコトヲ悦ハサルノ意向ヲ表示
セル故 *Thiers* 一個ハ伊ニ於テ頗ル歡迎セラレシニ不拘仏ノ為ニ何ヲ得
ルトコロマルコト得サリキ、壇ニ至リテハ仏ノ為ニ調停ヲ為サント欲スルノ
意アルモロシヤヲ憚リテ動クヲ得ス、且ツ *Thiers* ハ仏ノ敗勢ノ挽回シ
難キヲ認メサルヲ得サルヲ以ツテ壇方面ヨリ何等ノ約束ヲ得ルヲ得サリキ
ロンヤハ *Thiers* カ最も望ヲ爲スル國ニシテ當時ロシヤハ独乙ノ成功ニ
對シテ稍缺情ヲ狹サルニテラサレモ一八五六年パリノ条約ノ黑海中立ニ于

スル定款ノ改正ヲ列國ヨリテ認ムルニ苦心レ莫ムノ接近ヲ妨ケント欲シ。
Thiers ニ勸告スルニ列國ノ干渉ニ頼マズシテ *Poincaré* ト直接談判ヲスル
 ヲ以ツテロシヤカ仏ヲ庇護スヘキノ状ヲ示セリ蓋シロシヤハ直接談判ニヨ
 リテ独乙カ苛酷ナル条件ヲ提出シ仏カ之レヲ承諾スルヲ難スルニ際シテ巧
 ニニ調停ヲ容レシレヲ機會トレテパリイ條約改正ノ素志ヲ達セント欲セリ。
Thiers 、ノ返答、結果ハ別ニ仏ノ利益トナルモノナクロシヤ政府ノ
 ヌフコトニ蒙レキ列國干渉ニ依頼シテ独乙ト直接談判ヲ行フコトニ決意セ
 ルカロシヤハ莫ニ仏コ対シテ仏ヲ庇護スルノ意思アルコトナリ單ニ英仏ノ
 間ニ裂クニ欲セルナリ。 *Thiers* ノ頓悟中九月十二日 *Jules Favre* 、ハ
 中立諸國カ聯合シテ調停ヲ爲シ改定アレハ聯合干渉ヲ行ハンコトヲ求メン
 トシ英ニ談判セルカ *Favre* 九月六日ノ宣言カロスライヨ爲シテ英ハ調
 停ノ義務ニ尽スヘキヲ聯合干渉ノ如キハ其ノナス能ハサル也ナルコトキテ動
 カサリキ。然ルニ *Stansbury* 臨リ独乙軍ハソノ大本營ヨ *Yverdon*
 ニス。 *Nieky*、モ本カカラントスルノ勢ヨ至シ英境等ノ諸國ニ於テ仏ニ
 對スル同情カ盛ニニ表示サル。ニ至リ *Poincaré* ハ干渉ノ至ラントスルヲ恨ル

ニ至レリ。 *Touss* 出張ノ外交事務ニ當リオリシ外交官 *Chaudordy*
 ハ十月十五日ニ於テ *Thiers* カ諸國ヲ遊歴シ殊ニロシヤト談判ヲ行ハル
 ヲ利用シテ仏ノロシヤノ接近ノ恐レニ依テ英ヲ動カシ英ヲシテ先ツロシヤ
 ト媾和条件ニツキテ改定ヲナサシノテ後ニ中立諸國ヲ聯合シテ干渉ヲナサ
 シメント計レリ。

境及使ハ英カ中立國ヲ列ネテ調停ヲナサント欲スルコトアラハセニ意シ
 テ立ツノ政勢歴然タルモノアリシカロシヤハ英ノ外交上ノ成功ヲスルコト
 ヲ悦ハスレテ英ノ照会ニ對シテ媾和条件ニ于テ中立諸國ニ協議ヲ行フコト
 ヲ以テ無益トナシソノ交戰國間ノ直接談判ニヨリ定マルニ委スヘキコトケ
 リ。

英政府ハロシヤノ意見ヲ徴シテ後先ツ仏ヲシテパリイノ襲撃ヲ免レシメ
 媾和条約ヲ決スヘキ國民カ会ヲ召集スルタノニ体面ヲ行ハシムルヲ以テ意
 務トナシ *Poincaré* 政府ニ對シテ休戦ヲ請ヒ且ソノ条件ヲ適當ニスルコトヲ苛ニ勸
 告スルノ舉ニ出テタリ英カ中立聯盟ノ消極的態度ヲ脱シ意ニコノ契ニ出テ
 タルハロシヤカ独リ仏ノタノニ努力スルトキニハロシヤハ西國ノ接近ヲ

致し英ノ不利甚ク議スヲ恐レタルニヨルモノ、如シ。

Tours ニ於テ *Jam-betta*、*Loire* 軍等ノ新ニ集ルル軍隊ニ
 ヲリ戦争ヲ継続セントセリ。 *Chiers*、ハ列國並テノ後 *Tours*、ニカノ
 リロシヤニ依頼シテ *Pa*、トノ直接談判ニヨリ媾和ヲサント欲シ *Chas*、
Hardy、ハ三トシテ英ニ頼リテ中立國ノ聯合ヲ涉ヲ入レシメントセリ。然ル
 ニ *Tours*、ノ説騰ヲ制シロシヤニ依頼セントシテ英ヲ疎外スルノ軌跡ヲラ
 ハレシヨリ英ハロシヤカ聯合運動ヲ欲セス且ツ独力ヲ以テ仏ヲ擁護スルノ
 誠意ナキヲ確カシテ後終ヒニ全ク消極的態度ニ復セリ。 *Chiers*、ハ休戦
 及媾和談判ノ準備ノタメ一旦包圍中ノパリニ得リ更ニ *Yauville*、ノ
Pa 大本營ニ至ル *Pa* 軍、*Safe-Conduct* 券ヲ發シテヤコウシテ得
 ルコトヲ求メ *Pis*、ハセテ英ノルニ *Mety*、ノ陥落ヲマケ且ツ、ヒニ之ヲ
 與フルニ對シテモロシヤヲ以テ之ヲ與フル機會ヲ利用シテ仏英ノ干保ヲ
 裂カントセリ。斯ノ如クシテ仏ハツヒニ再度孤立シテ獨ト直接談判ヲナス外
 策ナキニ至レリ。

一八七〇年十月廿七日 *Mety*、ニ圍城セル *Boyraine* 對早ハ糧食ヲキ

レカトナシ七萬三千ノ兵ト共ニ *Pa* 軍ニ降レリ。之レヨリ先 *Pis*、ハ英ニ
 アル *Ma*、右 *Jugenie*、ヲ相手トシテ談判スルノ風ヲ示シ之レト一
 定ノ媾和條件ヲ規定シタルハ *Mety*、ニアル *Boyraine*、ノ軍ヲ *Bonne*、
paeti、家帝國軍兵ノタメニ之レヲ保存スト意アル如キヨソホト以ツテ
 眩日強ククセシメツヒニ之カ圍城ノヤムヲ得サルニ至ラシメタリ。

Chiers、ハ一八七〇年十月三十日 *Paris*、ニ入り攻圍ヲ受ケタル各要
 一二食糧ノ補給ヲナシ且ツ *Pa*、ノ各台領地ヲミ合セテ仏全國ニ於テ國民
 議會ヲ行フ條件ノモトニ媾和スルキヲ決シ十月三十一日 *Benoilles*、
Pa、ノ大本營ニ赴キ *Bis*、ノ談判シ十一月二日大休ノ議ハ要求セルカ十
 月三十日ニ於テ *Paris*、ニ市民ノ暴動起リトノ報達シ *Bis*、ハ國防政
 府ノ媾和スル知識ハ仏國民ノ承認スルトコロノ担保ナク休戦ハ軍ニ仏ノ戰條
 ニ便ナルニ止マルノ惧マルコトヲ理由トシテ糧食補給ヲ拒絕スルニ至レリ
Paris 政府ハ *Chiers*、ヨリテ談判ヲ止メテ *Benoilles*、ヨシテ
Tours、ニ帰ラシメタリ。十一月七日 *Chiers* 軍、ヨシテ第一回ノ
 休戦談判モ失敗ニ終レリ。

▲ルコトヲ目的トシテ全般的休戦条約調印サレタリ。之ヨリParis、カド
 時ニ致シ至ニ占領ナル、コトヲ免シ糧食ノ補給ヲナスヲ得タルモ其ノ周囲
 ノ砲臺ハ凡テ独逸軍ノ手ニ陥ルParis、Regulassimie、正規兵ハ
 一万二千ノ人ヲ除キテハ皆停戦トナリParis、ニテニ使コランコト
 セリ、名ハ休戦規約ナルモParis、ニテテハ一種ノ降服規約ニスキス休
 戦ハパリニ於テハ即日ニ行ハレ地方ニ於テハ二日後ニ開始スルモノトセ
 リ、此ノ休戦ハ仏全体ニ亘レモBelmont、附近ハ除外サレタリ、(

Bozobaki)

一八七一年二月八日國民議會ノ選挙行ハレ十二日ニハ國民ノ議會カBel
 mont、ニテ開カレタリRoume、ハ國防政府ヲ代表シテ政權ヲ國
 民議會ニカシセリ、二月十七日ノ會議ニ於テThiers、ヲ以テ仏共和國ノ
 臨時長、首相 chef du pouvoir executif、トナレ新政府ヲ組
 めセリ、莫、壇、仰ハ直々ニ新政府ヲ承認シ及ハクモナク他ノ諸國モ承認
 ヲ行ハシ

Thiers、Roume、ト夫ニ議和全權委員トシテ二月廿一日Bour

elles、ト著トテ直々ニ議和談判ヲ開ケリ、Bis、ハ議和ノ条件トシテ、
 alsas、ノ全部及ビLorraine、ノ大部分ノ割譲及六十億フランノ償金
 ノ要求セリ、Th、ハコノ条件ヲ以テ苛酷ナリトシ独逸ニ訴ヘシモ結果
 ナク、Bis、ト、談判ニ於テMetz、ヲ保有スル事ニ努力セシモノノ
 目的ヲ達セカリキ、Belmont、ヲ保有セントシテ争ヒ、Bis、Bel
 mont、割譲ト独逸、Paris、侵入ノ二者ニツキテ擬振スヘキコトヲシ
 ヲTh、直々ニBelmont、ヲ保有ヲ望コトヲ備ヘタリ、Th、ハ
 本償金ヲ五十億フランニ減セシムル事ヲ得タリ、二月二十六日議和予備條
 約、Bonnelles、ニ於テ調印サレタリコノ條約ニヨリ仏カ、Alsas、
 ノ全部(Belmont、ヲ除キ)及Lorraine、ノ大部分ヲ獨逸ニ割
 譲シ、五十億フランノ償金ヲ拂ヒ条約履行ノ担保トシテ独逸軍カ償金ノ支
 払ハルマテ台領ヲ行フヘキコトヲ約セリ、本別ノ約束ニ依リ三月一日ヨ
 リ批准交換ノ後ニ至ルマテ独逸カパリニ入りテハ其ノ一部ヲ台領スヘキ
 事ヲ約セリ、然ルニ独逸ハ二日ニパリニ入ラントセシニ三月一日、Bon
 nellles、ノ國民議會カ議和予備條約ノ批准ヲ行ヘルヲ以テ独逸ノ一部ハ

パリーニ入レルカ独帝ハ入軍ヲ行ハスレテ止ミ批准交換ノ行ハレタル三日
、午前中ニ独軍カ Paris、ヨリ撤退セリ。

独軍パリーニ撤退セル後イクバクモナクパリーニ Commune、乱

起リ備和本条約、締結ニ付シテ大イナル防害ヲナセリ、三月ノ米ヨリ開始

セル、 Bruxelles、ニ於ケル備和本条約ノ談判モ結果ナクレテ五月四

日終了セリ、五月六日ヨリ更ニ Frankfurt a. m.、ニ於テ Faver

、 Bis、トノ間ニ談判由ケレタリ、五月十日備和本條約締結サレタリ、

二十一日批准交換ス、 Frankfurt、ニテ行ハレタリ、備和本條約

後本条約ノ締結ニツキテ第三國ハ殆ント閑與スル知ナリ、殊ニロシヤハサ

キニ Thiera、一國約セル知ナリニ不慮モ實際ノ助力ヲ与ハス軍

ニロシヤ帝カ備和本條約ヲ寛大ニスルコトヲ勸告スルノ書簡ヲ Pr. 王ニ

送レルニ止マレリ、独帝ハ備和本條約ノ締結後ロシヤ帝ニ謝辞ヲオケレリ、

Pr. 独戦争ニヨリ Pr. 南北独シヲ統一スルノ目的ヲ達シ独皇ノ領土ヲ大

ニ世界政策 Weltpolitik、ニ導スルノ基礎ヲツケレリ備和本條約ノ當時ニ

於テハ独ハ Bis、所ニ能知ノ状態、 Saturated Condition、ニ

ナリテ歐、現狀維持ヲ求メタリ、 (status quo) 仏ニ於テハコノ戰ニ

ヨリテ帝政例ニ失和政治トナリ領土ヲ失ヒ償金ヲ払ヒ歐ニ於ケル外交上重

重ナル地位ヲ失フニ至レリ仏独ノ向ニ alao Bournaise、問題ナ

ルモノヲ生セリ、

普仏戦争ノ向接ノ影響トシテ、 Sedan、一戰ノ後一八七〇年九月二十

日伊軍ローマニ入リローマ教会ハ國家タルノ資格ヲ失ヒ何統一ノ事業コ、

ニ完成セリ(伊人ハカクエハスレテ independentism 即 Italia in

edentia、未ク回復セサル伊太利ナル運動ヲナセリ)亦ロシヤハ Italy

ノ陥落後一八七〇年十月三十一日黑海中正ニ貞スルベリ条約ノ締結ヲ終

トスルニ定言ヲ發シ London、會議ニ於テ條約ノ尊重ニ貞スル國際法

上、原則ノ闡明サレタルニ不保、ロシヤハ實上黑海中立ヲ廢止スルノ目

的ヲ達スルヲ得タルナリ、 Frankfurt、備和本條約締結後仏政府ノ

急務トセルトコロハ独皇古領軍ノ撤退ヲナル事ニヤリ、而シテ Prussia、

ハ國債ヲ起シテ撤退ト條件タル償金額ノ支払ヲ早クシ(外相 Leon St

ay 行フ)一八七三年九月ニ至リ独軍ノ撤退ノ目的ヲ達スルヲ得タリ、

二〇六

他國ハ革命戦争後現狀維持ヲ求メ自ヲ孤立セシムルヲハカリ壞存並ニ口
シヤト相近ワカントセリ、自カ戦争ノ瘡痕ヲイヤス事予想外早カリシニヨ
リ他ニ於テハ自ノ復讐ヲ恨レ *Bis*、ハ益々自ヲ孤立セシムルヲニ努力
スルニ至レリ、

一八七二年九月、新ニ東欧ノ *Orthodoxism*、三帝同盟及ヒ
後ノ三帝同盟 *Orthodox*、ノ如キ、*Bis*、ガ主トシテ自ヲ孤立セシメ
ントシテ作レルトコロナリ *Bis*、ハ壞ノ併ト接近スル事ヲ妨ケント欲シ
一八七一年八月他帝ヨリテ壞帝ヨ *Jaell*、ニ訪ハレテ壞帝ハ九月上旬ニ
他帝ヨ *Salzburg*、滞在中ニトハリヌ *Bis*、*Brest* 及 *Austria*、
Sing、ト *ipstein*、ニ於テ会見ヨナシタリ、コ、ニ於テ普壇カ最近
キレカ壞カ *Panlaurian*、ノ運動ニ對シテ疑懐ノ念ヲ抱キ止ソ出来得
トシ *Balkan*、方面ニ於ケル進取ノ策ヲ奉セントシ中歐ノ現狀維持及
ビロシヤトノ安懷ヲ求ムル故意ナルニ兼シ *Bis*、ハ一八七二年九月上旬壞
帝 *Francis Vancis Joseph*、ヲ以テ *Berlin*、ヲ訪ハレ
タロシヤ帝カ社会党ノ運動ヲ恐レル、ニ兼シ君主制度ノ三帝國カ相結シテ

革命党ヲ鎮圧スルノ必要ヲトキロシヤ帝 *Alexander II*、壞帝ト時ヲ
合フレテ *Berlin*、ニ至ルヲホノツヒニ三帝及三首相ノ命令トナレリ、
三國ノ間ニ大急ヲ交換シ第一三國カ懐カシテ最近ノ条約ニヨリ定マルモ改
ノ現在ノ國境ヲ維持スルハ他カ最も利害ヲ感スルコト、第二將來改ニテ榮
出スルノオソレアル難肉懸ハ投全的ニ処理スルコト、第三諸國ノ君主ニ危
險ヲ加フル惧アル革命党ノ運動ヲ鎮圧センコトヲモトメタリ(露西亞帝最
モ壞ル)コレ *Ag*、三帝同盟ノ名ヲ以テ知ラレ、トコロナルガコノ結合ハ
十九世紀ノ初ノニ於ケル東欧ノ三國ノ結合、如ク鞏固ナルコトヲ得ス、又
莫ニ同盟ノ性質ヲ加ストエツヲ得ス(即チ應援義務發生条件 *Causes for*
edensis、カ差マリ居ラス)

一八七二年ノ所謂三帝同盟以後ハクモナク他國ノ間ニ於テ壞
ノ一八五九年及一八六六年ノ戦争ニ於ケル損失ニ加ハテ *Balkan*、半
島ニ於テ適當ナル代價ヲ得セシムル懸念ノ密約出キタリト称セラル、
自ニ於テハ *Bonaparte*、家ノ帝國 (*Imperialist*) 信シ、
Napoleon III、一八七三年一月美ニテ容死セルカ國政ニ於テ王政也、

Royalist, (プロボニ系白統コタツ) カ勢カヲ有シ共和党ト事ト *Orléans*,
 王政党、推戴セシ *Mac-Mahon*, 兼ルトコロトナリ。 *Bismarck*
von, 兼、 *de Comte de Chambord*, カ三色旗ヲ國旗トシテ認ム
 ルヲ肯セサレヨリ王政党、謀叛トテ *Orléans*, 兼、 *Paris*, 伯カ候補者
 トナリシカ更討者ヲ存シ依リニ大統領任期ヨ七年トシテ以テ尚懸ノ決定ヲ
 延期セリ、政体向題ニツキ紛擾ヲ極ノシモハ一八七四年ヨリ七五年ニ互
 リテ軍備拡張ヲ実行シ兵力ヲ回復ヨハカレリ、
 独乙ニ於テ軍人、固ニ仏ノ復讐戦争ノ必ス到ルヘキコトヲ信シ極先ヨ制
 シ仏ノ傷疾ノ未ク癒イサルニ當リ爾ビ之レヲ生色ナキマテ血ヲ出サシムル
 所謂予防戦争、 *Preventive war*, ニヨリテ仏ノ爾後ノ力ヲ奪フヘ
 シトスルノ論議ニナリキ、

一八七五年五月十二日ニ於テ仏ノ議會カ各群隊ニ第四ノ大隊ヲ増設スル
 コトヲ議決スルヤ独仏國間ニ四、五月ノ境ニ危機印迫スルニ至レリ、當時
Bismarck, ハ必ス開戦ヲ敢サント決意セルヤ否ヤハ不明ナルモコノ豫仏ヲ威脅
 シテ之ヲ永ク攻撃的態度ニ出ワルコトヲ断念セント欲スルモリ、如ク

獨カ戰ヲ開始スルニ至レトスルモ、 *Bismarck*, ハ必スシモモ之レヲ在ハサリシモ
 〃如シ、 *Bismarck*, ハ新聞ヲ利用シテ人々ヲ激昂セシメ又ソノ腹臣、 *Rad-*
cliff, ナンチ *Pr*, 輕刺ノ仏大使 *Yontant-Brown*, ニ独逸軍人派
 ノ計画ナルモノヲ洩ラサシメ而シテ諸強國ノ開戦ノ際ノ態度ヲ探ラント欲
 セリ、殊ニロシヤニテハ、 *Radowitz*, ヲ使ハシテソノ態度ヲ探ラ
 シメタリ、

仏ノ外務大臣、 *Ducasse*, ハ深クロシヤ帝ニ依頼シコレニ事情ヲ訴ヘ
 テ保護ヲコナリ、ロシヤ帝ハ仏ニ對シテ全情ヲ表シソノ、 *Emu*, ニ赴ク
 邊上、 *Berlin*, ニ於テ独乙帝ニトクトロマリキ英政府モ伊及奧ニ對
 シテ、ロシヤ帝ノ各カスルコトヲ求メ莫ク女皇ハ各輪ヲ獨逸帝ニ致シテ平
 和ノ維持コトヲ當時幸ナキヲ得タリ、コノ折ニ *Yont-Schokoff*, カ
 列國ニマルロシヤノ大使ニ回章ヲ奉シテ一ツニロシヤヤ、 *Pr*, ニ對スル
 態度ニヨリ平和ノ確保セラル、ヲ得タルカ如キ言ヲナシ、而シテ之レヲ世
 〃公ニセシコトハ、 *Bismarck*, 感情ヲ害スルコト大ナルモノマリ、且ツロシ
 ヤカコノ事件ニ於テ仏ヲ弱ムルヲ欲セサルコトヲ示セルヨリ東歐三帝ノ結

合カ位違ノ仏ヲ屈服スルノ政策ニ便ナラサルコト明白トナレリ。ロシヤ独
逸カ相違ヲカリ。ロシヤ仏相近クノ傾向カコノトキヨリ明白トナリ。Bel
gium、會議以後ロシヤ独逸ハ相互ニ重難スルニ至レリ。

第四章 ロシヤ土耳其戦争及伯林會議

土耳其ニ於テハ一八七五年七月土耳其政府ノ官吏ノ挑改カ近因トナレリ
「ハーツエゴビナ」ノマソ教徒ノ叛乱ヲ生シ「ボスニア」ニ之カヒロカリ
此等地方ノ人民ト人種宗教又ハ文化ヲ合シウセル「モンテネグロ」「セル
ビア」「ブルガリヤ」ノ人民ハヒソカニ叛乱ヲ授ケタリ。所云三國帝盟ニ
屬スル東欧三國(独、奥、普)ハ叛乱地方ノ人民ノ要求ヲキ、テ之ヲ土耳
古政府ニ依違スルコトヲ擬義セリ、土耳其ハ十月ニ至リ自ら改革案ヲ公ニ
セリ

東欧三國ハ行政改革ノ案カヲ信スルヲ得ストナシテ奥ノ *Andrievich*
ノ首唱ニヨリテ三帝公盟ノ三國ノ首相方改義シテ土耳其ノ内政改革ニ關ス
ル所云 *Andrievich* *note* ノ案ヲ作りテ英、仏、普三國ノ公意ヲ求
メタリ、英ハ初メ躊躇セシモ終ニ之ヲ承認シヨリテ三國ハ一八七六年一月
三十一日之ヲ土耳其政府ニ提出シテ之カ採用ヲ促セリ

土耳其政府ハ大体ニ於テ之カ採用ヲ承認シ且ツ改革ノ実行ニ関スル勅令ヲ發セリ、然レトモ土耳其政府ノ改革実行ノ誠意ナキコト明白ナルヲ以テ地方ノ叛乱ハ鎮定ニツカステ却テ益々甚シキヲ加ヘタリ

英ニ於テハ當時 *Disraeli* (*Baconophilus*) カ政府ニ當リ「ロシヤカ「バルカン」半島ニ勢力ヲ伸ハシ英ノ地中海ノ権力ヲ動カスニ至ランコトヲ慮レテ土耳其國境ニ関スル現状維持ノ主義ヲトリ(領土保全ノ主義)土耳其ニ勸告スルニ速カニ「ハーツエゴビナ」ノ叛乱ヲ鎮メルコトヲ以テシ「ロシヤ」ニシテ土耳其ヲ侵サハセト戰フヲ辭セサルノ態度ヲ示セリ

奥ハ土耳其ノ保全ヲ求ムルニ熱心ナラサルモ「バルカン」半島ニ於ケル「スラヴ」人種ノ擾乱カ奥國國內ノ「スラヴ」人ニ対スル奥國ノ統治ヲ危フセンコトヲ懼ルルヲ以テ「バルカン」ノ擾乱ノ蔓延ヲ恐レ又後日俄國ヲ得テ東南ノ方ニ其ノ勢力ヲ擴ケントスル野心アルヲ以テ土耳其領土ノ「スラヴ人種」ノ民族的独立ヲ遂ケルコトヲ喜ハス、故ニ暫ク土耳其ノ國境ニ於ケル現状維持ノ主義ヲ採ラント欲セリ

「ロシヤ」ニ於テハ人民モ宗敎人種ヲ公シフセル人民ノ運動ニ對シテ全情ヲ合シ且ツ政府ハ「バルカン」半島ニ勢力ヲ振ケルノ意思ノタメニ「スラヴ人種」ノ諸人民ノ叛乱ヲ利用セント欲セリ

故乙ハ當時尙ホ國民ノ統一ヲ企フシムノ機運ニ備フルコトニ努ラニシテ殊方問題ニ冷淡ナリ、故ニコノ問題ニ関シテ他國間ニ軋強生スルヲ喜ヒタリ、三帝公團ノ維持ヲ嘗スルニ至ラサル限リハ「ロシヤ」奥國ノ利害カ相互ニ一致セサルコトモソノ調停者トシテ双方ニ對シ勢力ヲ行ヒ得ルノ點ヨリ必スシモ憂フル處ニ非ス、而シテ「ロシヤ」カ東方問題ノタメニ國力ヲ勞スルコトハ寧ろ口悅フトコロナリゾレ故ニ故乙ハ寧ろ叛乱ヲ悦ヒ居タリ

故ハ戰敗ノ余リ國力回復ニ努メトシテ外交上ノ勢力恢復タタルノミナラス「ロシヤ」ニ對シテハ予防戰等ニ對スル恩義アルヲ以テ之ニ反對スルヲ憚レリ、一八七六年ノ春、叛乱止ムノ叛勢ナク「ロシヤ」ハ奥ニ復義スルニヨリ、露古新ナル内政改革案ヲ土耳其ニ提呈シ而シテ土耳其ニシテ之ヲ實行セサルトモハ列國カ之ヲ強行セントスル旨ヲ通知セント欲セリ、故乙ハ此ノ提義ニ賛成セシモ奥國ハ強行ヲ欲セスシテ之ヲ拒絶セリ、然ルニ五月

上野「サロニカ」ニ於テ土耳其人暴動起リ、俄領事カ虐殺サレタリ、タ
 マノ、三帝同盟ノ三首相ハ柏林ニ会シテ東方問題ヲ議シ、是リシカコ、ニ至
 リ「ボスニア」「ハーツエゴビナ」ニ関シテ俄領ノ意ニ於テ俄領地人ノ人
 民ノ要求ヲ採用シテ所云 *Berlin Memorandum* ノ要ヲ作
 リテ土耳其ヨシテ叛乱地方ノ人民ニ休戦ヲ告ハシ、ソノトヒリ
 俄領事館中ニ於テ土耳其ニ対スル要求事項ヲアケニケ月間ニ目的ヲ達スル
 條ハスシテ土耳其政府ヲ復判スルノ必要アレハ外交手段ニ次クニ有効手段
Threats of a Measurement ヲ以テスヘシト云ヘリ、而シテ五
 月十三日ニ英、仏、伊ノ公意ヲ表メタリ、英ハソノ意ヲ提メ、土耳其ニ
 対スル列國ノ干渉ヲ生シ終ニ「ロシヤ」ノ野心ニ機會ヲ與フルニ至ルヘキ
 ヲ恨レ五月十九日ニ於テ俄領此ノ意ヲ對シテ不同意ヲ告ヘタリ、其他五
 強國カ軍艦ヲ「サロニカ」ニ派遣スルメ、英ハ五月二十四日別ニ艦隊ヲ *Black Sea*
 灣ニ派遣シ列國艦隊ノ警動ヲ窮ヘリ、茲ニ於テ俄領調ナルメ、
 破レ「ベルリン」意旨ハ終ニ土耳其ニ提メサレシテ了レリ
 英ノ土耳其ヲ振ケルノ態度ヲ示セルコトハ遊々土耳其ノ「ブルガリヤ」

人虐殺ヲ論ヒ、ソノ一ツノ動機トナレリ、之ヨリ先四日ノ頃「ブルガリヤ」
 ノ一地方ノ暴徒カ土耳其人ヲ虐殺セルコトアリシカ、土耳其政府ハ茲ニ至リテ大
 規模ノ復讐的虐殺ヲ行ハシメ「ブルガリヤ」人ノ虐殺サレルモノ一萬五千
 ニ上レリ、「ロシヤ」メ、ソノ「ブルガリヤ」ニ於テ五月二十九日ニ *Jubilee*
 ナド *abolished* *slavery* ハ海外ノ議論若シタメニ秋サレテ之ニ代リテ立
 テル *murder* 本八月三十一日ニハ廢サレタリ
 六月二十二日ニ「セルビヤ」カ土耳其ニ對シ *ultimatum* ヲアケ
 リ「モンテネグロ」モ之ヲナラヒテ七月三日以後俄領行ハレタリ、之ハ「
 セルビヤ」「モンテネグロ」ノ人民カ「ブルガリヤ」人虐殺ノ行爲ニ對シ、
 勇シ且ツ「ロシヤ」ノ救援アルヘキコトヲ期待スルニヨリテ起ラセルト
 ニロナリ
 英ニ於テハ自由黨「グラッドストーン」ノ *Orinacoli* ノ土耳其援助
 ノ政策ヲ批難シ、之ヲ以テ「バルカン」半島ニ於ケル不幸ナル「マン」教民
 ニ禍ナスモノトナシ自由黨 *liberal* ハ土耳其ニ對スル干渉政策ヲ主
 張シ *Conservative time* 政府モ本英論ニ利セラレ一時 *J. A. Mack* ニ代
 ニ一々

政改革案ヲ提出スルニ至リシカ土耳古政府ハ改革ノ空約ヲナシテ一時ヲ經
 途セントヒリ、「ロシヤ」帝ハ東ノ土耳古ニ願イテ協ケント欲シ「ビスマ
 ルク」ノ勸メニヨリ一八七六年七月十六日ニ *Reichstadt* トニ於
 テ英帝ト相会シ兩國ノ首相 *Disraeli* *and* *Count* *Shuvalov* モ亦会
 合セリ、コノ折ニ「ロシヤ」兵力ヲ以テ土耳古ニ干渉スル場合ニ於テ英ハ
 一定ノ条件ノモトニ「ロシヤ」ニ對シ好意的中立ヲ守ルハキコト約束シ且ツ
 若シ「ロシヤ」カ「ブルガリヤ」ヲ独立セシメ之ヲソノ保護ノ下ニ立タシ
 ムル時ハ英ハ「ボスニア」「ハーツエゴビナ」ヲ占領スヘキコトヲ約束セル
 モノノ如クソノ後コノ趣意ノ条約カ一八七七年一月十五日「ブダペスト」
 ニ於テ調印サレシモノノ如シ (*London Convention*)
 一定ノ条件トハ
 (1) 土耳古内ノマソ教派ニ對スル保護權ハ何國ニモ專屬セサルヘク諸國ハ
 戰爭ノ結果ニツキテハ諸國カ決定ヲナスコト (ロシヤニ独占ヲ許ササ
 ルコト)
 (2) 「ロシヤ」ハ「ダニウブ」ノ右岸ノ地ヲ併スコトナカルヘク「ルーマ

ニヤ」領土保全ヲ尊重スヘク「コンスタンチノールブル」ニ敵レサルヘシ
 (3) 「ロシヤ」カ「バルカン」半島ニ於テ新ダニ「スラブ人種」ノ國ヲ作
 ルトスルモ「スラブ」人種以外ノ人種ヲ害セサルハキコト、又「ロシヤ」
 ハ「ブルガリヤ」ノタメニ特別ノ權利ヲ要求スルコトナカルヘク諸國ハ
 「ロシヤ」埃ノ皇室ヨリハソノ君主ヲ殺スコトナカルヘシ
 (4) 「ロシヤ」ハ「ブルガリヤ」ノ西方ノ地「セルビヤ」方面ニ軍事行動
 ヲ振クルコトヲセズ、ナルモノノ如シ、(ハンガリー首相 *Deak* ノ言
 ニヨリ)
 「ロシヤ」帝ハ又被乙カ管ツテ普埃戰爭、普仏戰爭ノ際ニ「ロシヤ」ニ
 對シテ恩義アリ、又「ビスマルク」カ東方國賊ハ救ズノ利害ニ關係セサル
 コトヲ公言セルヲ以テ被乙カ中至ヨリ且ツ「ロシヤ」ノタメニツクスヘ
 キコトヲ信シ居リシナリ
 英ハ「ロシヤ」埃ノ提擧ヲ見送カニ時局ヲ終局セシメント欲シ列國ト埃
 埃ニ土耳古ヲシテ「セルビヤ」「セシテネグロ」ト知識ヲナサシメントシ先
 ツ林戰ヲナサシムルニ尽力セリ、土耳古政府ハ利益ノ意見ノ一教ヲ見サル

ヲ以テ英府ノ勅告ヲキカス英政府ハ諸國ト改議シテ彼九月二十一日「セルビヤ」「モンテネグロ」ノ現状維持ヲ認メ「ボスニヤ」「ハーヴェエゴビナ」ニ行政的自治ヲ與ヘ「ブルガリヤ」ニ於テ執政ノ行ハレサルノ担保ヲ受ケタルコトヲ條件トシテ媾和スルコトヲ得、政府ニ勅告セシモ土耳其ハ容易ニ之ニ同意スルノ也ナカリキ

「ロシヤ」ハ聯合艦隊ヲ「ボスフォラス海峡」ニ入ラシメ「ロシヤ」カ「ブルガリヤ」ヲ占領シ埃ヲシテ「ボスニヤ」ヲ占領セシムルノ議ヲ發セシモ其ノ反對スルトコロトナレリ、「ロシヤ」ハ「セルビヤ」ノ危急ノ取勢ヲシテ「バルカン」諸民族ノ保護者トシテ之ヲ傍觀シ得ストナシ十月三十日單獨ニテ四八時間ヲ期間トスル *ultimatum* ヲ土耳其ニ送り「セルビヤ」「モンテネグロ」ニ對シテ二ヶ月ノ休戦ヲユルスヘゾヲ要求シ「トルコ」ハ止ムヲ得ス休戦ニ同意セリ、英ニ於テハ人民ハ「ロシヤ」帝ノ心事ヲ憂ヒ自由党ノ「トルコ」ヲ支持政策ハソノ聲ヲヒヨメ *Pinnelli* ハ十一月九日ニ *guild hall* ニ於テ東方問題ニツキテ競争カマサニ起ラントスルノ根レアル事ヲ公言スルニ至レリ

二二〇

之ヨリ先英政府ハ「ロシヤ」ニ沙シソノ單獨ニ「トルコ」ニ最後通牒ヲ發シタル行為ニツキ説明ヲ求メ「ロシヤ」ハ改諸國カ強硬ナル態度ヲトルレ一致スル能ハサルトキハ單獨ニテ行動スルノ外ナシトシ、タトハ單獨ニ行動スルモ「トルコ」領内ノマソ教徒ノ困難ヲ救済スルヲ目的トシテ在取ヲ行ヒ領土ノ拡張ヲナシヌハ「コンスタンチノープル」ヲ占領スルカ如キコトヲナヌノ意思ナセコトヲ説ケリ、英ハ十一月四日列國會議ヲ開キテ内閣改革ノ案ヲ具シテ聯合ヲ求メ「トルコ」ニ試ミルノ議ヲ提呈シ「トルコ」ノ独立及領土保全ヲ以テ改議ノ主台トナスヘント主張セリ

「ロシヤ」ハ十一月十八日ノ公文ヲ以テ土ノ独立及領土保全ハ人道ト「マソ」教國ノ威嚇ト一般ノ休息トヲ要求スル担保ニ妨ケナキ限リニ於テ之ヲ認ムハキモノトナシ「トルコ」ハ「マソ」教民ニ對スル一八五六年ノ條約ハバリ余約ヲ採ス能ハサルヲ以テ改議ハ履行ヲタシカムルヲ必要ナル範圍ニ於テハ「トルコ」ノ地位ニカハハルノ権利及義務ヲ有ストナセルモツイニ列國會議ヲ開クニ同意スルニ至レリ

列國會議ハ一八七六年十二月二十三日ヨリ開カレタリ、翌年一月十五日

二二一

「セルビヤ」「モンテネグロ」ノ領土ノ拡張「ボスニア」「ハーツェゴビナ」
 及北部「ブルガリヤ」ノ自治、南部「ブルガリヤ」(即東 *Roumelia*)
 ノ行政ノ改革、自治及改革ノ実行ニ至ルマテ「バルギー」人ノ憲法條ノ
 上述ノ処置、占領及之ヲ監督スハ、國際委員ノ設置ニ附スル會議ノ決議案
 ヲ土政府ニ提せセリ、土政府ハ之ニ応スルニ列國會議ノ開會ノ日ヲ以テ文
 附セル新憲法(ニ稅制)ノ利益ヲ以テシ列國ノ担保ヲ入ルルヲ肯セサリ
 茲ニ於テ列國會議ハ七月二十日閉散シ大英國ノ代表者ハ「コンスタンチノ
 ープル」ヲ去レリ

「ロシヤ」ハ一八七七年一月三十一日ニ列國ニ電報ヲナシ列國カ共内的
 行動ヲナスニアラサレハ「ロシヤ」ハ兵力ヲ以テ之ニ當ルヘキコトヲ宣言
 セリ

二月二十八日ニ英ハ國施 *Good Office* ヲナシ土耳其ヲシテ「
 セルビヤ」ト媾和セシメタリ「モンテネグロ」ト土ノ間ニ媾和談判行ハ
 レシメ不調ニマレリ、「ロシヤ」ハ土ニ送ルハキ *Ultimatum* ニ
 ツキテ列國ト協議ヲナサントセリ、英ハ土カ之カ後諾スルヲ拒絶スルニ當

リテ共内的の圧迫手段ヲ加ルヲ認ムルヲ肯セズ且ツ「ロシヤ」ノ戦備ヲ撤去
 スルニツキ土カ先ツ戦備ヲ撤去シ約束セル改革ノ実行ヲ下メマラサルヘキ
 ノ保証ヲ示スヘキヲ主張セルニ対シ英ハ「ロシヤ」「トルコ」同時ノ戦備撤
 去ヲ主張シ英「ロシヤ」ノ間ニ容易ニ妥協成立セサリシカ「ロシヤ」ノ主
 張ニヨリ更ニ「ロンドン」ニ列國會議ヲ開クコトナリ一八七七年三月三
 十一日大英國ノ代表者カ合シテ「ロンドン」*Protocol*ニ調印
 セリ、コノ議定書ニ於テ諸強國カ「トルコ」ノ戦備ノ撤去ヲナシ且ツ改革
 ヲ可成速ニ実行スルコトヲ促シ又諸強國カ「トルコ」ノ約束セル改革ノ実
 行ヲ監視スヘキ事ヲ約束シ若シ「メソ」教民ノ運命ニシテ改善ナルノ事ナ
 ケレハ諸強國ハ「メソ」教民ノ幸福ト一敵ノ平和ノ利益ヲタシカムルニ最
 モ適當ナリト思惟スル方法ヲ共同ニ考慮スヘシトナセリ、コノ議定書ハ四
 月三日「トルコ」ニ提せサレタリ、其ハ此ノ議定書ニ *Declaration*
 ニ附加シ「ロシヤ」「トルコ」間ノ相互ノ戦備ノ撤去及紛議ノ平和的解決カナ
 ラサルトセハコノ *Protocol* ハ無効ノモノト認ムルモノトナセリ
 「ロシヤ」ハ又一一定ノ条件ノ下ニ戦備撤去ノ談判ノタメ使節ヲ「ロシヤ」ノ
 二二三

ノ首都ニ派遣スヘキノ要求ヲ「トルコ」ニ対シテ和國ノ宣言ヲ以テ行ハ
 リ、「トルコ」ハ四月九日ニ和國ノ *protocole* 「ロシヤ」ノ *Declaration*
 - *Declaration* ノ要求ヲ共ニ拒絶スルマ「ロシヤ」ハ単独ニ兵ヲ用フルコ
 トニ決意シ四月十六日ニハ「ルーマニア」ト和國條約ヲ結ビ「ロシヤ」軍
 ヲ其ノ領内ニ送ルコトヲ認メシメ四月二十四日ニハ「ロシヤ」帝ハ宣戰ノ
 詔勅ヲ發セリ。「ロシヤ」ハ茲ニ至リ歐諸國ノ要求ヲ拒絶セシ「トルコ」
 ヲ商榷スルノ名義ヲ得タリ
 「トルコ」ハ和國ニ向ヒ一六五八年「パリ條約」ニツキ調停ヲ求メシモ
 和國キカス「ロシヤ」軍ハ四月二十四日「ルーマニア」ニ入レリ「ルー
 マニア」ハ五月二十日獨立ヲ宣言セリ
 和、埃、伊及仏ハ中立ノ地位ニ立テ英之「ロシヤ」ノ行爲ニ對スル叛式
 的抗議ヲナセルモ五月六日英ノ實利ノ維持ヲ條件トシテ中立ヲナスコトヲ
 言明セリ *Ag* 實利ニ關スル條件トハ
 第一、「エゲプト」「スエズ」運河ニ取對行動ヲ及ボササルコト
 第二、「コンスタンチノーブル」ノ所屬ヲ棄セサルコト

第三、海峡ニ關スル *European rule* ニ着大ナル変更ヲ加ハサル

第四、「バルシマ海」ニ於ケル英ノ利益ヲ危フセサルコト
 等ナリ

「ロシヤ」ハ五月二日ニ對シ大體ニ於テ満足ナル答ヲ與ハシカ「ロシ
 ヤ」政府ハ自國ノ輿論ノためニ制セラレルヲ以テ土カ「マソ」ノ教民ヲ虐ケ
 サルノ担保ヲ得ルマテハ兵ヲ收ムルコトヲ得スト附言セリ
 「ロ軍」ハ六月二十二日「ダニヤ」ヲ越エテ土領ニ侵入セルカ土領ノ
Adman *passha* カ *prevezma* ノ等地ヲ守リ「ロシヤ」軍
 ヲ夫フルコト五ヶ月ニ亘リ十二月十日ツヒニ *pre* 陥ルマ「ロシヤ」軍
 ハ「アドリアノーブル」ニ進ミ一月三日ニハ「アドリアノーブル」ヲ陥レ
 タリ

土政府ハ *prevezma* 陥落、後巴里條約締結諸國ノためニ講和ノためニ
 調停ヲナスコトヲ請ハリ「埃乙」ハ「ロシヤ」ニ對シテ妥少タリトモ干渉
 ノ色彩ヲ帶フハ其行動ヲナスヲ好マサルヲ以テ之ヲ拒絶シ之カため和國ノ
 二二五

故調ナラサルニ、土ハ更ニ十二月二十四日ニ英ニ内ツテ周旋ヲ行フコトヲ
 求メ英ハ「ロシヤ」政府ニ紹介スルトコロアリシモ「ロシヤ」ハ媾和談判
 カ休戦談判ト共ニ軍隊司令官トモニ直接ニ土政府ノ行ハルハキコトヲ主
 張シ *Bismarck* ハ艦隊ヲ「ダーダネルス」海峡ヲ通過シテ *Malta*
Sea 海ニ入ラシメテ「ロシヤ」ヲ牽制セント欲セシモ凶貨中ノ異義アリ
 テ果ササリキ「アドリアノール」ニ於ケル「ロ」土間ノ直接談判ニミ
 リ一月三十一日休戦規約訂印サレタリ、名ハ休戦規約ト稱スルモノ中ニ
 ハ媾和条件ノ大要ヲ定メシモノ故媾和予備条約ノ性質ヲ有セルモノト云ハ
 サルヘカラス

英ニ於テハ「ロシヤ」ニ対スル主戦論熾ニシテ政府ハ英臣民ノ保護ノ名
 義トシ艦隊ヲ「コンスタンチノール」ノ「ブリミア」島ニオクレリ、埃
 モ又「ロシヤ」カ過大ノ利益ヲ取メントスルヲ見テ一八七七一年一月ノ条約
 ヲ遵守スルノ意ヲナキニ至ランコトヲ誤レ軍隊ヲ「ダニウブ」地方及び
Lybia 地方ニ集中シ英々一月三十日若英同ニ通牒ヲ送リテ「ロ」
 土間ノ条約ノ規定ニシテ政的条約 *European Treaty* ヲ訂カシ

且ツ一般の利害スハ英ノ利害ニ影響ヲ及ホス場合ニハ「パリ」条約訂印
 ノ諸国ノ全意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ有効ト認ムルヲ得サルコトヲ宣言ス
 ルヲ英ハ英ニ対シテ列国会議ヲ「ウィーン」ニ開クコトヲ提議セリ、列国ハ
 國際會議開催ニ異議ナシ、三月上旬ニ至リ列国會議ヲ「ベルリン」ニ開ク
 コトニ決セリ、三月三日ニ *Stam* *Aegyria* ニ於テ「ロシヤ」
 土間ニ媾和予備条約結ハレタリ、ソノ規定スルトコロノ實數ハ媾和条約
 ト比一ナリ、「ロシヤ」ハ此ノ条約ニヨリ十四億十四萬箇ノ借金ヲ得、シ
 トシ而シテ土政府ノ要求ニヨリ、十四億ニ加フルニ土地割譲ヲ以テスル
 コトニセリ、政ニ於テハ *Deponchia* 州「アジア」ニ於テハ *Constantinople*
and *Konst* *Rotum* 州地方ヲ割ハントセリ、マエヲシテ「モ」
 テネグロ」ノ独立ヲ承認セシメ、其ノ境土ヲ四倍ニシ「ロルビヤ」及「ブ
 ルガリヤ」ノ独立ヲ承認セシメ、テソノ領土ヲ增加シ、殊ニ土耳其ノ領土半
 ハヲ占ムハキ「ブルガリヤ」ナル自治ノ公國ヲ建設シ「トルコ」ノ *San-*
al *State* 州ノ名ヲ存シソノ實ハ「ロシヤ」ノ *protected state*
 トナサントセリ、政ニ於ケル土ノ領地ハ其ノ相互ノ間ニ陸地上連絡ナキ

「アルバニア」「ボスニア」「ルーマニア」ヲ「ブルガリア」ニ併合スルコトトセリ
 「バルカン」半島ノ変更ハ「バルカン」半島ニ於ケル
 「ブルガリア」人ノ以外ノ人民ノ不満トスルトコロニシテ「ロシア」ノ「バルカン」半島ニ於テ勢力ヲ加フルコトニカダメニ英ノ印度ニ対スル地位ヲ危フシ英ノ「スラブ人種」ノ住スル領地ニ対スル英若クハ危フスルモノナレハ英、埃西國ハソノ利益ヲ保護スルノ必要ヲ感シツヒニ列國會議ヲ「ベルリン」ニ於テ開カシムルニ至レリ。此ノ會議ニ於テ議スルハ事項ニツキテ申下リ

英ハ三月九日 *San Stefano* 條約全体ヲ會議ニ附センコトヲ要求シ「ロシア」ハ三月十二日及二十六日之ニ反対シ俄的利害ノ問題ノミヲ審議ニ附シソノ軍ニ「ロシア」土西國ノ利害ニ関スルニスキスト認ムル部分ハ會議ノ審議ニ付スル能ハスト宣言セリ。英ハ強硬ナル態度ヲ持シ三月二十六日ノ函議ニ於テ予備兵ヲ召集シ印度兵ヲ本國ニ呼ビ *Cyprus* 島ヲ占領シ且ツ *Lybia* 軍艦ヲ上陸セシムルコトヲ議決セルカ英、仏

仲ノミナラス故ニ至ルマテ會議ノ審議スルハ事項ニ関シ英ノ主張ニ傾ケルヲ以テ「ロシア」ハ遂ニ妥協的態度ヲ示シテソノ「ロンドン」駐劄大使 *Shervell* ハ英外務大臣 *Salisbury* ト談判シ英ノ *Cyprus* 島ノ占領及 *Lybia* 上陸ノ計画ヲ中止シ五月三十一日ニ於テ英露間ニ講和條件ノ大綱ニツキ協議出来タリ

安置スルニ至ルマテ *Cyprus* ヲ英國ノ占領及行政ノ下ニ置ク事、而シテ英國カ兵力的援助ヲ英フルノ報償トシテ土耳古帝ニ関シテハ亞細亞土耳古ニ関シテ耶穌教徒ソノ他ノ臣民ノ保護ニ必要ナル行政改革ヲ実行スルニモントセリ。コノ密約ハ「ベルリン」會議ニ關シテ重要問題ノ議定ノ終

「ベルリン會議」ハ六月十三日ヨリ開カレ七月十三日閉会セリ。大英國及土耳古ノ代表者集マリ独、「ビスマルク」與、*Andrassy* 「ロシア」*Gortala Roff*, *Shokanov* 英、*Disraeli*, *Salisbury* 普マリテソノ中ニ最も強クシハ *Disraeli*, *Gortala Roff* 普、*grece* *Roumania* ノ代表者ハソノ國

ニシ。

ノ關係スル問題ニツキ出席シテ意見ヲ述ブルヲ得タリ「セルビヤ」「モシテ
ネグロ」ノ代表者ハ委員會ニ出テ意見ヲ述フルヲ得タルノミ、大抵ノ議ハ
英「ロシヤ」間ニ開シテモ定マリシ後會議開カレシモノナレト巨費ノ事
項ニ関シ英「ロシヤ」ニ意見ノ衝突ヲ起セリ「ビスマルク」ハ調停ノ地位
ニ立テテ談判ノ破裂ヲ防キ自ラ *Konstantin Broderick* (*Dorchester*
Castle Walsley) ノ役目ヲナスト決セリ *gortshakoff* *Bestmunk*
ノ主張カ多ク密シラレサリシヨリ *gortshakoff* *Bestmunk*
ニ對シ不平ナラサルヲ得ス
「ブルリン」會議ノ結果タル「ブルリン條約」ハ七月十三日編印サレ、其
ノ要項ハ

(1) 「ブルガリヤ」境界ハ *Jan Stefanov* 條約ノ定ムルトコロノ恩
ニ分ノ一以下ニ縮小シ「バルカン」山脈ヲ以テソノ境トス而シテ「ブル
ガリヤ」ヲ以テ自治ノ權ヲ存シ貢フ土耳其帝國ニ取ル土耳其ノ屬國トナシ
人民ヨリ選舉シ土耳其政府ノ認可ト列國ノ認可ヲ經テ定マル君主ヲ戴カシ
メ自國ノ兵 *Militia* ヲ有セシメ而シテ自由ヲ有スヘキコトヲ定

メタリ

「ブルリン」條約ノ批准交換ヲ九月月ヲコヘサル期間「ロシヤ」ノ委員
カ「ブルガリヤ」ノ依政府ノ指揮ヲナスヘシトセリ、又向期間五カ月コ
ヘサル「ロシヤ」「ブルガリヤ」及東ルーメリヤ」ヲ占領シ得ヘシトセリ
(3) 「バルカン山脈」ノ南ニアル南印「ブルガリヤ」即東「ルーメリヤ」

ハ政治上及軍事上ニ於テハ土帝ノ直轄ノ下ニタツセ行政上ノ自治ヲ享
セシメ土政府カ列國ノ同意ヲヘテ任命スヘキ耶穌教信者ノ知事ヲオキテ
ソノ任期ヲ五ヶ年トセリ、土耳其ノ常備軍ハコノ州内ニ駐屯スルヲ許サ
レサルカ知事ハ内外ノ危険ヲ防クメ必要アルトキハ土兵ヲ招致スルヲ
得トス

(4) 「モシテネグロ」「セルビヤ」及「ルーマニヤ」ノ領土ニ增加更テ如ヘ
之等ノ國ハ独立ノ承認ヲウケタリ、但信教ノ如何ニヨリ人民ノ取扱ノ差
等ヲタテス又何人ニモ信教ノ自由ヲ共フルコトヲ承認ノ条件トナセリ、
ハ承認ニ條件ヲ付スルモ否モニツキ國際法上義論アルモ余ハ可トス
「ルーマニヤ」ハ「ロシヤ」ノ同盟國ナリシモノノ *Bessarabia*
ニシ

「ロシム」ニ其ノサルヲ得サルニ至リ之ニ代ヘテ *Obrendpa* 及

Binnale 河ノ島ヲ得タリ

「モンテネグロ」 *antwari* 及其ノ海崖ノ土地ヲ得シモ軍艦ヲ昇

スルヲ得ストシ其ノ領海ニハ他國ノ軍艦ノ入ルヲ許ストシ沿崖ノ海上警

察及衛生警察ハ其カ之ヲ行フモノトセリ

(5) 「ボスニア」 「ハーツエゴビナ」 ハ埃ノ占領及行政ノ下ニオク事トシ其ハ

又 *masi Bagan* *donofake* 州ニ守備兵ヲオキ且ソ軍事上及通

行上ノ權利ヲ有スルノ權利ヲ保有ス

「ボスニア」 「ハーツエゴビナ」 州ノ實権ノ下ニオク事ハ 「ロシム」

州ノ限ニ認メタル如ニシテ其ハソノ *Cyprus* ノ占領ニ付キテ及

テ後ケサルカタメニ埃ノ占領行政ヲ認メ自ラ之ヲ會議ニ提議スルニ至

リ

(6) 土耳古カ 「アジヤ」 ニ於テ *Arakhan* *Keas* *Batum*

並ニ其ノ附近ノ地ヲ 「ロシム」 ニ割讓シ而シテ 「ロ帝」 ハ *Batum*

ヲ專ラ通商ノナル自由港トナスノ意アルコトヲ宣言セリ、 英ハ *Batu*

rum カ 「ロシム」 ノ占領スル所トナリテ黒海ノ自由カ育カサル時ハ

海峡閉塞ノ主義ノ維持ニ反対セサルヲ得ストナセルモコノ自由港トナス

ノ宣言カ出来タルコトニヨリテ英ハ依然ノ海峡閉塞ノ主義ヲ認ムハシト

ナセリ、 然ルニ 「ロシム」 ハ一八八六年ニ至リ *Batum* ノ自由港ヲ

廢シテ其ノ約束ニ反スルニ至レリ

(7) 一八五六年ノ巴黎條約ニ一八七一年三月ハ黒海中立中止及海峡閉塞ニ

関スル 「ロンドン」 條約ニ新條約ニ抵触セサル限リ之ヲ *Confirma*

スハマ事ヲ約束セリ、 海峡閉塞ニ関シテ英ハ他日艦隊ヲ派シ入ルルノ

必要ノ生スルヲ予見シ行前ノ自由ハ留保セント欲シ海峡閉塞ニ関スル英

ノ義務ハ土耳古ニ対スルニ異ナルト宣言シ(七月十一日) 「ロシム」 ハ翌

日ニ答ヘテ 「ロシム」 全權ノ意見ニヨレハ海峡閉塞ハ政治規則 *Eu-*

roprean rule ヲシテ之ニ関スル規定ハ只ニ土耳古ニ對スルニ

止マラスシテ他ノ締盟國ニ對シテモ之ヲ守ルノ義務アリトセリ、 「ロシム」

ノ宣言ハ英ノ宣言ト合シク之ヲ議事録ニ加セリ

「バルリン條約」ノ條款中ニハ其他出ホ 「デニウブ」 航行自由ノ担保ノ旨

ニ三三

ニ三三

ニ三三

ニ三三

ニ三三

ニ三三

ニ三三

ニ三三

ニ三三

西洋ノ軍艦ヲ破壊シセヨ新條セサルヨト、土耳其カ信教、自由ヲ其フル事
ヲ約束スルコト並ニ *League of Nations* 條約ニ關スル行政改革ヲ約スルコト
League of Nations (即チ *International*) 條約ニ關スル行政改革ヲ約スルコト
League of Nations 條約ノ改正ニ關スル台議成立セサルトスハ大英、
獨逸ノ自由ヲ確保スル事等ニ關スルモノアリ

「ロシヤ」ハ「バルカン」條約ニヨリ *Balkan* 及「マシメニ
メ」ノ一部ノ所得ヲ認メラレ一時「ブルガリア」ニ對シテ保護者タルノ實
際ヲ收メメ *Danubian* 條約ノ定ムル債金ヲ土耳其ヲシテ以テ
約セシムルニ至レルモ *Danubian* 條約ニヨリ利益ハ「バルカン」
會議ニ於テ著シク減殺サレタリ。「バルカン會議」ノ前「ロシヤ」ノ代表
者 *gorkhshaboff* ハ「この會議ヲ以テソノ生涯中ノ最モ暗黒ナル頁ナ
リト教セリ」「ロシヤ」カ救亡ノ無條件的ニ自己ノ主權ヲ救助センコトヲ希
望セルニ「ビスマルク」ハ折ニ正直ナル仲買人ナ名ノ下ニ英、英ノ主權ヲ
救クルニ傾キシヨリ「ロシヤ」人ハ忘恩ノ処置ヲナセリトシテ救亡及ビ「
ビスマルク」ヲ憤ルニ至レリ「ロシヤ」ハ救亡ト稱シテ所云ニ帝國同盟ハ之

ヨリ崩壊スルニ至レリ

土耳其ハ「バルカン」半島ノ「スラヴ」人ノ救立ヲ認メサルヲ得ザリシ
モ *Danubian* 條約ニヨリ「バルカン半島」ノ大部分ノ喪失ヲ免
レ而シテ一時東「ルーメリア」ノ「バルカン」ニ併合スルコトヲ反對スル
ニ至レリ、然レトモ事實上「バスマリア」「ハーツエゴビナ」及 *Cyprus*
ヲ奪ハレ國勢ノ感益々衰微セリ

英ハ *Danubian* 條約ノ規定ヲ変更セシメ大「ブルガリア」國ノ成立ヲ
妨ケ「ロシヤ」ノ政策ニ大打撃ヲ英ハ自ラ *Cyprus* ヲトリ會議ヨリ歸
來セル *Dismaseli* 條約 *peace with honor* 名譽的平和ヲ
モメラセリト揚言セリ、英ハ巴レ *Cyprus* ヲ得ルタメニ埃ノ「ボス
ニア」「ハーツエゴビナ」ノ占領ヲ換ケタリ

ハハ「ベルリン」會議ニ於テ英ノ *Cyprus* 占領ニ反對スルノ意ヲ
リシモ「チユニス」ヲ保護國トスルノ懸案ヲ得テソノ反對ヲ撤セリ
「ビスマルク」ハ甲ト私トヲサカント救シヒソカニ「チユニス」問題ニ関
シテ英仏間ノ妥協ヲ換ケシモノノ如シ

埃ハ「ボスニア」ハ「ハーツエゴビナ」ヲ占領セルノミナラス又「Moravia」
 「Bağdad」ニ於ケル權利ヲ損ハシテヨリ「セルビア」モ「モンテネグロ」ノ間ノ
 南下ノ途（「サロニカニツツル」）ヲ存セシメタリ。「ロシヤ」ハ「独り戦争」ノ
 勞費ヲツヒシテ他國ハ殆ント懐手シテ利益ニ與ルニ至レリ
 「ベルリン會議」ハ「救世」ニ直捷ノ利益ヲ與ヘサリシ本觀アルモ當時「ビ
 スマーク」ハ「救」ヲシテ國力ヲ養フノ余餘ヲ得セシメ且ツ「孤立」セシム
 ルタメニ「歐」ノ現状維持ヲ主眼トスル同盟系統ヲタツル計畫ヲオヒオレリ、
 「ビスマルク」カ「奧」ヲシテ「ボスニア」ハ「ハーツエゴビナ」ヲ得セシメンハ
 一ハ「奧」ヲシテ「救」乙方面ノ損失ヲワスレシメ且ツソノ「ロシヤ」並ニ「英國」内
 及「バルカニ」半島ニアル「スラヴ」人種ニ對スル關係ニ於テ「救」乙及「救」乙
 人種ト結フノ必要ヲ生スルニ至ラシメントスルモノナルヘシ、然ルニ「救」乙
 カ「コ」ノ會議ニ於テ「ロシヤ」ノ手期セル援助ヲ與ヘサルコトハ「ロシヤ」
 ノ「忘恩」ノ処置ヲ以テ目スル所以ニシテ後ノ三國同盟後「ロシヤ」ハ同盟ノ
 國家結合ノ條約ノ大勢ハ實ニ此時ニ定マレリト云ヒ得ヘキナリ
 「ベルリン會議」ニ於テ「英」ハ「ブルガリア」ト云「ルーメリア」トノ合併

ニ妨害ヲ與ヘタルカ一ハ「一八八五年頃」ヨリ合併運動行ハレ「ロシヤ帝」Alex
 ander 日ハ當時ノ「ブルガリア」公ノモトニ合併ヲナサシムルコトヲ
 欲セサリシナリ、反テ「ベルリン」條約ノ履行ヲ許スヘカラストノ口
 實ヲカリテ合併ニ反對セリ
 英ハ却テ「併合」ニ同情シ此ノ点ニ於テ「英」、「ロシヤ」、「ハソノ」、「ベルリン會
 議」ノ際ノ地位ヲ轉倒セリ「セルビア」、「ブルガリア」ノ東「ルーメリア」
 「ア」ヲ合併セル事ヲ以テ「バルカン」半島ノ Balance of power
 ヲ害ストシテ其ヲアケシモ「敗」ラレタリ、一八八五年十一月八日、六年三
 月（土耳古「ブルガリア」）間一八八六年四月五日ノ條約ニヨリ「ブルガ
 リヤ」公カ「英」、「ルーメリア」ノ知事ヲカマル事ヲ認メラレ實際ノ會議ノ第
 一着歩メヌ「ブルガリア」ノ議會ニ東「ルーメリア」ノ各地方ヨリ議員
 ヲ撰出セシメテ合併ノ實アカレリ、コノ際希臘セ「ブルガリア」ノ東「ル
 ーメリア」合併ニ反對シ兵ヲ土耳古ノ國境ニアツメシカハ「外」ノ列國ノ聯
 合干涉ニヨリ平時封鎖ヲ行ヒ戰備ヲトカシメタリ、一八八六年九月「ブル
 ガリア」公 Alexander カ「ロシヤ帝」ニ憎マルルニヨリテ位ヲ
 一三六

辞スルノヤムナキニ至レリ、而シテ英カ埃ノ同意ヲ得テ後補トセル *dash*。
Koblung 埃、*renalinand* カ埃ツテ撰挙サレ「ロシヤ」カ
異議ヲトナハテ此ノ際東方同族ニツク事変生セントセシモ故、埃ハソノ一
ハ八六年九月ノ奥、故向ノ同盟條約ヲ「ロシヤ帝」ニ私ニ示シ當時事ナキ
ヲ得タリ

第五章 三國同盟 Dreikund

「ビスマルク」普仏戦争後ニ仏ヲ孤立セシメ埃ノ現状維持ヲ求ムルタメ
同盟ヲ依ラントセリ、然ルニ仏ハ其ノ親善ナリシ「ロシヤ」トソムクノ事
情ヲ生シ仏ニ対スト全時ニ「ロシヤ」ニ対シテ自ラ防クノ策ヲメグラササ
ルヲ得サルニ至レリ、普ハ故統一ノ果ヲトクルタメニ「ロシヤ」ノ中立ヲ
求メサルヲ得ストシ「ロシヤ」カ一八五六年巴里條約ニヨル盟海中立ノ制
限ヲ免ルルヲ求ムルヲ知リ利益交換ノ主義ニテ普「ロシヤ」提款ノ基礎ヲ
定メ且ツ一八五一年ノ「ポーランド」叛乱ノ折ニ「ロシヤ」ト密約ヲ結ン
テ之カ鎮圧ヲ援ケ「ロシヤ」ヲ埃ト高レシムル事ヲ得タリ、故ハ「ロシヤ」

ト親シカリシヨリニ公国ノ戦役 (*Dollmaring* *Kalsterin*) 戦争
普埃戦争ニ於テ「ロシヤ」ヲ中立セシメ更ニ独仏ノ戦役ニ於テ「ロシヤ」
ヲシテ埃ヲ牽制セシムルヲ得テ独ノ實ヲアケタリ「ロシヤ」ハ普仏戦争
ノ後ニ独乙ノ勢力強大ニスギ「ロシヤ」ニ依頼スルコト昔曰ノ如クナラサ
ルヲ見テ之ヲ悔ユルノ状アリキ、而シテ一八五一年防戦會 (*presen-*
ntime war) 以東兩國益々相隔タレリ「メルリン會議」ニテ「ビ
スマルク」カ *dog* 正直ナル仲買人 (*honest broker*) ノ態度ヲ
トルコトハ「ロシヤ」ノ普カ一八五六及一八七〇ノモトノ恩ヲ忘レテ「
ロシヤ」ヲ賣レルコトトシ「ロシヤ」ノ *propena* ハ普ヲノシリ独
ノ *propena* ハ之ニ応シテ駭撃シニ固ノ關係ハ益々険悪トナレリ、ス
ビスマルク「*gortschakoff*」トノ間ニ隙ヲ生シ兩國ノ關係ヲシテ
益々悪シクシタリ、故ニ於テ埃ハ仏ニ対スルト同時ニ「ロシヤ」ニ対シテ
自ラ防クノ途ヲメグラササルヲ得サルニ至レリ
柏林會議ニテ「ビスマルク」ハ「ロシヤ」ヲ援ケ戦勝ノ利ヲ得セシメン
ト努メシナランニハ「ロシヤ」独ノ同盟ナリ故ハ埃及仏ヲ敵トシテ「ロシ

ト同盟スルヲ得シメルハズ「ビスマルク」ハ奥ノ政策ヲ保守的平和
 的ナルニ反シテ「ロシヤ」ニ於テ外交ノ方針屢々変リ猶モスレハ冒險的ニ
 派レルヲ以テ危険ナリトシ「ロシヤ」ノ野心ヲ抑ヘテ奥ヲシテ「ロシヤ」
 ニ近ツカサラシムル事ヲ努メタリ「ビスマルク」ノ云フ所ニヨレハ「ロシ
 ヤ」ハ一八七六年ニ於テ「ロシヤ」カ奥ト戦争アリトセハ奥ハ中立ヲキルハ
 キヤ否ヤヲ拘束カアル故ニ於テ告知セン事ヲ促シ「ビスマルク」ハヤムヲ
 得スシテ「ロシヤ」ニ対スル独ノ態度ヲ明ニセル結果「ロシヤ」ノ戦争ハ
 「バルカン」半島ニ由ヒシナリト云ヘリ
 「ビスマルク」カ「ロシヤ」ヲ扶ハス奥ヲ扶ハル決定ニヨリ柏林會議後三
 國同盟後之ニ対立スル「ロシヤ」ハ「同盟」ノ結合固決定マルニ至レリ
 「ビスマルク」ノコノ決定ノ利害ニ付テハ議論アレトモ「ビスマルク」ノ
 同盟ノ政策ニヨリ歐ノ勢力均衡ヲ保テ平和ヲ興ヘ其ノ國力ヲ充實シテ
 其ノ所ニ世界的政策 (Welt Politik) ニ參與スルノ基礎ヲ固メ
 シコトハ疑ヒナシ且ツ「ビスマルク」ハ柏林會議以後ノ独ノ利益ヲ犧牲ニ
 セサル限リハ「ロシヤ」トノ接近ヲハカルコトヲ忘レサリキ「ビスマルク」

ハ仏ヲ孤立セシメテカネテ「ロシヤ」ニ對抗スルノ外交策ノ一トシテ奥ト
 ノ盟ヲ求メタリ「ビスマルク」ハ普墺戦争ノ折ニ已ニ奥ニ対シテ寛大ノ
 條件ニテ講和ヲ許シ他日奥ト近ツクノ余地ヲ存セリ普墺戦争後奥ハ奥ノ仏
 ト談判セルコトニツキテハトカマル所ナク一八七一年ニ於テ独帝「ワイル
 ヘルム」ハ「Goblet」ニ温泉ニテ奥帝「フランシス」ヲ訪見
 シテ其ノ答社トシテ奥帝ハ独帝ヲ「Bismarck」ニ訪問シ西君主ノ間ニ
 交驩ノ香アリキ、奥帝ハ八年十一月ニ普排作主義者 Bismarckノ首相ノ位
 ヲ免シ Bismarckヲシテ之ニ代ラシメタリ
 「ビスマルク」ノ奥ヲ近ツケル事ハ「ロシヤ」ヲシテ戦ヲ挑ム事ニ至ラ
 シメサラム事ニアルヲ以テ一八七二年九月奥帝カ柏林ヲ訪問スルニ当リ「
 ロシヤ」帝ノ独帝トノ会見ハ要求アルヲ悦ビコノ機会ニ於テ「三帝同
 盟」 Drei Kaiserbund ヲ作レリ、而シテ其後條約モナクシテ独
 ハ奥ノ一八五九年...又一八六六年ノ戦役ノ損失ニ対スル賠償ヲ「バル
 カン」半島ニ求メシムルノ密約ヲ結ヘリト云フ
 「ビスマルク」ハ奥ヲシテ東進政策 (Draufmarsch Osten) ヲ

トラシメテ柏林會議ノ際ニ之ヲシテ「ボスニヤ」「ハーツエゴビナ」ヲ得セシメ益々奥ノ「バルカン」半島ニ於ケル利害ヲ深カラシメ「ロシヤ」ニ對シテハノ要ヲ求メシムルノ勢ヲ加ハシメタリ

柏林會議終リテ後「ロシヤ」ハ土宜古ケシヨリ退ケシ兵ヲ解カスシテ普及奥ノ境上ニ止メシヨリ奥ハ「ロシヤ」カバレニ對シテ侵入ノ意固ヲ抱ケコトヲ悞レ「ロシヤ」ニ對スル反感ノタメニ俄ト同盟ヲ結フノ必要ヲ感スルニ至レリ、且ツ「ボスニヤ」「ハーツエゴビナ」及「Bosnia Slab」人種ニ對シテ「ロシヤ」カ声援ヲ共ハテ奥ノ統治ヲ因循ナラシムルニ苦シメルヨリ之ヨリシテモ内治ヲヨグスルニ於テ「ロシヤ」ニ對シテ俄ト結ブノ必要アリ、加之年ニ於テ一八七九年ニ「Prudom-Hivin」奥排外ノ声援ニナレリ

奥ハ愈々俄トノ提契ヲ求ムルニ至レリ、一八七八年十月十一日ニ於テ「Wien」政府ハ「Denmark」ノ政府及「Sleswig」ノ人民カ俄乙ニ水ヲシテノ等トセル「Prag」條約ノ「Sleswig」ニ關スル條款ヲ廢止スルコトヲ諾シテ好意ヲ秘ルニ對シテ表セリ、柏林會議ニ基ツキ

Morri-Bogazニ開ケル俄ノ土耳其ノ境界確定ノタメ列國委員會ニテ俄委員ハ概ネ「ロシヤ」ノ主張ニ及對セルヨリ「ロシヤ」帝贊リ「俄帝」ニ親善ヲ送リ俄カ依然態度ヲ改メス「ロシヤ」ノ主張ヲ支持スル事ヲ拒ムヤハ西國ノ平和ノ維持ハ困難ナルコトヲ諒ケリ、コノ危機ニテ俄帝ハ一八七九年九月三日「アレクサントル」ニ於テ「ロシヤ」帝ニ會見シテ親戚ノ好ミニヨリ帝固ニ爾ヲ開イテ諒リ事ナキヲ得タリ

「ボスマーク」ハ奥カ「ロシヤ」ノ脅迫ニ抗シ得ス「ロシヤ」又ハ俄ニ近クヲ悞レ奥人ノ白國ニ對スル計畫ト「Italy」ノ「Prudom-Hivin」運動トヲ悞ルルニ乘シ俄奥ノ接近ヲハカレリ、故ハ一八七九年ノ夏奥ノ「Novi Bazar」ノ占領ヲ援助セリ、一八七九年八月二七・二八日ノ

二日間「ボスマーク」ハ「Andriassay」ト「gasteln」ニテ公シ同盟ヲ恢復セリ、故ハ「ロシヤ」及俄ニ對スル俄奥ノ同盟ヲ作ラント欲セシ方奥ハ和親國ナルルヲ欲視スル同盟ニ加ハル事ヲ欲セス、主トシテ「ロシヤ」ニ對スル同盟ヲ結フ事トセリ、故帝ハ奥ト同盟スル事ヲ以テ信義ヲ「ロシヤ」帝ニ失フトナシ当初ハ贊成セサリシカ遂ニ公意スルニ至レリ

九月中「ビスマルク」ハ *garthausen* ヨリ *Wien* ニ趣キ奥帝ト

見シテ同盟ヲ議セリ、十月七日 *Wien* ニテ結ハル秘密同盟條約ニテ兩
締盟ノ一方ハ攻撃ヲ求ル場合ニ他ノ一國ハソノ兵力ニテ援助シ共同一致ヲ
以テスルニ非サレハ構和ヲナスヲ得サルハテ西締盟國ノ一國カ「ロシヤ」
以外ノ強國ノ攻撃ヲシクルコトアルトモハ他國ハソノ敵ヲ助クルコトナク
少クトモ好意的中立ヲ保ツヘク此ノ場合ニ「ロシヤ」カ洋動の共力ノ取勢
ニヨリ又ハ攻撃サレシ締盟國ヲ脅カスヘキ軍事的処置ニヨリ攻撃者ヲ援助
スルトモハ他國ノ金兵力ヲ以テ援助スルコトトナセリ、コトニ於テ三國同
盟ノ基礎ニ於ケル秘密同盟ノ同盟ナレリ

「イタリー」ハソノ統一ノ業ニ関シテ公ニ口説アリ、然ルニ仏人カソノ
恩ヲ松張シテマ、モスレハ新國ノ「イタリー」ヲ輕ンスルノ風アルヨリ伊
人ハソノ自買心ヲ傷ケジレ却テ仏人ニ對シテ反抗心ヲ抱クニ至レリ、且ツ
「ナポレオン」カ自ラ煽動セル民族主義ノ運動ヲ半途ニ阻止セントシ
奥ノ勢ヲ全ク抑ヨリ遂フト文ヲ前約ヲ守ラヌシテ「バネケア」ヲ得サルニ
奧ト先ツ構和シヌ「ローマ」守護ノタメ占領軍ヲ「ローマ」ニオモテ伊人

カ伊統一完成ノタメニ必要ナリトスル「ローマ」ヲ占領ヲ始ケ又伊ニ奧ハ
ル援助ノ報酬ヲ求メテ *devoxy* *reece* ヲトレルヨリ伊人殊ニ南伊
人ノ憤ル處トナレリ

「ビスマルク」ハ柏林會議ノ折伊仏兩國ノ共ニ利害關係アル「チユニス」
ニ伊ヲシテトラシメセヨ仏ヨリ離レシメント試ミタルモ伊ノ當時ノ首相ナ
ル *Cairali* セヨ拒絶スルマ故ニチ英ノ *Cyprus* 占領ノ *Compens-*

ation トシテ仏ノ *Sunna* ヲ占領スルコトヲ暗ニ認メ一面ニテ
ハ仏ヲ伊ヨリ離間シテ一面ニテハ仏ヲシテ植民の至營事業ニヨリ彼等諸
ヲ忘レシメントセリ、仏ハ一八八一年四月ニ「チユニス」占領ヲ行ヒ之ヲ
保護國トセリ、伊ハハステニ旧教國タル仏政府カ旧教使ノ説ヲ察レテ「ロ
ーマ」政府恢復ニ関シテ「ローマ」共王ヲ助ケンコトヲ畏レタルニ又コノ
利害關係アル事探シトスル「チユニス」カ仏ノタメニ占領サルルヲ見テ仏
ニ對スル敵愾心益々起リ地中海ニ於ケル伊ノ利益ヲ擁護シ「ローマ」ニ
関スル仏ノ干渉ヲ排スルタメニ激ノ勢力ニヨラムトスルニ至レルナリ「ビ
スマルク」ハ伊ヲシテ奧ニ接近セシメントシ柏林ニ末ルニハ維新ヲ通過セ

サルヘカラスト裁ケリ

埃ハ伊ヲ同盟ニ入ラシムルコトニヨリ *mederativism* ノ運動ヲ
 例スルヲ得ヘク且ツ「ロシヤ」ト事アルニ際シテ後顧ノ慮ヲトクコトヲ得
 ヘキヲ以テ伊ニ近ツク事ヲ求メ伊ハ埃ノ因境ニテ獨々防禦アルニスギ
 ルノ憂ヲトク事ヲ得ヘキヲ以テ又埃ト近ツクノ利益ヲミトメタリ
 埃伊間ニテ普埃戰ノ折ビニ決定セル如アリシカ一八七三年伊王埃及秋ノ
 首都ヲ訪問シ一八七五年ニ埃帝ハ伊王ト会見シテ二國間ニテ解ナレリ、一
 八八一年十月伊ノ新王 *Kemalbert* (*idamberto*) カ *Wiser*
 ヲ訪問セリ、十二月末伊太利水使ハ普埃ニ告グルニソノ政府ノ普埃同盟ニ
 加ハルノ意アルヲ告ケ談判ノ末五月二十日三國同盟條約正式ニ締結サレタ
 リ

伊カ加ハリラナレル三國同盟ノ内容ハ之ヲ益ク明白ニ知ルヲ得サルモ三
 國間ノ條約ノ締結アリシ後ニ於テ一八七九年ニ結ハレタル普埃間ノ同盟
 條約ハ依然有効ナリシモ、ノ如シ、或ハ一八八七年ニ於テ同盟條約ノ更新
 サレタル際ニ伊埃間ニ「バルカン」ニ関スル條約カ別ニ成立セシトナリナ
 リ、一八九一年ノ更新ノ折ニ三國間ニ共通の條約ヲツクリテ三國ノ關係ヲ
 規定スルニ至レルモ、ノ如シ、此ノ條約ノ第三條ニ於テモシ締盟國ノ一又
 ハニニシテ自ラ挑発スルコトナリシテ條約締結國以外ノ二國又ハソノ以上
 ノ國ヨリ攻撃セラレ之等ノ國トノ戰爭ニ引入レラレルトモハ凡テノ締盟國
 ニ對スル必殺義務發生原因 *Causa foederis* ヲ生スルモノト定メ
 而シテソノ第四條ニ於テモシ條約締盟國ノ一又ハニニシテ條約締盟國以外
 ノ一強國ニヨリ安寧ヲ脅カサレ之ニヨリ之等締盟國カ宣戰ノ止ムヲ得サレ
 且至ルトモハ他ノ二又ハ一ノ締盟國ハソノ同盟國ニ内ヒテ少クトモ好意的
 中立ヲ守ルノ義務アリトシ而シテ此ノ場合ニ於テ他ノ締盟國ハ何レモ戰爭
 ニ參加スルカ又ハ同盟國ト同一ノ步驟ヲトルカヲ自由ニ定メ得ハントシ第
 七條ニ於テ埃及伊ハ埃未得ヘキ限リ東洋 *Asia Orientis* ニ於ケル領土
 ノ現状維持ヲハカリ本條約締盟國ノ何レカニ損失ヲ共フハキ凡テノ領土ノ
 或受ヲ防止スルタメニソノ條約ヲ用フヘキコトトシ兩國ハ之カタメニ相互
 的ニ自國ノ邊境又ハ他國ノ邊境ヲ知ラシムヘキ凡テノ報告ヲ通告スヘシト
 セリ、然レトモ事情ニヨリテ「バルカン」半島又ハ「アドリアナツク海」

若シクハ多島海ニ於ケル現状維持カ不可能トナリ而シテ第三教團ノ行動ニ
 ヨリ又ハ其ノ他ノ原因ニヨリ興又ハ伊カ一部的スハ永久的占領ヲ行ヒテ現
 狀ヲ変更スルノ必要ニ迫ラレルトハソノ占領ハ西國ノ各々カ現状以上ニ
 オサムヘキ領土上又ハ其他ノ利益ニ對スル相互的代償ノ主義ヲ基礎トシ且
 ツ西國ノ根柢アル利益及主張ニ満足ヲ與フヘキ西國間ノ事柄ノ決定ノ成レ
 ル後ニ於テ初メテ之ヲ行フヘキトセリ(第7条)但独逸間ノ一八七九
 年ノ條約ハ共通的條約ニ抵触セサル限り依然有效テアルトノ説アリ(コノ
 点條表ナクタメ疑ハシコノ点正シトセハ「ロシヤ」ハ國カ侵シ来リテモ
 直々ニ之ヲ撤廢義務發生スル事ナリ)

三國同盟ノ條約ハ初メ五ヶ年ヲ期限トセシカ如キモ一八九一年ノ更新ノ
 項ヨリ十二年ヲ有効期間トナシ六年目ニ廢棄ニヨリ效力ヲ失ハシメ得ルト
 ナセルモノ如シ一八八二年五月一八八七年三月一八九一年六月
 一九〇二年六月一九一二年十二月等ニ於テ更新セラレ世界大戰ニ及ハリ
 三國同盟締結ノ *fact* ハ一八八六年九月「ブルガリヤ」事案ニヨリ東
 歐ノ平和カ破レントスルニ至リ三國ノ懷義ヲ以テ之ヲ「ロシヤ」皇帝ニ通

告セリ、之レ「ロシヤ」ニシテ事ヲ「バルカン」方面ニ起ストキニハ之カ
 敵タルモノ興ノ一國ニ止マラサルヘキヲヒソカニ知ラシメタリ一八八七
 年十一月独逸同盟ノ條約ト大要ト稱セラルルモノカ「ロンドンタイムズ」
 ニ掲ケラレ一八八二年二月ニ至リ独逸ノ單橫派張案ヲ議會ニ於テ議スルニ
 當リ独逸同盟ノ條約及三國同盟成立ノ事實ヲ在ニ條表スルニ至レリ
 三國同盟ハ概シテ之ヘハ歐ニ於ケル現状維持ヲ目的トスルモノニシテ直
 接ニ此ノ同盟ニ加ハレルハ独逸、英、伊ノ三國ニスキサルモ同持ニハ此ノ同
 盟條約ニ加ハレル國カソノ以外ニ存シオリシナリ、英ハ自己ノ行動ノ自由
 保有セント欲シ所云 *splendid isolation* ノ地位ヲ守リシカ
 大陸諸國ヲシテ互ニ相牽制セシメ其ノ自ニ勢力ノ均衡ヲ維持シテ以テ政内
 ニ於ケル平和ヲ *confirm* セシメ且ツ大陸諸國ノ努力ヲ海外ニ延ハ
 スメノ機會ヲ少クセントセリ
 一八七九年以來「ロシヤ」仏カ相接近セントスルノ機勢ヲ生シ而シテ
 独逸、英、「ロシヤ」仏ニ對スル板衝カマ、輕キニ失スト恐繼セラレ且ツ
 英ハ末メ独ト乘隙スルノ弊ヲ生セサルニ「ロシヤ」仏ハソノ植民地屬領地

ニ対シテ利害ノ衝突ヲ有シ殊ニ地中海ニ於テ他ノ海軍ニ對抗セサルハカラ
ナルノ勢ヲ有セルヲ以テ伊ヲシテ独逸ノ同盟ニ加ハラシメテ他ニ對抗シテ
地中海ニ於テ表ト相長契セシメントシタリ

一八八二年ノ條約ニ附屬スル *Protocols* ニ於テ三國同盟ノ締結國
ハ英ニ対シテ放棄ヲ有セサル趣意ヲ言明セリト云フ、一八八七年ノ頃英海
軍ニ於テ地中海ノ現状維持ニ関シテ政府ナリシモノ如シ、或ハ此ノ政治
ニ類モ加ハレリト云フ、一八九一年ニ於テコノ政府カ *Revised* サ
レタルモノノ如シ、一八九一年ノ三國同盟條約ニ附屬セル一ツノ議定書中
ニ於テ同盟ニ于徐スル約定中ノ一定ノ事項ニ関シ英ナ主義トシテ *Apply*
and スル事ヲ明言シ締結國ハ他ノ事項ニ関シ英ノ贊同ヲ得ル事ニ英力ス
ヘシト云フコトヲ言明セリト云フ、當時英ハ直接ニ三國同盟ノ條約ニ加ハ
レリト云フコトヲ得

一八八三年「ルーマニア」ト英ノ間ニ同盟條約成リ独モ之ニ加ハリ五年
ノ後伊モ之ニ加ハレリト云フ「ルーマニア」トノ條約ハ一八九七年、一九
〇二年、一九一三年ニ於テ更新サレタリ、「バルカン」同盟ニ関シテ一八

九七年及一九〇三年ニ「ロシア」ト約定ヲナシ、一九〇一年及一九〇九年
伊ト約定ヲナセリ、三國同盟ハ防衛的同盟ノ性質ヲ有セリ「ビスマーク」
ハコノ同盟ヲ拒絶トスル外交上ノ地位ヲ利用シテ被帝國ノ基礎ヲ鞏固ニシ
歐大陸ニ於テ外交上ノ優勝ナル地位ヲ取得セリ、然ルニ三國同盟ニ対シテ
「ロシア」ハ此ノ同盟ナリ新ナル勢力均衡ヲ生スルニ至レリ「ビスマーク」
ト夫ニ三國同盟ヲ支持セル政治家中最モ著シキハ *Kalnoky* 及伊
ノ *Crispien* ナリ *Orlovsky* ハ一八八一年以來十余年間英ノ外交ノ
為ニ当リ伊ト接近シ三國同盟ヲ支持スルノ政策ヲ守レリ *Crispien* ハ嘗
テ政敵ナリシ *Dupretis* ノ敵ヲウケテ一八八七年以後一八九六年ノ
頃マテ概ネ伊ノ政局ニ当リカツテ及対セル三國同盟ノ熱心ナル支持者トナ
リ然レ三國同盟ヲ支持スルニ至レリ、或ハ三國同盟ニヨリ「ロシア」及伊
ニ対スル關係ニ於テ地位ノ鞏固ヲ得伊ハ之ニヨリテ英海軍ノ地位ヲ確立セリ

第六章 露佛同盟

三國同盟ノ成立ニヨリ「ロシヤ」ハ秋換ノ同盟ノ對抗ヲウケムハ秋甲ノ同盟ノ對抗ヲウケトモニ他ヨリ孤立シ且ツソノ向ニ互ニ領土上又ハソノ他ノ利害ノ衝突ヲ生セサル「ロシヤ」佛カ相接近セントスルハ自然ノ勢ナリ然シテハ最モ孤立ニ苦シメルヲ以テ「ロシヤ」トノ同盟ヲ希望スレコト切ナルモノアリ然レトモ露佛同盟ノ成立ニ際シ種々ノ障礙ヲ存ス「ロシヤ」ノ皇室ハ秋ノ皇室ト皇妹ノ親アリ「ロシヤ」宮廷ニ於テハ秋末ノ親政策ヲニハカニスツルヲ不可ナリトスルモノ少ナカラズ

且ツ「ロシヤ」ノ宮廷ニ於テハ革命ノ本元ヲ以テ目セラル、佛ノ共和國ト結フヲ以テ「ロシヤ」ノ國体ヲ危ウクスルモノナリトスルモノアリ、殊ニ新「ロシヤ」皇帝「アレクサンドル」三女ハ秋ニ及テスルノ思想ヲ有セサルニアラサルモイタク虚無党ノ陰謀ヲオソレハニ近ツク事ヲ躊躇セリ

仏ニ於テモ專政政体ノ「ロシヤ」ト結フコトハ共和政体ノ主義ニ反スルノミナラス「ロシヤ」トノ同盟談判ハ到底成功ノ見込ミナク却テ之レカタメニ脅威ヲマネク惧レアルニスモストナスノ説アルヲ以テ「ロシヤ」トノ談判ノ開始ヲナケントスルノ傾向アリキ且ツ一旦事変起リテ露佛同盟ニ

ニ基キテムカ兵ヲ動かスノ結果ハ適々仏國內ノ君臣説ノ勢カヲツヨメ共和政治ノ運命ヲ単純セシムルヲ惧レシムルノ事情アリキ又「ロシヤ」帝ハ佛人ノタメニ「ロシヤ」ノ利益ニ関係ナキ義務戰等ニ列入レラルルニ至ラシテ同盟ヲ結フモ戰事起リテ後「ロシヤ」ノ外交上ノ真偽ノ信頼スルノ念強カラシテ同盟ヲ結フモ戰事起リテ後「ロシヤ」ノ外交上ノ真偽ノ信頼スルノ念強カラシタリ、然レニ仏ニ於テハ政府ノ更迭頻繁ニシテ外交政策前後一貫セサルノミナラス同盟ヲウケルノ基礎トシテ必要ナル兵力未ダ整備セサルヲ以テ「ロシヤ」ヲシテ仏ノ同盟ヲ察ハル事ヲ躊躇セシメタリ、シカノミナラス「ロシヤ」ハソノ繼續ノ畫策ヲ以テ百方「ロシヤ」仏同盟ノ成立ヲ防衛シ以テハ虚無党ニ対スルモビシキ政策ニヨリ「ロシヤ」帝ヲシテ自己ニ信頼スルノ念ヲ起サシメ「ロシヤ」ノ仏ニ近ク事ヲ妨ケ、或ハ列國ノ注意ヲ植民地間取ニシ、カシメテ仏ヲシテ「チユニス」及廣東ニヨリ「アルサス」「ロレンス」阿膠ヲ忘レサスト同時ニエチプト、廣東及ヒ「チユニス」ニヨリテ仏ヲシテ英、印ト衝突セシメテ仏人ノ秋ニ對スル敵愾心ヲ他ニ転セシメントシス「ロシヤ」ヲシテ近クノ使ヲニ送クノ詠ヲ依ルニ過メサルヲ思ハ

シメントセリ

一八八三年以後「ビスマーク」ハ独人向ノ植民地思想ノ旺盛ナルニコタヘ
 カネテ外交上ニ於テ之ヲ利用スルタメニ植民事業ニ着目スルニ至リシニ尚
 植民地問題ニヨリ積極的ニス、イテハニ近ツクコトヲ求メ一八八五年十
 二月二十四日西部「アフリカ」ニ於ケル独人植民地ノ境界ヲ確定シ又ハト聯
 合シテ「コンゴ河」ノ下流ニ関スル一八八四年二月二六日ノ英蘭向ノ条約
 ニ抗議シテ之ヲ取去ラシメ、独西國ノ主張ニヨリ一八八四年十一月ヨリ
 翌年二月ニ至ル「アフリカ」問題ニ関スル *Ag Congo* 會議、柏林
 會議ヲ柏林ニ開カシメ「コンゴ」河流域ノ通商ノ自由 *Congo, Niger*
 西河ノ *free navigation* 及ヒ土地先占ノ宣言等ヲ定メタリ
 「ビスマーク」ハ斯クノ如ク一方ニ於テ單ニ他國ヨリ奪取スルノ消極
 的手段ヲ以テ足レリトセス積極的ニ植民地問題ニツキハト改商スルトコロ
 アリシカ又他方ニ於テ「ロシア」ト接近ヲ計ル事ヲ忘レサリキ。
 一八七二年東歐ノ三帝及ソノ首相カ「ベルリン」ニ會合シテ *3 Emperors*
 同盟ノ改商ナレリ *Orientalism* ノ以後ニ於テモ三帝ノ

會同屢々行ハレタリ、而シテ一八八一年ノ頃「ロシア」ニ於テハ独トノ同
 盟ヲ求ムルノ思想ヲ存セシモ「ビスマーク」ハ獨ヲ同盟ニ加ヘテ西歐諸國
 ト墮トヲ兩面スルノ必要ヲ説キ與ハ当初「ロシア」トノ改商ニツキテ危惧
 ノ念ヲ抱ケルカ如キモ「ビスマーク」ノ勸誘ニ從フニ至リ遂ニ三國間ニ一
 八八一年六月二十八日條約ヲ結フニ至レリ、今ソノ條約ノ附要ナル主意ヲ
 挙クルニ

- (1) 三國ノ一ツカ第四ノ國ト戰爭ヲ行フトモハ他ノ二國ハ好意的中立ヲ
 維持スルノ義務アリトシ三國ノ一ト「トルコ」トノ間ノ戰爭ニ関シテ
 ハ其ノ戰爭ノ結果ニツキ三國ノ間ニ予メ決定ノナレル場合ニ於テノミ
 上述ノ義務ヲ有ス
- (2) 三國ハソノ間ノ紛議ヲサクルタメ「ベルカン半島」ニ於ケル相互ノ
 利害ヲ考慮スヘク相互ノ承諾ナクシテ「ヨーロッパ」ノ領土上
 ノ現状ニ変更ヲ生セシムルコトナカルヘキヲ約シ條約所屬ノ議定各ハ
 六月十八日「中ニ於テ三國ノコノ点ニツキテ既ニ決定ヲ了セル點ヲ編
 ケテオル、曰ク墮カ必要トスルトモハ「ボスニア」及「ハーツエゴヒ」

ナヲ併合スヘシ。曰ク *Morri Bogar*、*Sandjak* 州ニ於ケル埃
ノ利益ニ関スル「バルリン」条約ノ際ノ約束ノ有效ナル事ヲ確証ス。
曰ク「ブルカリヤ」及「ルーマリヤ」ノ併合カ自然ノ趨勢ニヨリテ
自ラ生スルトモハ又反対セサルヘキモ「ブルガリヤ」人カ近隣ノ州殊
ニ「マセドニア」ニ内ツテ攻撃ヲ加フル事ハ之ヲ防止スヘク「ブルガ
リヤ」人ニシテ教イテ之ヲ行フトモハ其ノ危険ニ在セザレハカラサル
コトニヨリテ之ニ警告スヘシ。曰ク三國ハ一般ノ平和カ危険タルノ故
ヲ以テ東「ルーマリヤ」ノ側スハ「バルカン」山脈ノ側ニ於テ占領ノ
行ハレサルヲ期スヘキナリ。曰クモシ「ブルガリヤ」及東「ルーマリ
ヤ」カソノ領地ヨリ「トルコ」ノ他ノ州ニ対シテ攻撃ヲ蒙セントスル
ヲ支持スル事ナストモハ必要アレハ「トルコ」政府ヲシテコノ種ノ占
領ノ計画ヲ行ハサラシメンカタメニ努カスヘシト

(3) 三國ハ海峡閉鎖ニ関スル規則ノ履行ヲ監視スヘク「トルコ」政府カ
第四回ノ作戦行動ノタメニ海峡力通スル部分ノ領地ヲ讓與シテ該規則
ノ除外ヲ依ルルカ如キコトナカラシムヘシトシ遠及ノ現ニ起リスハ時ニ

起ラントスル場合ニ於テ之ニヨリテ三ツノ締盟國中ノ一ノ利益ヲ害ス
ルトモハ三國ハ「トルコ」ニ向ヒテ之カタメニ利益ヲ害サレタル國ニ
対シテ「トルコ」カ交戦状態ニ立ツヲ認ムル事ヲ宣言シ從ツテ「バル
リン」條約ノ定ムルトコロノ領土ノ現狀維持ノ利益ヲ奪ハルルニ至ル
ヘキ「トルコ」ニ警告スヘシトセリ

(4) 一八七三年ノ「ロシヤ」取間及ヒ「ロシヤ」奥間ノ秘密條約ハ以後
ソノ效力ヲ失フモノトシテオル（判然セサル條項ナリ）

該條約ハ十五日以内ニ批准ヲ行フヘシトシ批准交換後三年有效ニシテソ
ノ内容ノミナラスソノ存在ノ事實ヲ公議ニ秘密ニ附スヘキモノトセリ。一
八八四年「スカンデナビヤ」ニ於テ三帝及三首相ノ会合セル頃コノ條約ハ
僅カナ変更ヲ以テ更新セラレシモノ如シ。然レトモ一八七七年ニ至リテ
ハ「ロシヤ」ハ奥カ「バルカン」半島ニ於テ勢力ヲ加ヘタルヲ見テ奧ヲ入
レタルコノ種ノ條約ヲ更新スルコトヲ欲セスシテ独リ欲スルト欲定ヲナサザ
ランコトヲ求メタリ。茲ニ於テ被乙及「ロシヤ」ノ間ニ於テ一方ノ締盟國
カ第三國ト戰爭ヲナス時ニ他方ノ締盟國ハ好意的中立ヲ維持スヘキヲ約

セリ、而シテ一方ノ締盟因カ壞又ハ併ラ攻撃セシ場合ニハ規定ノ適用ナキ
コトヲ定メシモノ如シ、又ソノ條約中ニ於テ独ハ「ロシヤ」ノ「ブルカ
シ」半島ニ於ケル權利ヲ承認シ之ヲ維持スルニツキ援助ヲ求フヘキヲ定メ
タリト云フ、コノ條約ハ独ハ人ノ「再保險條約」ニ重保險) Buch-

Vertragsvertrag ナリ

「ロシヤ」ハ同盟ハ種々ノ妨ケアリシニ拘ハラス漸クソノ守ヲ進メント
セリ、「ロシヤ」ニ於テハ *Kolokoloff* (新聞記者) 佛ニ於テハ *Bo-*

Langley (軍隊ニ勢カヲ有ス) サカンニ「ロシヤ」 佛同盟ヲ唱フ

一八八四年「エジプト」問題ニ關係シテニ國カ相共ニ英ノ主張ニ反對シ
又一八八七年ノ「ブルガリア」事件ニ際シテ「ロシヤ」ノ暴行ヲ列國ニ訴
ヘル「ブルガリア」ノ遊説員ニ對シ佛ノ外務大臣カ「ブルガリア」ノ第一
ノ義務ハ先ツ「ロシヤ」帝ト妥協スルニアルヲ公言スルノ態度ニ對テタリ
又一八八七年秋ニ「タメ」ニ向テ捕ヘラレシムルノ被索味ノ
Schmabeli 事件ニ際シ「ビスマルク」カ佛ハヲ懲センメテ議事
ヲ進スニ至ラシメントスル如キ態度ヲトルニ至リタリ「ロシヤ」帝カ仏ノ

タメニカケル親幹ヲ独帝ニオクリ独帝カ「ビスマルク」ニハカラスシテ

Schmabeli 開放ノ命ヲ付ヘシ事アリ、之等ノ事件ノタメ「ロシヤ」

独ノ關係ハ益々阻礙セルト同時ニ仏「ロ」ノ關係ハ親密ヲ加ヘタリ、一八
八八年二月「ビスマルク」カ軍備擴張ヲ通過セシムルタメニ独獨間ノ同
盟ノ條文及三國同盟成立ノ事實ヲ發表シテソノ折ノ演說中ニ於テ「ロシヤ」
ノ新聞紙カ友ハタル独ニ道ヒ對シタルヲ以テ再ビ之ヲ訪問セサルベシ、
佛ノ語ヲ用ヒテ「ロシヤ」 独ノ乘隙ヲ公言セルヨリ「ロシヤ」 仏同盟ノ機
運ハ益々熱サントセリ、一八八八年ニ「ロシヤ」トノ親交ニ重キヲ置ケル
「ウイリアム一世」死シ「フリエデリック二世」ノ短キ時在ノ后「ウイ
ヘルム二世」カ帝位ニ陞ルマ即位ノ初メニ先ツ後陸軍ニ對シ朕カ身ハ噴
ノアタヨリ祖先ノ英魂ノ注目スル處ニシテ朕ハ軍隊ノ光榮及榮譽ヲ祖先ニ
報告スルノ目的アルヘシト説ケル等ノ語アリシカハ仏「ロシヤ」ハ独ノ新
帝ヲ以テ事ヲ好ムノ君主トナシ之ニ對シテ戒心ヲ加ヘ益々「ロシヤ」 仏同
盟成立ノ機運速捷セラレタリ、一八九〇年「ビスマルク」カ官ヲ退ケルコ
トハ受ニ「ロシヤ」 仏同盟ノ成立ヲ妨クルノ有効ナル一ツノ原因ヲ除ケル

ナリ

二六。

一八九〇年ノ頃「ロシヤ」カーハ八七年ノ秋ハノ^ル再保險條約ノ期
 向カツクルニ先々之ヲ *renounce* スル意アリシモ俄ハ之ヲ拒絶セリトス
 フ、「ビスマーク」ハ「ロシヤ」トノ接近ヲ求メタルモ新帝ハ奧トノ同盟
 ニ重キヲオケ且ツ再保險條約ノ如キ複雑ナル關係ヲツクルハキ條約ナク
 モ「ロシヤ」帝「ヨ録」リ被ルニ對シテ事ヲ起スコトナカラシメ得ヘシトナセ
 リ、「ビスマーク」ノ辭職ノ直接ノ原因ノ一ツハ「ロシヤ」ニ對スル政策
 ノ意見ノ相違ナリトセラル

一八八七年ヨリ一八九一年ニ至ルノ間ハ屢々「ロシヤ」ヲシテ國內ニ
 於テ公債ヲ募ラシメ「ロシヤ」ハ西國間ノ經濟上ノ利害ノ密接ナルヲ至セ
 リ。一八九〇年三月、「ビスマーク」ノ辭職ノ後^{五月}弗ハ「ロシヤ」ノ要求ヲ
 諾シテソノ「ロシヤ」ノ皇室ニ害ヲ加ヘントセル虛無党員ヲ捕縛シテ之ヲ
 禁錮シ「ロシヤ」帝ハ愈々自ヲ信頼シ得ヘキヲ悟ルニ至レリ、故ニハソノ
 「ロシヤ」ト結ヘル^ル再保險條約ヲ繼續スルヲ欲セスシテ「ロシヤ」
 ハ全ク孤立ノ地位ニ立ツニ至リ且ツ當時英相接近スル形跡ニアリシヨリ

東西ノ孤立國ナルロムノ相結フノ機會愈々遠進セラレタリ、シカノミナラ
 ス「ロシヤ」ハ日清戰役以來極東ノ經營ニ熱心ニシテ「シベリア」鐵道ノ
 完成ノ財源ヲ得ント欲シ且ツ極東ニ於テ英及我國ニアタルノ海軍力ヲ求ム
 ルヲ以テ自トノ同盟ヲ求ムルコト深キニ至レリ、故帝ノ英、白ノ訪問及三
 國同盟ノ更新ノ宣言ノ事アルマハ繼續ハ一八九一年七月ニ *Crimea*
 邊ニ至リ「ロシヤ」官民ノ盛ナル歡迎ヲ受ケタリ、而シテ八月二十一日及
 七月ニ於テ二國ノ接近ニ一定ノ形式ヲ與ヘタル公文ノ交換行ハレタリ

一八八初メヨリ三國同盟ニ對スル「ロシヤ」ハ同ノ同盟條約ヲツクリ三國
 同盟及「ロシヤ」自ノ一方カ動員スルトモハ他方ノ締結國ハ直々ニ動員ス
 ルノ義務アルトセントセルモ一八九一年八月二十一日及二十七日ノ公文
 ノ交換ニ於テ定マル所ニヨレハ西國政府ハ一徹平和ニ關係スル如キ性質ノ
 凡テノ問題ニツキ救義ヲナスハク、一徹ノ平和カ危態トナリ殊ニ二國ノ一
 ツカ攻撃ニヨリ脅カサルトキハ共同ニトラサルヘカラサル必要手段ニツキ
 決定スヘシトセリ、コノ公文ノ交換ハ兵力的ニ救義ヲフクムハキ同盟條
 ト解スヘキマ否ヤニツキ議論アリ、一八九一年十二月「ロシヤ」首相 *Gor-*

ニ六一

一 *cord* 及 *in* 相 *Respect* / 公法ニヨリ軍事收約ヲ締結ス、キヲカ原則上
 決定サレ西國間ニ於テ應接義務發生條件 (*Casus foederis*)
 ヲ明ニ定ムル定款ヲ念ムル *eg* 軍事收約ノ實効カ西國參謀本部其ノ間ニ
 協定サレタルモ急速ニ確定的ノ採用ヲスルヲ得サリヤ、之レ「ロシヤ」ニ
 於テ尚確定的ニ約定スルヲ躊躇セルカタメナリ、且ツ一八九二年未ヨリ
 一八九三年ニ至リテ「パナマ」運河ニ関スル醜聞事件起リ「ロシヤ」大英
 ノコノ事件ニ関係アル等弗紙上ニ表ハレシナリ、「ロ」佛西國間ニ稍疎隔ノ
 状ヲ生シ同盟ニ関スル談判ハ一時進行ヲ止メシ如シ、然ルニ故乙ノ新々ナ
 ル軍事法ノ通過アリテ後一八九三年十月「ロシヤ」總務長ヲ訪問シ *Sov-*
lone 軍港ニ入り非常ナル歡迎ヲ受ケシヲアリ、コノ折「ロシヤ」ヨリ
active ナ行動ヲトリテ一八九三年十二月二十七日及一八九四年一月
 四日「*friends*」及ヒ *Kontakelala* (大英) 間ノ公文交換ニヨ
 リ西國ノ參謀本部長ノステニ調印セル *eg* 軍事收約ヲ採用スルコトヲ定
 メタリ、狹軍事收約中ニ於テ独々ハ「ロシヤ」ノ一方ニ對シテ攻撃ヲ
 行フトキ「ロシヤ」ハ独々ハ「ロシヤ」ヲ攻撃スル與ヲ援助シホハ「ロシヤ」ヲ

援助スルトキハ「ロシヤ」ハ二國ハ互ニソノ使用シ得ヘキ兵ヲノ兵カヲ用
 ヒテ應接スル義務アルコトヲ規定シ(之レ本當ノ同盟條約)又三國同盟又
 ハ之ニ係ハレル一國ノ兵カヲ動員スルトキハ「ロシヤ」ハ西國ハコノ事件
 ニ関スル最初ノ告知ヲ受クルモ予メ協定ヲ行フ事ヲ候メスシテ直ニ且ツ
 同時ニ全兵力ヲ動員シソノ境界線ニ罷モ近キ地点ニオクルハシトシハ一
 ハ〇万人「ロシヤ」ハ七〇、又ハ八〇万人ヲ故乙ニ對シテ使用シ得ヘカラシ
 ムヘシトセリ、之等ノ兵力ハ故乙ヲシテ同時ニ東西ニ於テ戰ヲ行ハシムヘ
 キタメニ極メテ迅速ニ且ツ根本的ニ後事スヘシトセリ、而シテ西國ノ參謀
 本部ハ上述ノ処置ノ実行ヲ準備シ且ツ之レヲ支障ナキメウ行ハシムルタメ
 第ニ改義スヘシトシ平時ヨリ一方ノ知りタル三西國同盟ノ軍隊ニ関スル凡テ
 ノ情報ヲ互ニ交換スヘシトシ戰時ノ通信ノ道途及手段ヲ予メ研究シ準備ス
 ヘシトシタリ、又西國ハ軍事規約ニヨリ共同ニ戰ニ從事スル際ニ別々ニ協
 和セサル事トセリ、コノ收約ハ三國同盟ト継続期間ヲ同シクスルコトニ凡
 テノ條款ハ諒ニ秘密トナスヘシトセリ、之レ名ハ軍事收約タリト金モ實ハ
 應接義務ヲ規定スル同盟條約ニ他ナラス

一八九四年十一月「ロシア」帝「アレキサンダー三世」死シ「ニコラス二世」ヲ升「ニコラス」ハ一時独ニ近ツキ日清戦争ノ際遼東半島ニ関スル三國干渉ノ事アリシカ日清戦役以後「ロシア」ハ独帝「Alexis」ニ從ヒ秘東ノ経営ニ熱中スルニ至リ資金ヲ求ムルノ關係上佛トノ同盟ヲ利用セント欲スルニ至レリ

一八九六年十月「ロシア」帝ハヲ訪問シ九四年八月ハ大統領「Julia」カ宮札ノタメ「ロシア」ヲ訪問セリコノ時ハノ軍艦ノ上ニ於テ「ロシア」帝ト大統領間ニ交換セル檢校中ニ於テ初メテ互ニ外交同盟ノ國民「Nations amies et allies」ノ語ヲ用ヒタリ

三國干渉ノトメ外相「Sazanov」カ「ロシア」ト同盟アル事ヲ少シク表ハス（追窮サレ首相「Ribot」ハ利益ノ利益ヲ「Allies」スルト誤同化ス）

一八九九年八月ハノ外務大臣「Delcasse」カ「ロシア」ノ首都ニ於キメノ「パリ」ニ帰レル後一八九九年八月九日「ロシア」大政「Mout

nauvies 伯ハ帝皇ノ許司ノモトニ西政府カ *giers* ノ一八九一年八月

月二十一日ノ公文及 *Makrenheim* 男ノ一八九一年八月二十七日ノ公文及之ニ答フル *Ribot* ノ同日ノ公文等ニ於テ明記サル外交上ノ協定ヲ *Confirma* スルヲトケリ又一八九三年十二月二十七日及ヒ

一八九四年一月四日ノ *giers konstfelds* ノ公文ニ記載セル軍事協約案カ引續々有效ナルモトシ軍事協約ハソノ以前ハ三國同盟ノ存続ヲ以テ効力存続ノ條件トナセルカコノ以後ハ一八九一年ノ外交上ノ協定ノ存続ヲ以テ *gg* 軍事協約ノ効力存続ノ條件トナセリ

「ロシア」ハノ同盟ハ三國同盟殊ニ独ニ対スル防禦同盟ニシテ改ニ於ケル現狀維持ヲ手段トシ三國同盟ニ対立シテ改ニ於テ新ナル努力均衡ヲ作ラントセリコノ同盟カハニ於ケル一部ノ人ノ当初希望セルカ如ク「アルサス」「ローレンス」回復ノタメノ復讐戦争ノ用ヲナサシムルヲ得サリシニ「ロシア」ハノ孤立ノ地位ヲ救ヒ西國ノ外交上ノ威信ヲ加ハ殊ニハ人ヲシテ独ニ對スル危惧ノ念ヲ除クヲ得セシメヌ「ロシア」ヲシテ東方經營ヲナスノ余裕ヲ得セシメタリ

独乙ハ「ロシヤ」ハ同盟ノ成立ニヨリソノ普佛戦役後三國同盟ノ締結ニヨリ獲得セル外交上ノ霸勢的地位ヲ動カントスルヲ惧レシモ正面ヨリ露佛同盟ヲ敵視スルコトナク却テ歐州ノ事項ニ全盟ノ鏡鋒ヲ執セシメヒモ時ニ之レト共同の運動ヲナスヲサケスシテ同盟ノ独乙ニ対スル壓力ヲ減セントセリ

「ロ」佛同盟ハ欧ノ現状維持ヲ首眼トシテ三國同盟ニ対スルモナルモ一八九〇年日英同盟ナルモ「ロ」佛ハ共同シテ三月十九日ニ宣言シテ曰ク「日英協約ハ極東ニ於ケル「ロシヤ」佛西政府ノ政策ノ基礎トナストコト東洋ノ現状及平和ヲ維持シ清朝兩國ノ独立ヲ維持シ及之等兩國ニ対シテ *Open door* 主義ノ実行ヲ期スルヲ目的トスルモ「ロ」佛ハ自ラニナラズト必妥アルトモハ相当ノ手段ヲ考慮スルコトヲ皆保ストセリ之レ日英同盟ニ対抗シテ東方亞細亞ニ「ロ」佛同盟ヲ擴張スルノ宣言スルモノト解スヘキニアス

「ロシヤ」佛ノ同盟成リテヨリ強クセナクシテ独乙ハ同盟ノ自巳ニ対ス

ル壓力ヲ減スルカタメニ「ロシヤ」ヲシテ極東ノ經營ニ没頭セシメントシ巴レモコレト共同ノ行動ヲトルヲ俾セサルノ態度ヲトリシカ同盟ナリシ後「ロシヤ」ト獨トノ間ニ於テモ協商ナルニ至レリ「ロシヤ」獨ハ東方問題ニツキ利害ノ衝突ヲ有シ獨ノ故ニ同盟スルニ至レルハ主トシテ「ロシヤ」ニ対スル關係ニヨレモナルカ「ブルガリヤ」事件ニツキ「ロシヤ」獨ハ相衝突セリ *Stefanos* 條約ノ失敗ニツキ「ブルガリヤ」事件ノ失敗ヲ以テシ「ロシヤ」ハ「バルカン」方面ノ經營ヲ断念シ野心ヲ極東ニ執シ「バルカン」半島ニ於テ現状維持ノ政策ヲトリ一八九〇年四月獨ト「バルカン」方面ノ現状維持ノ協商ヲ結ヒ一八九〇年十月ニ於テ *Wingsberg* ノ協約ヲ結ヒ「バルカン」半島ニ関シテ政治上ノ現状維持ノ主義ヲトリ *Macedonia* ノ行政改革ヲ行ハシムヘシトナセリ一八九〇年十一月二十三日「ロシヤ」帝ハ独帝ニ告クルニ一八九七年ノ協約ニ從ヒ「バルカン」事件ニ関シテ平和及安穩ヲ維持セントスル「ロシヤ」獨兩國ノ努力ヲ強ムルタメニ「ロシヤ」獨ノ兩帝ハソノ中ノ一國カ單独ニ且ツ自ラ挑発スル処ナクテ現状維持ヲ爲マツセントスル第三國ト戰爭

状態ニ立ツニ至ルトキハ相手國ハ志實嚴正ナル中立ヲ維持スヘキヲ約束セ
ル事ヲ以テセリ「ロシヤ」帝ハコノ條約カ「バルカシ」諸邦ニ關係スルト
コロナクマ「ロシヤ」與西國カ政ノ東南部分ニ於テ平和的政策ヲ施行スル
商效力ヲ存続スヘキモ「ノナル事ヲ」林帝ニツケタルナリ

伊カ三國同盟ニ入ツテ後ハ伊ハ政治上通商上ニ於テ相及目セリキ、伊
政府ハソノ首相ヲ代ヘテモ常ニ三國同盟ヲ離レズ或ハ三國同盟ノ後援ヲ以
テ植民地ヲヒラクノ政策ヲ行ハントシムニ對スル敵愾心ニヨリ伊ノ内部ノ
團結ヲ固フセントシ甚々シキニヨリテハ「ピスマーク」等ノ背援ニヨリ國
内ニ自ヒノ地位ヲ固ムルノ個人的政策ノ故ヲ以テ伊ヲ三國同盟ト結合セン
トシム、英蘭ノ反目ノ狀態ニシテ屢々其ノ間ニ紛議ヲ生シ伊八一八八六年
仏トノ通商條約ヲ廢棄シ関稅戰爭ヲ開始セリ、而ルニ一八九六年三月ニ伊
カ *Agostinias* = 於テ大歐ヲウケテ歐三國同盟カ伊ノ地中海ニ於ケ
ル利益ヲ担保スル事ナキニ不保險ニ於テ仏ニ對スル關係ニ於テ政治上ノ不
安ヲ感セシメ經濟上ノ不利益ヲウケシメ而シテ全歐内ノ故スニ對シテ伊ハ
從屬的地位ヲ脫スル能ハサル等ノ点ヨリ三國同盟ヲ批難スルノ聲カ伊國內

ニ於テ漸ク高マルニ至レリ、且ツ仏ニ於テ「ロスマ」曰教徒ノ勢力衰ヘ伊
ハ「ロスマ」問題ニツキ或處スルヤ要セサルニ至レリ、而シテ仏ヲ敵視
スル事カ經濟上ニテ不利益ナル事著シ、茲ニ於テ英カ三國同盟ニ屬シテラ
「ロシヤ」ト「バルカン」半島ニ關スル上述ノ條約ヲ結ハルカ如ク伊モ又
三國ニ參捕シ海岸地中海ニ關シテ佛ト協商ヲ結フヲ得ヘキヲ思フニ至レリ
一八九六年九月二十八日伊ハ「ケニス」ニ於ケル佛ノ地位ヲ認メテ俄ハ
八九八年十一月二十一日西國ノ間ニ通商條約結ハレ一八八六年以來ノ関稅
戰爭ヲ終ラシメタリ

一九〇〇年十二月仏英西國間ニ公文交換セラレ伊ハ「モロツコ」ニ於ケ
ル佛ノ利益ヲ認メ仏ハ「トリポリ」ニ於ケル伊ノ利益ヲ認メ他日之等ノ利
益ニ關シ各々更ニ歩ヲ進ムルノ必要ヲミルトキハ他方ノ國ハ好意的態度ヲ
トルヘキ事ヲ約セリ、一九〇一年四月ニ *Geneva* 條ノ率イタル伊佛條
カ *St. Jean* ヲ訪問シ仏伊ノ新接近ヲ述ニ終束セリ、一九〇二年ノ三國
同盟更新ノ折佛ノ外相 *Delcassé* ハ七月三日下院ノ質問ニ答ヘ如何
ナル場合ニ於テモ又如何ナル形式ニ於テモ伊ハ仏ニ對スル攻擊ノ手段又ハ

補助者タル事ナカルハシト云ヘリ、コノ頃佛伊間ニ於テ第三國カソノ一方ニ対シテ戦ヲ挑メル場合ニ於テ他方ハ中立ヲ守リテ配サザルハヤノ約束ヲ存シメリ

△ 伊ノ接近ハ三國收商ノ枢軸タル英仏同ノ收商ノ派馳ナリ、伊ハ英トノ了解ナクシテ佛ニ接近スル事ハ困難ナル事情アレハナリ(海上ニテ英ノカニヨラサルヘカラサル) 伊カ佛ニ接近セル事ハ伊ノ三國同盟内ノ地位ヲ喪失セシメサルヲ得サルナリ、伊カ三國同盟ニ入レル主タル動機ハ仏トノ反目ニアリタレハナリ、且ツ *Prisht, Trent* 等ノ土地ヲ與ヨリ収メントスルノ *Agri, Preadantism* ノ運動カ伊人間ニ熾ナルヲ致シ又伊カ「アドリア」海ニ霸权ヲ振ヒ「バルカン」半島ニ勢力ヲ振ルヘシトスルノ理想(アドリア海ニ於ケル勢力均衡)ニ外ナラス、コノ理想ハ教員ノ伊人ノ抱クトコロナリ、伊人ノ志望ハ埃ハ凶南ノ計ト相衝突ス、ソレ故ニ埃伊間ニ反目ノ情漸ク盛ナルヲ致セリ、兩國政府ハ「バルカン」問題ニ関スル現状ノ維持ノ約ヲナセル之レ一時ノ妥協ニスミス、一九〇二年ノ四月秋ニ首相 *Bulom* ハ佛伊接近ヲ以テ *Tour de Val*

ニキ。

一 *De* ニスキストシテ夫婦間ノ感情ヲ害スルニタラスト戲語シ地中海ニ於テ重大ナル利害ヲ有スル佛伊兩國カ收商ヲナスヲ得タルハ故乙ノ稅賣スルトコロナリト欲セルモ莫ニセレヲヨロコハルニアラス

○ 英仏兩國ハ十七世紀ノ半頃以後屢々相争ヒ英ハ仏ヲ以テ取及ヒ英外植民地ニ於ケル敵敵トナシ十八世紀ヨリ十九世紀ノ初メニ至ル數次ノ戦争

一 *Opium* 從統戰等 埃羅戰戰等、米被立戰等、南北戰等)ニ於テ仏ノ海上國及植民國トシテノ勢力ニ打撃ヲ加ヘタルカ十九世紀中ニ於テ英ハ佛ニ仏ノ擴張ニ對シテ反對ノ態度ヲトレリ、仏ノ *Algeria* ノ併合ニ英ハ之ヲ妨害セント欲シ又仏カ「エニニス」ヲ保護國トナセヨ英ハ「バルリン」會議ノ際ノ國約アルニモ條ヲス之ヲ喜ハサルノ色ヲ示シ「アフリカ」 *Niger* 河流域地方 *Dahome* 及 *Congo* 流域地方ニテ之兩國等ヒ殊ニ「エダプト」ニ於テ「スエズ運河」ノ開鑿以後一八七一年 *Sidraeli* (*Beaconsfield*) カ「エダプト政府」ノ所屬スル運河ノ株式ヲ買収シテ会社ノ實权ヲ收メテ數年ニ一八八二年英ハ「エダプト」ヲ占領シテソノ後ニ占領ヲ撤スルヲ公言シ十カニ之ヲ行ハ

ニキ。

サルノミナラス一八九五年ノ頃カッテ十年前ニ *gladstone* ノ提案セ
ル *sloudain* ヲ再ビ征服セント欲スルニ至レリ (*sloudain*)
カ行ハレントス

仏モ亦遠征隊ヲコノ方面ニ派シタリ。一八九七年ヨリ九八年ニ至リテ、
Niger 流域地方 *Soudan* ニ関スル英仏ノ紛議絶頂ニ達セルカ一
八九八年六月ノ条約ニヨリ *Soudain* 及西部「アフリカ」方面ノ英
仏ノ勢力ノ及フ限界ヲ定メタリ。然ルニ一八九八年七月一日仏遠征隊ノ一
ヲ率ユル *Marschand* 少佐 (*Niger* 河ヨリ上ル) カ *Sack-*
-oala ニ着シ *Sand Kitchener* ノ *Kaitgum* ヲナニ
ハレ獲勢ノ英兵ヲ率イテ来リ会シツイニ一旦仏ノ國旗ヲ掲ケタル *Sack-*
-oala ヲ撤退セサルヲ得サルニ至レリ。英仏間ニ危機ヲ生シタルモ仏
ニ屈シテ一八九九年三月二十一日英仏西國間ニ條約結ハレ仏ハ *Soud-*
-ain ニ於ケル英ノ勢力ヲ認メタリ

Transvaal 戰爭中英仏ニ國間ニ惡感情漸シハ仏ハ英ニ干渉シ明ケ
ハラス) X *neufundland*, *janjibar*, *madagascar*

Morocco *Liam* 英ニ於テ英仏西國ノ紛議ノ原因ヲ存シタリ、
然レニ英ハ *Egypt*, *Soudain* 及 *Niger* 地方ニ於テソノ威ヲ
逞シフシトモ *algeria*, *Tunisia* 及 *Congo* 地方ニテ威ヲ
逞シフセルヨリ喧争ノ事件ハ大体ニ於テ事實上ノ解決ヲ得且ツ仏ハ國勢ノ
拡張ヲ地中海ノ西岸ニ限リ英俾トノ接近ヲ求メントスルニ至リ英モ漸ク独
乙ノ競争ヲ感シ仏ト平和ヲ求ムルノ意盛ナルヲ以テ西國ハ植民地ニ於ケ
ル既成事實ヲ認ムルノ基礎ニヨリ相接近シ得ヘキニ至レリ。之ヨリ先英枝
ノ關係ハ良好ニシテ英ハ三國同盟ニ接近セルカ故ニカ漸クソノ *Ag. We-*
-stpolitik ニ對シ海外ニ植民地ヲ求ムル計画ニ努カスルニ至
リ又ソノ榮達セル商工業カマ、モスレハ英ノ利益ヲ侵シ殊ニ「ウイリマム
ニ並」カ故ハノ將來ハ海上ニマリ、 *Werner* *premier* *light-*
ampoleur *meert* 称シラソノ海軍ヲ盛大ニセントシ歐ノ内外ニ互
リ干渉力ヲ振ハントスルノ傾向ヲ生シ英ハ故ヲ以テ海軍上、通商上又殖民
上ニ於ケル英ノ將來ノ敵トナスニ至リ独ニ傾カントスル歐ノ勢力均衡ヲ破
破センカタメニ仏ニ接近セントスル思想カ英人間ニ盛ニナレリ。一八九六

年独帝カ Dr Jameson (Cecil Rhodes、子令) Raid 行
 セルヲ視セル意欲ヲ *Dr Jameson* 大統領 *Kimberley* 送リシ
 中ニ *Pringle* *Conner* ノ機ヲ得スミテ自兵ノ兵カヲ以テ之
 ニカチテ都ニ對シテ國土ノ故地ヲ免フセルヲ欲フノ意ヲ述ヘシコト英人ヲ
 噴ラセ南北戦争中故ハ「ロシヤ」及佛ト共ニ英ニ對シテ干渉スルノ企圖ヲ
 擔保スルノ為東ヲ結ハン「」ヲ求メ弗カ之ヲ拒絶シ干渉ニ関スル談判極メリ
 トシフ、ハアルサス、ローレンスニ関シハ困難ヲ感ス
 英ハ故ニ干渉計画ヲ行フヲ妨ケント欲シ一八九九年 *Jameson* 事件
 ニツキ故ニ對シテ讓歩ヲナシ西國ノ干渉一時良好トナレリ、(*Quil-*
-y Telegraph) 通信員ニ話セルヲ英ノ參謀本部ニシラス
 一八九〇年各國カ北支那事件(義和團事件)ノ善後策ニ苦心セル折「ロ
 シヤ」ハ滿州ノ占領ヲ永久ニセント企テニヨリ南國ノ門ヲ開放及領土保全ニ
 関スル英独同ノ條約ナレリ(十月十一日)一八九九年ヨリ一九〇〇年ニ至
 ル「ベネチエラ」内乱ノトキ英独兩國民ノウケシ被害ノ賠償ヲナサシメハ

九〇二年ノ末「ベネチエラ」ニ對シテ共同行動ヲトリ「ベネチエラ」ノ機
 嫌ヲシテ彼ニ於ケル要塞ヲ砲撃シ且ツ封塞ヲ行ヘリ、然ルニ一九〇一年ノ
 頃ヨリ英ニ於テ故接近ヲヨロコハサルノ思潮着シク故カ英ト結ハル清國ノ
 領土保全ニ関スル條約ヲ撤回シ滿州ヲ念マストナセルコトハ英ニ英人ヲ怒
 ラシタリ、故ニ對スル及同ハ直チニ仏ニ對スル親和ノ感情トナリテ現ハ
 レタリ

佛ハソノ膨脹ヲ西部地中海沿岸地方ニ越限シ且ツ伊英ト接近シテ故ノ外
 次上ノ勢力ヲ打破シテ行動ノ故立ヲ回復セントセリ、英仏ノ接近ハ益々之
 ニヨリテ促進サレタリ、仏ハソノ企圖タル「ロシヤ」カ故ニ、英ト故
 商シテ「ロシヤ」ノ兵カハ極東ニ向ヒ三國同盟ニ對スル「ロシヤ」仏ノ同
 盟ノ圧力ノ着シク減少セル際ニ英ト接近セルコトハ仏ノ外交上ノ威信ヲ加
 フル所歟ニシテ、「モロツコ」ヲ得テ之ニ代ハテ「エチオピア」ニ對スルソ
 ノ主張ヲ擲ツテ不羈ナキヲ以テ仏ハ英トノ接近ヲ求メタリ
 英仏ノ接近ヲ促進セシメタル殊數ハ英王「エドワード三世」及仏ノ外相
Delcassé ナリ、一八九〇三年五月ニ於ケル英王「エドワード三世」及仏ノ外相
 「バリー」訪問ハ非
 二七五

事ナル成功ニシテ七月ニハノ大統領 *Howell* コレニ答ハテ「ロシド
ン」ヲ同ヘリ

○今年十月十五日西國ノ間ノ法律的紛義氣中西國間ノ條約ノ辭款ニ関スル
紛義ヲ仲裁ヲ判ニ付スルヲ約束スル *Ag* 永久的仲裁及判条約ヲ結ヘリ
之ヨリ先一九〇三年六月ノ頃ヨリステニ英仏間ニ於テ外交談判行ハレ居
リシカ治モ我國ト「ロシヤ」トノ和破レハハ「ロ」仏同盟ニヨリ「ロシヤ」
ノタメニ戰ニ引入レラルルニ至ランコトヲ恐レ、英モ曰英同盟ノ關係ニヨ
リ仏カ戰ニ入レハセシモ我國トノ于條上應援ニ加ハラサルヲ得サルニ至ル
ヘキヲ以テ兩國相接近シテ相援ケテ中立ヲ守リ共ニ戰禍ニ捲込マルヲ防ク
ニ努メ英仏ノ談判ハコノ点ヨリモヒラレタルモノ、如ク一九〇四年ノ四月
八日英仏條約ナレリ、一九〇四年ノ *Ag* 英仏 *entente* ナルモノハ
一ツノ條約及ニツノ宣言ヲ含メリ
一ツノ條約ニヨリ *Neufornland* 及西亞ニ於ケル英仏間
ノ事ノ源ヲフサケリ
又一ツノ宣言ニヨリ「エジプト」及「モロツコ」ニ関スル政治上ノ現状

維持ヲ相互ニ約セルカハハ「エジプト」ニ於テ英ノ占領ニ期向ヲ定ムルコ
トヲ要求セサルヘク、又英ノ施設ニ反対セサルヘキ事ヲ約シ、英ハ又「モ
ロツコ」ニ於テ仏ノソノ國ノ安寧ヲ監視シソノ要スル行政上、經濟上、財
政上及軍事上ノ改革ヲ補助スル事ヲ談メシニ関スル仏ノ行動ヲ妨ケサル
事ヲ約セリ

而シテ仏ハ「エジプト」ノ對謀ナシ
西河ノ「モロツコ」ノ海岸ニ沿フテ要塞ソノ起ノ防禦工事ヲ設ケサル事ヲ
約シ以テ海峡ニ関スル英ノ利益ヲ談メタリ
斯クノ如クシテハ「エジプト」ノ現状ニ承認ヲ與ヘ英ハ「モロツコ」
ニ於ケル仏ノ自由行動ヲ許容セリ *Mouloungou*、*Selou*
「エジプト」及「モロツコ」ニ関スル宣言ニ附屬セル秘密條項ニヨリ西
國ハ止ムヲ得サル事情ニヨリ「エジプト」又ハ「モロツコ」ニ関スル政策
セサルヘカヲサレ場合ニハ宣言中ニ約セル通商上ノ均等ノ担保「スエズ」
運河自由航行ノ担保及「モロツコ」ノ防禦工事ノ禁止等ニ関スル宣言ノ條
款ハ変更ヲウケサルヘキ事ヲ定メ又兩國ハ「モ」立法制度ヲ他國ノ父

明諸國ニ於テ行ハルモノト全様ナラシメル目的ヲ以テ改革ヲ加フルヲ望マ
ント思惟スルトモハ互ニ斯クノ如キ定義ヲ支持スヘキ事ヲ約セリ
又宣言^各、秘密條款中ニ於テ「スペイン」ニ對シ *Melilla zone*
of interest *ceuta* 其他ノ西領ニ近接セル土地ニ於ケル利益範
圍ヲ認メコノ地ノ行政ヲ「スペイン」政府ニ委スル事ヲ決定セリ

而シテ上述ノ宣言ト同時ニ他ノ宣言ヲ結ヒ「シマムニ於ケル英仏ノ自由
行動ノ範圍ヲ *Melram* 河ノ西ト東トニ分テ *Madagascar*
*Condominium*ノ関稅制度ニ關スル英ノ抗義ヲメキ又 *And*
*Africa*ニ於テ土ハニ對スル司法制度及英仏ノ土地所有者ノ紛義ニ對
シ一ツノ決定ヲナセリ、之等ノ條約及宣言中ニ於テ最モ重要ナルハ「エチ
プト」及「モロッコ」ニ關スル宣言ニアリ

○ 英仏ノ協商ハ仏ノ方面ニ於テハ *Delcasse* ノ新政策トスル

第一、仏ノ發展ヲ自然的發展地タル西部地中海沿岸ニ限リ他國トノ衝突ヲ
サクルコト
第二、仏ノ外交上ノ行動ノ自由ヲ得ルタメニ英、及伊ト接近セントスルコ

ト
ノニツク實行セルモノニシテ英方面ニ於テハ歐ノ勢力均衡ヲ回復スルノ外
交上ノ霸勢的地位ヲオハラシメ英ノ海上ノ権力ヲ侵スノ力ヲ弱メシメント
セリ

英仏間ノ多年ノ關係ハコノ時ヲ以テ相一變シ前ノ佛伊協商後ノ仏西ノ協
商及英國ノ協商ト合シテ外交上ノ革命的事件ヲ組成セルモノナリ、仏英ノ
協商ハ仏「ロ」同盟ト共ニ三國協商ノ樞軸ヲナスナリ

英仏協商中ノ條款ニ仏西間ニ談判行ハレ一九〇四年十月六日ノ宣言ノ公
示セラレシ條款ニ於テハ西國カ「エチプト」及「モロッコ」ニ關スル英仏
間ノ *Declaration*ニ賛同スル事ヲ説キ西國カ「モロッコ」ノ *Aut*
*onomy*ノ主權及領土保全ヲ維持スヘキコトヲ宣言スルニ止マレルモ秘密
條款ヲ以テ「モロッコ」ニ關シチ仏及「スペイン」ノ間ニソノ勢力ヲ及ホ
シ得ヘキ所ヲ利益範圍ヲ相互的ニ認メタリ

英仏西間ニ與ニ決定トケラレ一九〇七年五月十六日ニ至リテ地中海及ヒ
太平洋エヒンスル政及「アフリカ」ニ於ケル領土上ノ現状維持ノ主義ノ宣
言ニ至リ

ヲスルニ至レリ、英仏ノ攻南ナルモ、俄帝ハ一九〇四年四月ヨリ五月ニ亘リテ屢々殺氣ニミケタル主戰論的說演ヲナシ、俄首相ノ *Beiloid* ハ四月中旬ニ於テ英仏牧商ニツキ、俄ノ利害ニツキテ異義ヲトナシ、ハヤトコロヲ見スト公言セリ、然レトモ、俄ニ於テ英仏牧商ニヨリ外交上ノ勢ヲ減セラル、事ヲ感シ、俄ニ對シテ *Anglo* 四面包圍 *Umpressierung* *emcin-* *clament* ノ政策ヲ行フモノト稱シ、俄會ヨシテ、俄ノ如ハレル、歐ノ新結合ニ對シテ打撃ヲ加ヘントセリ、第一ニハ「モロツコ」事件ナリ

第一、「モロツコ」事件
 俄ヲ中心トスル三國同盟ニ對スル「ロシヤ」佛同盟内ノ如ハ英トノ收府ニヨリ英ニ近キ、而シテ三國同盟内ノ如カ、俄ニ接スルニ至レルヲ以テ、俄ノ外交上ニ於テ優勝ナル勢カヲモナクシ、俄勢ハ一衰スルニ至レリ、茲ニ於テ俄ハ四面包圍ノ政策ヲ犧牲トナレリト稱シ、俄會ヨ見テ、俄ノ如ハレル新結合ノ依賴ヲ進キ、ヲ示シ、以テ、俄ヲ脅威シテ、ソノ行動ノ自由ヲ失ハシメ、タソノ前途ニ於テ新結合ヲ破壊シ、以テ「ビスマルク」ノツケレ、ル、俄ノ敗ニ於ケル外交上ノ露勢的地位ヲ恢復シ、且ツ、俄ノ去界政策ノ障礙

ヲ去ラントセリ

曰露戰役ニ於テ、俄ノ同盟國タル「ロシヤ」シタリニ破レルヲ以テ、俄ハ時期至リトナシ、「ロシヤ」軍カ奉天ニ發レテ、俄會ヲモナクシ、一九〇五年三月三十一日、以テ、俄帝ハ「モロツコ」ノ *Tongprien* ニ上陸シ、當時、仏カ英トノ牧商ニ基キ、「モロツコ」ノ *Sultan* ニ對シテ、國內ノ改革ノ談判ヲ行ヘル際ニ於テ、「モロツコ」ノ *Sultan* *Tog* ノ代表者ニ對シテ、俄帝ハ「俄カ *Tongprien* ヲ訪問セルハ「モロツコ」ニ於ケル、俄ノ利益ヲ有初ニ担保スルタメニ、俄ノナシ、アタフ限リ、ヨツクサントスルニ決心セルコトヲ知ラシムル爲ナリ」と公言シ、且ツ「モロツコ」ノ *Sultan* ヲ以テ自由ナレ、專制君主ト考マル故、俄ハ *Sultan* ト牧商セントス」と公言シ、而シテ四月十二日ニ、諸國駐劄ノ俄大使ニ對シ、回章ヲ發シ、俄ハ終始、俄ヲ諒外シ、英及西國ト牧商ヲ結ハルヲ以テ、俄ハ「モロツコ」問題ニ關シテ如何ナル方法ヲ以テシテモ拘束セラルルコトナシトシ、而シテ「モロツコ」ニアル外國ノ公館ノ土人ニ、英ナル保護ノ制限ニ關スル一八八〇年ノ *Madrid* 條約締結國ヨリナル列國會議ヲ

聞キ「モロツコ」問題ヲ解決スルト云フ事ヲ独ヨリ提議セリ

Belcredi ハ列國會議ノ提議ヲ拒絶セントセシカハニ於テ独ニ対抗スルノ軍備カチ「ロシヤ」マサニ日本ト戦ヘル故ハテ機ケルノ余カチテ英及西トノ援助ニ於テ兵力的援助ノ義務ヲ定メサルヲ以テ独帝ノ目シテ独乙四面包圍策ノ根本ハトナセル *Belcredi* ハ六月十二日辭職ヲナスノ止ムナキニ至レリ、内閣總理 *Rauvion* 代ツテ談判セリ、七月八日、九日、十日ノ收約ニヨリツヒニ列國會議ヲ開クコトヲ認メタリ之等ノ收商ノ内容ニ於テハ弗カ「モロツコ」ニ関シテ従来主張シタル主義及ソノ特殊地位ヲ否認スルコトナキモ弗ノ外務大臣ヲ辭職セシメ又列國會議ヲ開催スルニ至レルハ独外交ノ勝利ト云フヲ得

一九〇六年十月十五日諸國ノ委員カ *Agassiz* ニ会セル頃ハノ軍備ヤトトノヒ又「ロシヤ」ステニ日本國ト構和セリ、英モ歐ノ勢力均衡ノタメニハテ機ケルノ必要ヲ感シ西ハ一九〇五年九月一日更ニ仏ト約スルトコロアリキ、独帝ハ深ク三國同盟内ノ二國ニ依頼シ又個人的ニ「ロシヤ」帝ノ中立ヲ求メントシ英及西ニ至リテハソノ佛トノ利害ノ衝突ニヨリテ之ヲハヨリ商レシメ得ハント考ヘタリ

會議中秋ハ仏ヲ孤立セシムルタメニ開港場ノ警察ノ編成問題ニ関シテ種種ノ策思ヲ用ヒ仏ノ提議ニ反対シ又他國ノ折衷案ヲ返ケシカハレヨ機ケルノ固少ナキヲ見テ一旦讓歩ヲナスノ態度ヲナシソノ折ニ弗ノ内閣ノ更迭アルヤ独委員ハ更ニ前主張ヲトリテ諸國駐劄ノ独大使ニ対シテ *Agassiz* *Maad* 會議委員ノ多数カ弗ノ主張ヲ機ケサルハフ独ハ佛ヲシメ屈服セシメントスル事ヲ打電シ、又独帝自ラ *Roadstelet* ニ対シテ他ノ諸國カ悉ク仏ノ主張ヲ機ケサルヲ以テ佛ヲシテ讓歩セシムルニツクスヘキコトヲ求メタリ、然レトモ仏ハ履セズ英ハ制限ナク又自保ナク丸ヲノ点ニ於テ佛ヲ機ケルコトヲ諸國ニ告ケ *Roadstelet* モ独ノ主張ヲ機ケルヲ得ストシ「ロシヤ」モ亦仏ノ要求ヲタスタ、キコトヲ諸國ニ打電セリ、茲ニ於テ独ノ主張ヲ機ケルハ塊一國ニ止マレリ、独モコノ氣勢ヲ見テツヒニ讓歩シ三月二十七日主要ノ点ニツキ收約ナシ、實際上ニ於テ仏ノ要求カ多ク認メラルルニ至レリ

Agassiz 會議ノ結果ハ西ト共ニソノ「モロツコ」ニ於ケル特

〇九年五月一日ヨリ *Magpie* ニソノ仲裁々判廷ヲ開キ五月二十二日判
 決アリ、相方ヨリ謝罪ヲ行ヒ脱走者ニ対スル裁判権ハ占領軍力之ヲ行フト
 云フコト認メラレタリ、コレ *dy Cadablanza* 事件ト云フ、
 一九〇八年ヨリ九年ニ亘ル「バルカン」事件ノ折（ボスニア、ハーツエ
 ゴビナヲ合併ス）一七〇九年二月ハ、独断ニ新タナル改約ナリタリ、コ
 レニヨリ独ハ「セロツコ」ニ於テ経済上ノ利益ノミヨリ目的トシムノ政治的
 特殊利益ヲ妨害セサルヘキ事ヲ約シムハ「セロツコ」ノ独立及領土保全ヲ
 約シ、経済上ノ都合均等ヲ約シ「セロツコ」ニ於ケル事業ニ関シテ西国人ノ
 共同ノ便ヲハカルヘキ事ヲ約束セリ

英露協商

英「ロシヤ」ノ間ニハ「東部アジア」「中央アジア」並ニ黒海及地中海ノ
 東部等ニ於テ利害ヲ異ジ「クリミア」戦役ニ於テ互ニ戦ヒ「バルリン会議」

ニ於テ等ヒ英ハ「中央アジア」ニ於テ「ロシヤ」ノ南進ニソナハントシ西
 國久シク相反目シ日露戦役ノ折ノ *Hull* 事件ノ如クハ兩國兵ノ反目ノ状
 ヲ加ヘタルヨリハ「調停」ニヨリ「ペリー」ニ開ケル國際調査員會 *Joint-
 national Commission of Inquiry* ノ議ニ附シテ事
 ナキヲ得タリ、日露戦役中「ロシヤ」独ニ西帝ノ一九〇五年七月二十三日
 ヨリ二十四日ニ亘ル *Brookline (London)* ノ公合ノ折ニ西帝ノ間ニ主
 トシテ英ニ対抗スル同盟條約結ハレタリ（二十四日）仏ラ主ニ如ハラシム
 ル事トシテ採ヲモ加ハントシタルモノノ如シ、ソノ「ロシヤ」佛同盟條約
 ト西ニシテ故ヲ以テ「ロシヤ」ヨリ英策ヲ主張スルニ至レリ、一九〇七
 年 *Albania* ノ会見ニ於テ「ロシヤ帝」ハ英策ニ関シテ俄帝ニ明
 言セリトス、コノ以後「ロシヤ」独ニトノ關係ハ良好ナルヲ有サリ、
 日露戦役後「ロシヤ」ハ侵襲的政策ヲトルノ余裕ナク英ハワカ國ヲシテヒ
 トリ松東ニ於テ警力ヲ退フセシムルヲ欲セスワカ國及「ロシヤ」ト共ニ友
 邦トナスト同時ニワカ國ニ対スル勢力ノ均衡ヲ東亞ニ於テツクラント欲シ
 「ロシヤ」ニ接近スルヲ利益ナリトセリ、而シテ近東方面ニ於テ俄ズカ
 二入キ

トルコ」ニ於テ勢力ヲ得「バグダッド」鉄道ヲ通セルヨリ依テ、勢力ノ増進ヲ以テ印度及ソノ通路ニ對スル危險ヲ生シタリトナシ「ロシヤ」ニ接近スルヲ利ナリトセリ、カソノ如ク東亞及「トルコ」ノ問題ニ関シテ英、「ロシヤ」ノ同ニ利害ノ衝突ヲ存セサルニ至リ及ツテ兩國ノ接近ヲ求メシムルノ事漸ク生セリ、日露戰役中一九〇三年英、「ケベツト」遠征（*Young* *Expedition*）ハ「ロシヤ」ノ精銳ノ目ヲ以テ見タルトコロトルカ（*Belucistan*）河域ニ占領軍ヲオクテ勢力ヲ伸ス（日露戰役後「ロシヤ」ハ專ラ國力ノ回復ト「ベルカン」方面ノ勢力ノ維持ニカヲ注カントシ、英ハ独乙ニ對スル關係ヨリ弗及ヒ「ロシヤ」ニ接近セシトセリ、「モロッコ」事件ニ際シ独乙ノ高圧的政策ト弗ノ開放トハ英露ノ接近ヲ助ケタリ、

會議ノ際ノ非公式談判ニ基ツテ兩國間ノ利害ノ衝突ヲ生スルオソレアル地方的問題即今中東問題ヲ整理シ一九〇七年八月三十一日英露協商ナレリ「ベルシヤ」「アフガニスタン」及「ケベツト」ニ關係ス、「ベルシヤ」ハ印度ニ連絡スルノ通路ノ一ニ當ルヲ以テ英カ利害關係ヲ有スルトコロナリ、又不冬港ニ對スル道ノ一ナル故「ロシヤ」ノ利害ヲ有スルトコロナリ、英ハ東ニ南方線ニ「ベルシヤ」獨頭ノ勢力ヲシメ「ロシヤ」モ亦北方ニ於テ勢力ヲシメ殊ニ英露協商ノ結ハルルニ先ツ二十年間ニ於テ「ロシヤ」カ經濟上、及政治勢力ヲ增加セルコト著シクナリ、英露協商ニ於テハ「ベルシヤ」ニツキテ北部ヲ「ロシヤ」ノ利益範圍トシ東南部ヲ英ノ

Sphere of interest

トシ之等ノ地域内ニ於テ相手ノ聯盟國ハ政治的或ハ商業的性情ヲ有スル何ラノ *Concession* ヲモ自國ノタメニ要求セズ、又自國民又ハ第三國民ノ利益ノタメニモ支持セサルコトヲ約束シ利益範圍ヲ認メラレシ國カソノ地域内ニ於テナクハモ特權或ハ承諾ノ要求ニ對シ直接又ハ間接ニ反對セサル事ヲ約セリ、又「ベルシヤ」ノ財政上ノ監督ノ必要ナル場合ニ関スル終局ノ手段ハ双方合意ノ上之ヲ行フハシトセリ、兩國ノ南北ノ利益範圍ノ中間及「ベルシヤ」等ノ全沿岸線ハ何レノ利益範圍ニモ屬セザル地域トセリ、而シテ「ベルシヤ」等ニ関シテハ談判中「ロシヤ」カ英ノ特殊利益ヲ認メタコトヲ明ニスル公文ヲ公ニセリ「アフガニスタン」ニ関シテ英ハ「ロシヤ」ノ印度ニ向テ南進スルニ對

抗スルカタメニ利害ヲ有ス「ロシヤ」ハ「クリシア」戦後ノ後一八六一年
 ヨリ遠征ヲ起シ *Tashkend* *Damaskind* *Kelisa* *Kokand*
 等ニ *Turkestan* 領ニ得タリ「アレキサンダーニ去」カ一旦近東
 ニカヲ用ヒ「トルコ」ト戦ヲヒラキニカ「ブルリン」会議後中東ノ征服ヲ
 企テシヒ *geste* *Terekh* ニアル *Turcoman* ノ要塞ヲ陥入レ英
 軍ニ対スル激戦ノ約ニソムキテ一八八四年二月ニハ *mevri* ヲ併セ英カ
 判ヲ以テ事ヲ遂着セシメント歟スル間ニ「ロシヤ」ハ「アフガニスタン」
Pendjeh ヲ奪ヒ一八八三年二月ニハ *Salah* *Khajir* *Khajir* ヲ占領シ一八九一
 年ニハ *Paninin* 西京ニ「ロシヤ兵」現ハレメリ「英」ハ「ロシヤ」ノ
 南進ニ対シテ「アフガニスタン」ヲ保護セントセリ
 英ニ於テハカツテ *Harward* *Policy* 前建政策行ハレテ前後二回
 「アフガニスタン」ヲ得タルカソノ後 *Burlier* *P. 蔽障* 政策行ハレ一
 九〇五年 *Wale* ノ派遣以後英ト「アフ」ノ關係良好ナルヲ得タリ「英」
 ハ「アフ」ニ毎年補助金ヲ英ハ「アフ」カ自ラ挑発セサル攻撃ヲウケタ

ルト云ハ英カ之ヲ救フヘシトシ「アフ」ハ直接列國ト交渉ヲナサハルコト
 トセリ

英「ロシヤ」ノ收約ハ大体ニ於テ「アフ」方面ニ於ケル現状維持ヲ約セ
 ルモノナリ「アフ」收約ニ於テ「ロシヤ」ハ政治上ノ現状維持及商業上ノ機
 会均等主義ヲ担保セルモ英ノ優越ナル勢ヲ持ツコトヲミトメ「アフ」ニ
 対スル一切ノ政治上ノ交渉ハ英政府ノ仲介ヲヘテ之ヲ行フコトヲ約シ「ア
 フ」ノ国内ニ駐在英軍ヲ派遣セサルコトヲ約セリ
 「アフ」ニ於テ英カ之ト印度トノ間ノ最少國ヲ征服シ一八九〇年ニ
 ハ「チベット」ノ「チスタ」河ノ流域ヲトレルヨリ「チベット」人トノ關
 係良好ナルヲ得ス「ロシヤ」ハ *Thatta* *Palai* *Samra* ヲ
 教主トシテ仰ク佛教徒ヲシテ臣民トスルノ故ヲ以テ屢々「チベット」ニ使
 節ヲ派遣シテ一八九〇年ニハ「チベット」ノ保護ニ關スル條約ヲ結フノ談
 判ヲハシメタリ「印度總督」 *Curgen* ハ英ノ威信ヲ高ハルノ爲メアリ
 トシテ一八九三年 *young* *Kadland* 大佐ノ「チベット」遠征ヲ見
 ルニ至レリ「ロシヤ」ハ翌年二月ニ日露戦役始メリ「チベット」ノコト

ヲ願ルヲ得ス。一九〇四年七月 *Young Haddand Thasser*
 ニ達シ *Galatama* ハステニフカレシモ *Tama* ノ政府ノモノ
 ト條約ヲ結ヒ巨額ノ債金ヲ入レシメ英ノ承諾ナクシテソノ領土ヲ外國ニ売
 却シ祖代シスハ抵当ニスルコトナキヲ約セシメ條約上ノ義務履行ノ担保ト
 シテ *Chumbe* 流域ヲ占領スルニ至レリ。條約ニオイテ「チベット」ニ
 関シテハ支那ノ丁ニ對宗主板 *sovereignty* 及領土保全ヲミトメ西
 國ハ「チベット」ノ内訌ニ関與ヒス又自國ノタメスニ臣民ノタメ特權讓許
 フ求メサルヲ約セリ

英露條約ハ兩國間ノ紛議ノ原因ヲ英仏俄國トトモニ改ノ外交界ニ
 新生面ヲヒラセ二國條約ナルモノ成立シ *Triple Alliance* ヌー
 ル〇七年六月七日ニ結ハレシ日仏日露ノ條約トアハセテ向後ニ東亞ニ於
 ケル平和擾亂ノ原因ヲ除キスルコトニ貢獻セリ
 一九〇七年八月三十一日ノ英露條約ノ締結ハ三國同盟ニ對立スル三國條
 約ヲ完成スルニ至レリ。該條約ハ一九〇四年ニ於ケル英仏俄國ノ如ク元來
 歐以外ノ事項ニ関シテ干渉國ノ紛議ヲ去レルモノナルモ此ノ條約ニ基ツク

干渉國ノ接近ハ「ロシヤ」ハ同盟トトモニ獨乙ノ外交上ノ漏弊ノ地位ヲ主
 張スルニ對抗シテ勢力均衡ヲ維持スルノ作用ヲナスニ至レリ。然ルニ俄ハ
 新結合ノ成立ヲ目シ自ヒヲ包圍スルノ陰謀トナスヲアラタメヌ一九〇七年
 英仏西國ノ第二ノ條約ハ地中海並ニ歐及「アフリカ」ニ直接スル大西洋ノ
 部分ニ関スル領土上ノ現狀維持ヲ原則トシテ結ハレタリ。英「ロシヤ」ハ
 一九〇七年條約ノ後ニ一九〇八年六月ニ「ロシヤ帝」ニ「コラスニ在」ト
 英王「エドワード三世」トノ *Reval* ノ會見ノ後七月二十四日「バルカ
 ニ」半島ノ「マセドニア」ノ改革ニ干シテ條約ヲナセリ。「ブルガリア」ノ
 獨立宣言ト喚ノ「ボスニア」ハ「イツエゴビナ」聯合ノ宣言ニヨリテオコレ
 ル「バルカン」事件ノ折ニ秋カ「ロシヤ」ニ脅威ヲ與ヘテコレヲ廢シ以テ
 英「ロシヤ」等ノ結合ヲ破壞セント欲シ恰モ「モロツコ」事件ニ於テハニ
 對シテ行ハルトコロヲ「ロシヤ」ニ對シテ行ハントセルカ却テ英「ロシヤ」
 接近ノ勢ヲ加ハシメタルニ終レリ。條約後ノ「バルシヤ」ノ内訌ニ際シテ
 毛條約カ「アフガニスタン王」承諾ヲウケサルニ不條「ロシヤ」ハ條約ノ
 精神ヲ重シシテ干渉ヲ行ハサリヌ

三國同盟内ノ伊ハ先ニ伊仏間ノ條約ニヨリ仏ト接近セルカ伊ト英トノ旧
 来ノ關係ハ英ト仏トノ接近ニヨリ之ヲ維持スルヲ得ルニ至レリ、伊ハ三國
 同盟内ノ英ノ「バルカン」ニ於ケル發展ノ政策ノタメニ益々コレト反目ス
 ルニ至リ、*Moriri Bazar*ヨリ *Stalovanka*ニ連綿スル鐵道
 ヲシテ計画ニ及サスル「ロシヤ」ノ *Paniske asiatic* 鐵道計画
 ヲ助ケ又、*ボスニア*「ハーツエゴヒナ」聯合ノ折(一九〇八)行動ヲ
 英仏「ロシヤ」ト共ニスルニ至レリ、伊ト「ロシヤ」トノ關係ヲ見ルニ「
 ロシヤ帝」ハ一八九六年三月ノ伊ノ「アルビニヤ」遠征ノ失敗ノ際「アル
 ル」警備ヲ共ニシトスフ凡解アリテ伊人コレヲ合メリ、*Princed*カ伊ノ
 外相トナルニ及ヒ「バルカン」問題ニツキ「ロシヤ」ト共同スルノ策ヲ又
 テ伊王 *Victor Emmanuel* 即位ノ折、*ヴィン*ニ先キ
 「ロシヤ」ノ首都ヲ訪問セリ、其ノ後「バルカン」半島ニ関シ「ロシヤ」
 與國ノ一八九七年及一九〇三年ノ改商ナレルヨリ「ロシヤ」伊接近ハ一時
 止緩セリ、一九〇三年「ロシヤ」帝ニコラスニ在リ「カ伊王」ノ訪問ニ答フル
 タメニ「ローマ」訪問ヲナスノ予告ヲナセルモ伊ノ社會黨ノ示威運動ノタ

メ中止セルヨリ伊人ノ不味ノ念ヲ加ヘタリ、然レトモ英カ「バルカン」ニ
 於テ發展ヲ試ミントスルヨリ「スラヴ人種」ノ利益ヲ保護セントスル「ロ
 シヤ」ハ「アドリアナック海」ニ於ケルソノ利益ヲ保護セントスル伊カ英
 及ソノ同盟國タル故ニ對スル干渉ニ於テ利害ノ一致ヲ見ルニ至レリ、一
 九〇八年伊「ロシヤ」ノ間ニ「マセドニア」及「アルバニア」ノ現状維持
 「モンテネグロ」ノ独立ノ保護 *Creata* 半島ノ自治等ニ干渉ス、一九
 〇八年ノ英ノ「ボスニア」ハ「ハーツエゴヒナ」聯合事件ニ関シテ伊ハ三國同
 盟ニ属シテラ、*埃*ニヨリ英外視サレシ領内アルヲ以テ伊人ハ、*埃*ニ對シテ平カ
 ナル事能ハス、一九〇九年十月下旬ニ至リ「ロシヤ」帝ハ伊ヲ訪問スルニ至
 レルカ、コレトサラニ、*埃*ノ地ヲスグル事ヲサケタリ、
 伊ノ三國同盟ニ於ケル地位ノ寒化ハ仏トノ改商「アルゼリヤ」會議ニ於
 ケル伊ノ態度及「バルカン」ニ関スル「ロシヤ」トノ疑案等ニヨリテ之ヲ
 察スルヲ得ヘキナルカ尤モ著シク之ヲ明カニセルハ、一九〇八年十一月末ヨ
 リ十二月始メニ亘リ「バルカン」事件ニ関シテ起レル伊議會ノ光景ナリト
 ス、當時伊ニ於ケル在朝五野ノ凡テ、党派カ伊ノ直下ニ三國同盟ヲ商ル事

ヲ欲セサルモ同盟内ニ於テ他ノ二國ト對等ノ地位ニシテ獨立ノ判斷ヲ以テ
 他ノ二國ノ行動ヲ實否スルノ關係ニ立ツ事ヲ希望シモシ國情ノ狀態ノタメ
 ニ優勢ナル同盟國ノ意思ニ追從セサルハカラストモハ伊國民カゴノ狀態ヲ
 諒ハルタメニ買収ヲナスノ辭セサルヘキ事ヲ承認ニ於テ一致セリ
 伊ハ一九一七年ヲ期限トシテ陸軍ノ大擴張ヲ行ハントシ、又海軍ヲ擴張
 シテ「アドリアナツク海」ニ於ケル優勢ヲ維持セントセリ、然シテ當時
 多數ノ論者ハ伊カ斷然三國同盟ヲ離レル事ノ無謀ノ策ニスキサルモノトナ
 セリ、一九〇八年太伊ノ議會ニ於テ外相 Sutherland カ公言セルカ如ク三
 國同盟ハ「バルカン」ニ於テ伊ノ利益ヲ保護スルノ條款ヲ有シ一方ニ於
 テ伊ノ軍備未ダ滿ハラサレ事及「ロシヤ」ハ兵力ノ被擧ノ兵力ニ比シテ
 優勢ヲ必スヘカラサル事ヲ慮ミレハ伊ノ斷然三國同盟ヲ離レテ「ロ」ハ同
 盟及英仏政府ノ漏中ニ入りテ被擧ヲ表面ノ敵トスル如キハ伊ノタメニ秘メ
 テ冒險的政策ト云ハサルヘカラス、故ニ一九一二年十二月七日ニ於ケル三
 國同盟受新ノ事アリキ、伊ハ「アルバニア」事件ニソキテ概シテ埃ト提議
 シテ行動スルニ至レリ

三國同盟ニ對シテ三國收買アリ、故ニ於テ勢力均衡ヲ生シ、故ハ自巳ニ
 對スル新結合ヲ破ラント欲シコレヲ「モロツコ事件」ニ試ミ次ニ之ヲ第ハ
 「バルカン事件」ニ試ミ更ニ之ヲ第ニ「モロツコ事件」ニ試ミ最後ニ之ヲ
 世界大戰ノ近因タル「バルカン事件」ニ試ミテ遂ニ世界大戰ヲ生シ新結合
 ヲ打破スルノ目的ヲ達セサリキ

我國ニ東亞ニ於テ英ト同盟シ「ロシヤ」ハト收買シ歐ノ三國收買ノ系統
 ニ近ツクニ至レリ、三國收買及日仏、日露ノ收買ハ皆現狀維持ノ主義ニ基
 イテ勢力均衡ヲ維持シ平和ヲ求メントスルナリ、三國收買ハ「ロシヤ」ハ
 同盟ヲノソキテハ兵力的援助ノ義務ヲ存スルコトナキナリ、コレ三國收買
 ノ弱點ノ一ツナリ

英仏ノ間ニ於テ同盟條約ヲ結フニ至ラサリシモ共同動作ニ関シテ一種ノ
 約束ナリコノ欠點ヲ補ハントセリ、故ニ對スル英仏ノ共同利害ノ上ヨリシ
 テ新次西國間ニ密接ナル關係ヲ生システ一九〇五年第一「モロツコ事件」
 ノ折ニ英仏西國ノ *military authorities* 間ニ軍事上ノ共
 同計画ニ関スル收買ヲ行ハントセリ、ソノ以後ニ於テ收買實際ニ行ハレ而

シテ一九一一年英仏間ノ海軍政府ノ談判ニ於テ (*Halbtonie*) 英ハ海軍ノ競争ヲ止ムルタメニ英独西國間ニ協定ヲサントシ (*Halbtonie*) カ独ニ奉シシモ英ノ江東ノ二國標準 *Two power standard* ヲナケウチ一六対一〇ノ割合ノ海軍力ノ維持ヲ約セントシ故ノ容レル処トナラサルメ一年間ノ製艦製造休止 *Naval holidays* ヲ約セントスルモ独ハ英ノ独ト他國トノ競争ニ於テ中立ヲ守ル事ヲ約スルヲ未メ 英ハカクノ如キ義務ヲ負フヲ承諾スルヲ欲セサルモ談判力不調ニ終レリ 茲ニ於テ海軍ニ関シテ英仏間ニ協定ヲナシ英艦隊ハ仏ノ英峽、北海及大西洋方面ノ防備ニ當リ、仏ハ地中海ニ艦隊ノ主力ヲ集中シコノ方面ニ於ケル英ノ利益ノ防備ニ當ルコトトセリ

而シテ一九一二年一月二十二日ニ至リ英仏ハ外交交渉ヲ交換シ西國ノ陸海軍ノ官制ノ同ニ行ハルシ故義ハ兵力ニヨル援助ヲ與フルヲ否メニ因シテ政府ノ自由ヲ制限スルモ、ニ非サル事ヲ明カニシ又英仏西國艦隊ノ配置カ戦争ノ際相岐カスル事ヲ約束セルモ、ニハ非ル事ヲ明カニシ而シテ一方ノ政府力自ラ挑発スルコトナクシテ第三國ニヨリテ攻撃ヲ受クルト云フ事ヲ

オソル、ノ重大ナル理由存スルトモ他方ノ政府ノ兵力的援助ニ依頼スヘキ否マヲ知ルノ必要ヲ生スヘキヲ認メ一方ノ政府力自ラ挑発スルコトナクシテ第三國ヨリ攻撃ヲ受クル事スハ一般ノ平和ノ脅カサル、事ノ發生ヲオソルヘキ重大ナル理由ヲ存スルトモ他方ニ他方ノ政府トトモニ攻撃ヲ防止シ且ツ平和ヲ維持スルタメ行動スヘキ否マモシ行動ヲ共ニスヘシトセハ如何ナル處置ヲ共同ニ行フヘキマヲ協議スヘキ事ヲ定ムルニ至レリ
一九〇八年ヨリ一九〇九年ニ亘ル東方問題「バルカン半島」ニ於テ「マセドニア」由來外交上ノ難問題トセラレタル「ロシヤ」奥帝「*Mongsteq*」會ノ末ヨリ十月ノ始メニ行ハレタル「ロシヤ」奥帝「*Mongsteq*」會見ノ折ニ「マセドニア」改革ニ関スル協議アリテ「ロシヤ」奥ノ同文通牒 *note identique* 「トルコ」ニ提出サレ「トルコ」ハ止ムヲ得ス之ヲ容レタリ、曰「瀛戰」中「バルカン」半島方面ニ小波ヲ得タリ、歐戰後ノ后「ロシヤ」奥ハ「マセドニア」ノ裁判制度改革ニ関シテ「トルコ」ト談判セル折ニ奧ハ「トルコ」ニ對シテ改革案ヲ支持スルニツトメステソ
▼同ニ *Mitrovitcha* ヲリ *Salonica* ニサル「トルコ」鐵道ト

Mitrovitzka 二連鉄道スノヤ
 Noui-Bazar / Sandjak
 通過スル鉄道 (Novi-Bazar 鐵道) ノ布設ノ Concessions ヲ得タリ
 九〇七年十二月ナリ 「トルコ」ニ於テハ一九〇八年七月二十四日青年ト
 ルコ党 Young-Turks カ革命ヲオコシ翌年擾乱ノ中心ナリシ「マセドニ
 ア」ニ於テモ一時諸ハ種間ノ争闘マミ秩序自ラ立ツノ状態トナリシカ同年
 十月五日「トルコ」ノ從國ノ名義ヲ存セル「ブルガリア」ハ埃ト牧義上ニ
 テ独立ヲ宣言シ之ト同時ヲ同クシテ埃モカツテ「ベルリン會議ニ於テ行政
 占領ノ権利ヲ得タル」ボスニア「ハーツエゴビナ」ノニ州ノ併合ヲ宣言セ
 リ、奥ノニ州併合ノ表面上ノ理由ハニ州ニ立憲制度ヲシタメニソノ法律
 上ノ曖昧ノ地方ヲ明確ニスルノ必要ニアリトナセルモ一ハ Young-Turks
 政府ノニ州ヲ回復ノ討臣ヲ打破シ一ハソレヲ地方ニ往スル Herzegovina
 ノ抱クトコロノ大 Herzegovina 國ノ理想ヲ打破セント欲セルナリ、當時「トル
 コ」ノ立憲制度ノ基礎ナホ弱クシテ「スラヴ種」ノ保護者タル「ロシヤ」
 ノ轉敗ノソノイ未タイエス
 「ロシヤ」ハニ州併合ニツキ強ク争ハサルモ國際會議ヲヒラキテ柏林條

約ノ変更ヲ議スルノ説ヲ持シ「カツ」ロシヤ「ハニ州併合ニ同意スル條件
 トシテハ「パリ條約」(一八五六年) 及「(一八七八年) 「ベルリン條約」
 ノ確認セル海峽閉鎖ヲトメ Dardanelles 及 Bosphorus 海峽ヲ「
 ロシヤ」ノ海軍ニ開放センコトヲ要求シ埃ハ之ニ對シテ及對ヲ表示セサル
 カ「ロシヤ」ノ外相 Gorchakov カ埃ハ同意ヲ求メントシソノ「パリ
 」ヲハテ「ロンドン」ニ赴カントスル途上ニアル間ニ「奥首相 Severn-
 -thal ト「ホヘミヤ」 Buchlari ニ会合ス) 埃ノ Severnthal
 ハ併合ノ宣言ヲ断行セリ
 海峽閉鎖解除ノ「ロシヤ」ノ希望ハ埃ノ承認ヲ得ル能ハカリシモノノ如
 ク「ロシヤ」ハ翌年ノ希望ヲコノ際ニ於テ實現スルコトヲ断念セルモノノ
 如シ、國際會議ニ附スハエ海峽閉鎖解除以外ノ外ノ問題ニ関シ埃、ハ「ロ
 シヤ」ノ間ニ一致ヲエタルカ Severnthal ハニ州併合事件ヲ會議ニ
 添ケル實際ノ討義ノ議題トナスニ同意セカリ、先ツ「トルコ」ノ改定ヲ
 シテ後ニ國際會議ニ於テ單純ナル承認ヲウルノ方針ヲトラントセリ
 「トルコ」ハ当初國際會議ニヨリ時局ノ解決ヲウル事ヲ欲シ「ブルガリ

ア 奥ヨリ直接談判ノ提議アリシモ之ニ耳ヲ傾ケサリシカ英「ロシヤ」ノ
向ニ投定サレタリト称セラルル會議ノ義賊カ並ニ公ニセラルルヲ見テ矢
コロキテ得ルトコロ甚タ少シトナシ十月中旬以後直接談判ヲ「ブルガ
リア」及奥ト開始スルニ至レリ「トルコ」ハカ奥ノ貨物ノ「ボイコット」
ヲ行ハルニ對シテ奥ハ一時統合ニ関スル *Compensation* ノ同意ニ関
スル談判ヲ中止セシカ十二月十日ヨリ奥ヨリ談判ヲ再開スルコトヲ提議シ
行ハルルニ至レリ「ブルガリア」ハ「トルコ」カ「ブルガリア」独立
ノダメニ業ルヘキ損害ヲ賠償スヘキコトヲ提議スルニ至リ「トルコ」モ之
ト談判スルニ至リシカ「ブルガリア」カ「トルコ」ノ要求ヲ過大ナリトシ
十二月二十三日ヲ以テ「ブルガリア」ハ談判ノ遲延ノ罪ヲ「トルコ」ニ版
シ「トルコ」カ軍備ヲトヘテ脅喝的態度ニ變ツルトナシ列國ノ干渉ヲ
要求セリ同日ニ於テ「ロシヤ」奥間ノ國際會議ニ関スル提議ハ一段落ヲ
告ケ西國ノ間ニ於テ列國會議開催ニ各國カ決定セントスルカテノ事件ニ
ツキテアラカシメ國際談判ヲナシソノ決スル後ヲ綜合シテ條約案トナシ之
ヲ以テ正式ノ國際會議ノ議ニ附セントスヘシトスルノ奥ノ提議ヲ採用スル

事ニ決シテコレヲ列國ニ通達ヨリ

奥「トルコ」ノ談判ノ結果一〇九年二月二十八日ニ條約調印サレ「ブ
ルガリア」「トルコ」間ノ談判モ「ロシヤ」カ調停ヲナシ二月中ニ談判終
了シ四月二十日西國ノ間ニ條約結ハレタリシカレニ「セルビア」ニ於テ
ハ奥ノ三州併合ニヨリテソノ *Agg* 大「セルビア」國ノ理想ヲ実行「セル
ビア」人ヲ統一スルノ望メタルトナシ且ツソノ機會ヲ以テ「アドリアナツ
ク海」ニ出ツルコトヲ要求サルトモ「セルビア」ハ國運ノヒラクヲ待ツノ
外ナシトナセルヨリ併合ノ宣言ニ接スルモ直チニ予備兵ヲ召集シ一〇ハ
年十月七日「ベルリン條約」締結國ニ對シテ三州併合ニ對スル抗議ヲナシ
ニ州ヲ「ベルリン會議」ノ定メタルモトノ地位ニ復スルカ、然ラサレハ相
當ノ代償ヲ英ヘテ「セルビア」國民ノ存立ノ要件ヲ充カンコトヲ求メタリ
奥ハ十月八日「セルビア」カ容喙ヲナスノ権利ヲ有セストテ抗議答ノ復
ヲ拒ミ且ツハ「セルビア」ノ予備兵召集ニ關シテソノ理由ノ說明ヲ求メタ
リ「セルビア」人ハ「ロシヤ」ノ救援ヲメノミ強要ノ態度ヲ持シ英「ロ
シヤ」「仏」「独」「伊」五ヶ國ハ「セルビア」ニ對シテ三州ヲ自治ノ一國トナ

スノ要求ト領土上ノ代償ヲ得ルノ要求トヲ断念スハキコトヲ告テ一九〇九
 年三月十日ニ至リ「セルビア」ハ諸強國及「トルコ」ニ對シテ二州ノ問題
 ハ政問題ナリト認スルニヨリ「ベルリン」條約締結國ノ公議ニ訴ヘテ公平
 ナル判決ヲ仰カントストナシ、國際公議ノ開催ニヨリソノ要求ヲツラヌカ
 ント欲セリ。「ロシヤ」英・仏・伊ノ四國ニ國際公議ノ開催ニ異議ナカリ
 シカ如キモ茲ハ列國カ國際公議ヲ開カスミテ公文ヲ以テ二州ニ關スル「ベ
 ルリン」條約ノ第五條ノ喪失ヲ承認スルコトヲ提議シ而シテ英・法・露及ヒ
 「セルビア」ノ間ニ立ツテ同盟ノ勢ヲトレル折三月二十二日独帝ハ「ロシ
 ヤ」帝ニ親朝ヲ提提セシメソノ中ニ於テ埃ノ二州併合ヲ承認スルニ於テ何
 等ノ條件ヲ附セサルコトヲ望ムルニヨリ「ロシヤ」カ返答ヲ躊
 躇スルニ於テ獨軍ハ「セルビア」ニ侵入シ独ハ直ニ埃ノタメニ「ロシヤ」
 ニ脅フルノ地位ニツカサルヲ得サルコトヲ説ケルモノノ如シ、而シテ独帝
 ハ埃ノ宣戰ニアテ、親朝ヲオクリ独力アクマテモ埃ヲタスクヘキコトヲ保
 証セリ、コレ「セルビア」カ「ロシヤ」ノ後援ナクテハ動ク能ハス、又埃
 モ「ロシヤ」ヲハハカリテ動クコトヲ躊躇セル折ニ於テ「ロシヤ」ニ脅威

ヲ加ヘテ三國協商ノ微カナルヲ示シ独ノ國威ヲ榮揚セント欲セシナリ

三月二十四日「ロシヤ」ハ英・仏ニハカルノ戰ヲ直ニ讓步セリ
 埃ト英トノ間ニ於テ「セルビア」ヲシテ宣言セシムヘキ言葉ヲ收束シ「セ
 ルビア」ハ一九〇九年三月三十一日ニ「ボスニア」ニ於テ既成トナレル事
 實カソノ権利ニ抵触セサルヲ認メ從テ列強カ「ベルリン」條約第五條ニ
 關シテナサントスル決定ニ從フヘキコトヲ認メ獨國ノ勸告ニ從ヒ併合事件
 ニ關シテラトリタル抗議及反響ノ態度ヲ終止スヘキ埃ニ對スル現在ノ政策ノ
 方針ヲ改メ將來ノ善隣ノ予備ニ基キ生活スヘキコトヲ宣言セリ、独帝ノ埃
 ノタメニ「ロシヤ」ヲ脅威セシコトハ益々埃獨關係ヲ密ナランメセルカ
 「ロシヤ」埃ノ關係ハ一九〇九年ノ末ヨリ一九二〇年ノ初メニ至ルマテ外交
 關係ノ停止ヲ生セシマルニ至レリ

一九一一年八月十九日ニ至リ「ロシヤ」独乙間ニ *Potsdam* 條
 約行ハレコノ努力高ニヨリ「ロシヤ」「バグダッド」鐵道敷設ニ反對セズシ
 テコレヲソノ「セルビア」方面ノ鐵道ニ約スヘキコトヲ約シ独帝ハ「ロシヤ」
 ノ「ベルシヤ」ニ於ケル特殊利益ヲ持テタルコトヲ認メ而シテ兩國ハ相互ニ

相手國ノ利益ヲ害スハキ條約ヲ他國ト結ハサルコトヲ約セリ

三〇六

第三「モロツコ」事件

一九一一年ニ於テ「モロツコ」ニ於テ擾亂オコリムハ外相 Delescluse
ノ新政策ニ基キ仏ノ軍隊ヲシテ「モロツコ」ノ内地ニ派遣セシメ五月二
十一日首都 Fezニ着シ Delescluse ハ Heyg ノ占領ヲ以テ一時的
ノモノナリト諸國ニ告ケシメタリ。「モロツコ」ノ軍隊ノ編成ヲ行フニ
必要ナル時向ヲ以テ占領ノ期間トセリ、然レニ独ハ六月一日軍隊ヲ「モ
ロツコ」ノ Closed part ナル Agadir ニ派遣シ（口実ハ
自國人民ノ利益保護ノため）仏ハ独ト談判スルノ必要ヲ感シ独ハ先ツ「
モロツコ」ニ於ケル利益ノ分配ニアツカルハキヲ要求シ次ニ「モロツコ」
ノ代償トシテ仏領「コンゴ」ノ海岸ヨリ *Cameroons* 河ニ至ルマテノ
土地及自國領「コンゴ」植民地ニ關シテ仏ノ有セル最後ノ場合ニ於ケル
領土取得ノ権利ノ讓與ヲ要求スルニ至レルモノ、如シ独ノ過大ナルコノ
要求ハ独仏談判不調ニヨル西國間ノ危機ノ発生ヲ惧レシメ英政府ハ「モ
ロツコ」問題ニ關シ、仏ヲ激怒スルノ態度ヲ示シ當時ノ首相 Asquith

及大藏大臣 Lloyd George ノ演説ハ重大ナル影響ヲ生シ彼ツモ

十ノ被仏間ノ危機ハ去リ十一月四日ニ至リテ独仏間ニニツノ條約結ハル
ソノ「モロツコ」ニ關スル一ツノ條約中ニ於テ独乙カ「モロツコ」ニ於
テ単ニ經濟上ノ利益ノミ目的トスルコトヲ宣言シ仏ノ行動ノ自由ヲ保
護スルノ抗議及軍需占領ヲミトメタリ
而シテ「コンゴ」ニ關スル一條約中ニ於テ仏ハ独領 *Cameroons* ノ
東及南ニ於ケル一帯ノ土地ヲ独ニユスレリ、独仏ニキスル外交問題ハコ
ノニ終局ヲ告ケムハ一九一二年三月ノ保護條約ニヨリ「モロツコ」ヲ以
テ一ツノ保護國トナスニ至レリ

伊土戦争

伊ハソノ大シク進歩セル「トリポリ」ヲトルノ機會ヲ逸ヒニコトヲ誤レ
独乙仏ノ「モロツコ」事件ノ談判中一九一一年九月二十八日ヲ以テ「ト
ルコ」ニ對シテ突如ノ *Ultimation* ヲ提出シ二十四時間内ニ決答ヲ
得サレハ「トリポリ」及 *Canea* ヲ占領スハヌコトヲ宣言セリ、「トル

三〇七

三〇八
「コ」政府ハ期間外ニ答アルトコロアリシモ伊ハ宣戦ヲオシ軍事行動ヲ開始
シ十一月五日ニハ勅令ヲ以テ「トリポリ」又 *Berber* ノ併合ヲ宣言セリ
伊ハ当初戦闘ヲ「アフリカ」方面ニ限レルカ斯ク他ノ「シリヤ」^{北西}「ダータネ
ル」方面及ヒ小「アジア」沿岸方面ニ活動シ *Agemaned* ノ教員
峽ヲ占領スルニ至レリ

一九一二年七月以後伊土兩國向ニ講和談判行ハレ *Boysen* 諸邦カ同
盟シテ「トルコ」ニ對シテ開戦セントスルノ勢急ナルヨリ「トルコ」ハ
茲ニ「トリポリ」又 *Berber* ノ割讓ヲ諾シ十月十六日ニ至リ *Louisa*
me (マス)ニ於テ講和條約ノ調印アリタリ

第七章 極東ニ於ケル外交問題

最近ノ四分一世紀間ニ於テ政ノ外交ハ東亞ノ外交ト相影響スルコト大
ナルモノアリ、我國カ明治十七年ニ清國ト天清條約ヲ結ビ韓 於ケル兵力
的干涉ノ條件ヲ定メシカ等シク韓國ノ事ニ基キテ明治二十七年、八年戦役起
リ下関條約一八九五年四月十七日ニ結ビ清國ヲシテ韓國ノコレト從屬ノ干
係ナキヲ認メシメ又台灣島及遼東半島ノ割讓ヲ約セシメニ德テールノ償金
ヲ徴セシモ、下関條約調印後イクハクモ十月四日ニ日ロシヤ、秋、私
ノ三國カ我國ノ遼東半島領有ヲ以テ清國ノ首都ヲ脅カシ、韓國ノ独立ヲ有
名無実トナスモノニシテ極東ノ永久ノ平和ニ害アリトナシ遼東半島ノ還附
ヲ表面上支諒的ニ勸告シ我國ハ五月五日巳ムヲ得ス僅少ノ償金一三千万テ
ールニ代ヘテ之ヲ還附セリ、秋ハ「ロシヤ」ヲシテ東「アジア」及中東ノ經營
ニカマツクサシメ以テ「ロシヤ」ノ秋乙ニ對スル圧カヲ減セント欲シタリ、
「ロシヤ」ハ同盟ナルニ及ヒ全然コノ政策ヲ以テ露ハ同盟ヲ *Neutrality*
スルノ必要ヲ感シ又「ロシヤ」ノ極東ノ經營ニ意アルヲ利トシテ自巳ノ極東

ニ利益ヲハルノ機会ヲ得ントセリ、仏ハ同盟国タル「ロシア」ノ政策ニ追
従セサルヲ得サリキ、カクノ如クシテ五國干渉ノ事ナレリ、「ロシア」ハ
當時野心ヲ極東ノ方面ニ振シ *Balkan* 半島ニ於テ現状維持ノ政策ヲトリ
コノ趣意ニ基キ一八九七年及一九〇三年頃ト協商ヲ結ヘリ、而シテ「ロシ
ヤ」ハ独乙ノソノ後口ヲ窺フヲ憂フルヲ以テ独乙ト接近ヲ求メタリ、故ニ
東亞ノ事件ニ干シ独ト謀ル所アリキ、

一九〇〇年ノ北清事件(義和團事件)ノ折一旦「ロシア」独ハ東亞ノ勢ア
リシカ幾ハクモナク東亞ニ干スル「ロシア」独ノ接近トナリ日露戦役ニ及
ハリ

明治二十七八年戦役ノ終ノ頃清国軍シヤリニ敗ル、マ下関媾和談判ニ先
チ清國ハ王之春ヲ「ロシア」帝ノ登位ヲ賀スルニ托シテ「ロシア」ノ干渉
ヲ求ムルタメ「ロシア」ニ氷遣セリ、日清間ニ媾和談判スアニ始マリシ後
ニテ又李鴻章ハ秘密ニ「ロシア」公使 *Maikov* 伯ト交渉シ「ロシア」ノ
援助ニヨリテ我國ノ割地ノ要求ヲ軽減セシメントシ、遂ニ三國干渉ヲ致セシ
マ「ロシア」ハソノ援ヲ受ヘシニ対スル報酬ヲ求メ李鴻章カ「ロシア」帝

ノ戴冠式ノメニ「ロシア」ニ赴クマ *Collin* ト依定セル秘密條約案ニ
基キテ李鴻章ト *Lobanov* トノ間ニ談判行ハレ *Witte* モ之レニ加ハレリ
遂ニ膠州灣ニ「ロシア」軍艦ノ来泊、冬營スル事ヲ認メシメ而シテ *Mos-*
Cow ニ於テ一ツノ條約ニ調印セリ、コノ條約ハ我國ニ対スル「ロシア」
及清國ノ同盟條約ニ外ナラスシテ我國カモシ「ロシア」ノ東部、清國又ハ韓
國ノ領域ヲ犯サハ清「ロシア」兩國ハ即時ニ海陸ノ兵力ヲ以テ相逐スハ
シトナシ、相互ノ間ニ兵器食料ノ供給ヲナス事ヲ約セリ、而シテ「ロシア」
カ將米ソノ軍隊ヲ輸送シテ敵兵ヲ攻撃シ、又兵器彈藥ヲ運送速達セシメン
カタメ清國ハ黑龍江吉林地方ニ於テ鐵道ヲ經營スヘシトセリ、コノ鐵道敷
設ハ清國政府カ露清銀行ニ依嘱シテ經營セシメントセリ、コノ條約ニヨリ
「ロシア」ハ滿洲ノ北部ヲ通過シテ *Manchuria* ニ連絡スヘキ鐵道ノ敷
設權ヲ取得シタルヲ以テ一八九六年一月露清銀行ヲ設立シテ之レカ經營ニ
當ラシメ又同年九月ニハ同銀行ニ附屬シテ東清鐵道会社ヲ設ケ一億五千万
「ルーブル」ノ資本ヲ以テ工事ヲ開始セリ、然ルニ一八九七年十月一日山東
ニ於テ独ノ二人ノ宣教師カ殺サル、ヤ独ハ清國ヲシテ一八九八年三月六日

遂ニ青島ヲ九十九年間租借スル事ヲ認メシメ、又山東省ニ於ケル金融
上ノ特权及鐵道敷設權ヲ得タリ、ソノ後三週間ニシテ三月二十七日ニ「ロ
シヤレハ」「ロシヤレ」ノ軍艦ノ碇泊港ヲ強奪シ、嘗テ我國ニ之レニヨル事ヲ以
テ東洋ノ平和ニ害アリトナセル旅順、大連、ニ十五年ノ租借ヲ認メシメ、又
東清鐵道ヲ旅順大連ニ接続スル線路ノ敷設權ヲ得タリ、

英ハ旅順ヲ「ロシヤレ」ノ軍艦トナスコトニ反對セシカ遂ニ反對ヲ撤シテ
遼東灣ノ勢力均衡ヲ維持スルタメニ當時我國ノ占領中ナリシ威海衛ヲ我が
軍隊撤兵後「ロシヤレ」ノ旅順大連租借中租借スル事ヲ約セリ、而シテ「ロシヤレ」
一八九八年五月ニ廣州灣ノ九十九年ノ租借ヲ認メシメタリ、此ノ外「ロシヤレ」
租借アルニ英ハソノ香港ニ於テ有スル地位カ軍事上及商業上ニ於テ侵サレ
シコトヲ口實トシ一八九八年六月香港ノ對岸ニ於テ管ヲ租借セル九龍ノ地
區ヲ拡張スルニ至レリ、コトニ於テ夫那分割ノ事終レリ、Break up (分
割)

英ハ一八九八年二月ニ揚子江ノ沿岸ヲ他國ニ讓リ渡シ、又八貸年セサル事
ヲ公文ヲ以テ清國政府ヲシテ約セシメ、我國モ同年四月ニ福建省ニツキ公

文ヲ以テ同様ノ約ヲナサシメ、此モ東京ニ接スル諸省(兩広、竜口)ニ付
キ同様ノ約ヲナサシメタリ、而シテ一八九九年四月ニ於テ英「ロシヤレ」ノ
間ニ清國ニ於ケル兩國ノ鐵道敷設範圍ノ確定ヲナシ、域以外ヲ「ロシヤレ」
ノ敷設區域トシ揚子江流域ヲ英國ノモノトセリ、亦合衆國ハ將東清國ニ對
スル運高航海ノ上ニ大不利益ヲ受ケルヲ懼レ、門戶開放ニ干スル意見ヲ
列國ニ告ケ、同年九月ヨリ十二月ニ亘リ諸強國ノ同意ヲ得タリ、是レ諸國
カ清國ニ於ケル利益範圍又ハ租借區域ニ於テ尚工業、機會均等主義及條約
上ノ利益保全主義ヲ主張スルモノナリ、

清國ニ於テ一九〇〇年康有為(譯者)改革運動力挫折シ同年、六月頃ヨ
リ反動タル義和團(Boksan)事變ノ熾ナルヲ致シ清國政府力之ヲ押フル実
カラ失ヒ六月十一日ニハ我カ杉山書記生殺サレ、六月二十一日ハ拙乙公使
Son Kettler 殺サレタリ、聯合軍ノ六月十七日ノ大沽砲台占領ノ事アリ
テ後六月二十日ヨリ八週間ノ間公使館ハ國匪攻圍ヲ受ケタリ、我國ハ一師
團ノ兵ヲ出シ、「ロシヤレ」英、アメリカ、仏、独ノ兵ト共ニ七月七日ヨ
リ行軍ヲ始メ八月十五日ニ北京ニ入レリ、八月七日「ロシヤレ」帝ノ降意ハ

ニ出ツルトナシテ直隸省ニ於ケル各國ノ聯合軍ヲ法乙ノ *Waldsee* 將軍
ノ指揮ノ下ニ置ク事ニ定メタリ。清國ノ朝廷ハ大原府ニ移リシ後ニ於テモ
端郡王及ヒ其ノ部下ヲ抑制スルノ方ナカリシカ九月ニ聯合軍ノ元帥トナレ
ル *Waldsee* 到達シタル後陸上及ヒ海上ニ於テ示威的ノ運動ヲ試ミル
ニ至リ北京政府ノ窮議初メテ決シ九月十七日義和團撲滅ノ上諭ヲ同ニ十五
日元光罪ノ上諭出テタリ。

和議ニテスル最終ノ議定書出来上レリ (*peace-war*)。

然ルニロシマハ義和團事変ノ折ニ清國ノ兵士カ「ロシヤ」領ノ *Blago-*

vestskensk ヲ襲撃セシト云フ事ヲ口突トシ滿州ノ要地ニ兵ヲ入レ一光

〇〇年ノ八月四日ニ營口ヲ占領セリ。「ロシヤ」ハ北京ニ於ケル公使館襲

撃ニ関スル列國トノ共同談判ニ於テハ其ノ條件ヲ輕クセシメテ恩ヲ清國ニ

懷シ滿洲ニ於ケル軍機事件ニ関シテハ充分ノ利益ヲ收メントセリ。独乙ハ

北京事件ニ関シ充分ニ清國ヲ膏懸スルノ主義ヲ採リ公使被害ノ元光ノ列強

シツ要求シ *Waldsee* 元帥ヲ派遣シテ聯合軍ノ指揮ニ當ラシメシ際十

ルヲ以テ「ロシヤ」ノ態度ニヨリテ窮地ニ陥レリ。故ニ於テ同年十月十六

日英独ノ間ニ清國ノ領土保全及ヒ門戶開放ニ関スル條約ナリ列國ノ此ノ主
義ニ関スル容認ヲホメタリ。我カ國之ヲ容認シ、「ロシヤ」モ之ヲ認ムルノ
辭ヲナセルモ十一日ノ頃總督將軍ナル増祺ノ代理者ト「ロシヤ」ノ関東州
總督ノ *Meisoff* ノ代理トノ間ニ滿洲ノ占領及ヒ行政監督ニ関スル條約
案結ハレタリ。

独乙ハ一九〇一年一月ニ至リ英トノ協商ニ関シ態度ヲ變シ、ソノ條約カ

初メヨリ滿洲ニ適用サルヘキ趣意ヲ含ミ居ラサリキト主張スルニ至レリ。

我カ國及ヒ英、米、独乙ハ二月ヨリ三月ニ亘リテ支那政府ニ對シテ、「ロ

シヤ」ト滿洲ニ関スル特別ノ取極メヲ結フコトノ危険ナル事ヲ忠告スルニ

至リシモ *Count Hansdorff* (ロシマノ外相)ト楊儒公使トノ間ニ

滿洲占領ニ関スル秘密ノ條約案成レルモノ、如シ、我國ハ一九〇一年ノ四

月強硬ナル抗議ヲナシ、「ロシヤ」モ一時讓歩シ滿洲占領ニ関スル「ロシ

ヤ」支那間ノ第二番目ノ密約ハ成立セシテ止メリ。然シヤラ占領ノ事實

ハ毫モ異ラス十月五日ヨリ清國カ滿洲ニ関スル談判ヲ初メ一旦條約案ナリ

シテ清國政府ノ確認ヲ得サリヤ(李鴻章カ談判又十月三十日談判ヲ廢スル

事ヲ云ヒテ十一月初メニ略血シテ死ス。コシヤレハ滿洲ニ於ケル清國及
 ヒ英國ノ注意ヲ惹スルタメニ *Thicket* 方面ニ交渉ヲ初メタリ。一九〇〇
 年後一九〇二年 *Thicket* ノ使節「コシヤレニ赴キ一九〇一年六月以來北
 京ニ於テ「コシヤレ政府カ滿洲還附ノ條件トシテ新疆及ヒ西藏ノ一部ニ巨
 ル広大ナル土地ノ割譲ヲ求メトスルノ風説起レリ、ハ支那ノ「コシヤレ
 公使 *Seaman* 中文「丁シヤレ」詳シカリシ事モ原因トナル。清國カ新疆方
 面ニ警戒シ、英カ西藏方面ニ警戒スルニ當リ我カ國ハ專ラ朝鮮及ヒ滿洲ノ
 方面ニ関シテ警戒ヲ加ヘタリ、我カ國ト「コシヤレトノ向ノ事件ハ其ノ當
 初ハ朝鮮問題ナリ、日清戦役ニヨリ朝鮮ハ清國ヨリ独立セルコトヲ認ミラ
 レシモ戦役及ヒ王妃ノ死、結果朝鮮、エハ「コシヤレ公使館ニ避難スルニ
 至レリ、一八九六年ノ五月十日ニ京城ニ於テ我國及ヒ「コシヤレノ代表者
 ノ間ニ *Memorandum* カ調印サレ今年五月「コシヤレ帝戴冠式ノアリ
 シトキ」*Mascow*ニ於テ山縣大使ト *Stekhanoff* トノ間ニ日露協商ナ
 リシカ我軍及ヒ「コシヤレカ計畫ノ地位ニ立テ子韓國ノ改革ニ関スル共同ノ
 援助ヲ韓國人ヲ以テ組織スル軍隊及ヒ警察ノ創設維持電信線ノ管理等ニ関

シテ約スル所アリキ、ソノ後ニ「コシヤレハ此ノ協商ノ精神ヲ無視シ我國
 ニ相談セシメテ財政顧問一名練兵士官數名ヲ韓國ニ雇入レタリ、我カ抗議
 ニ對シ *Mouharieff* (外相) ハ言ヲ左右ニシテ處スル所ナカリシカ旅順
 大連ノ租借ニ関スル所謂 *Pakiloff* ノ條約談判ノ際ニ我カ國人ノ視聽ヲ
 他ニ振スルカタノ一八九一年一月韓國ニ関スル日露ノ紛議ヲ解決スルタメ
 談判ヲ閉クテ提議シ我國ヨリ條件ヲ提出シテ談判ヲ初メシカ財政顧問ト練
 兵士官カ韓國政府ト事ヒテ退去シ一八九八年四月ニ日露ノ間ニ西外務大臣
 ト *Rosen* 公使トノ調印セル *Protocol* ナリ、此ノ議定書ニ於テ西國ハ
 韓國ノ内政ニ干渉セサル事ヲ約束シ、韓國カ一方ノ國ニ對シテ忠告及ヒ助
 カヲ求ムル時ニハ至ニ協議ヲ遂ケシ後ニ非ラサレハ何等ノ知置ヲモナサ、
 ルヘシトシ、又露西亞ハ日韓兩國間ノ商業上及ヒ工業上ノ干係ノ発達ヲ妨
 ヤサルヘキコトヲ約セリ、然ルニ「コシヤレハ屢々對馬海峡ヲ制スル地位
 ニ在ル馬山浦ノ租借ヲ要求セリ、我國ニ於テ滿韓交換ノ主義ニ依リ「コシ
 ヤレト妥協スルノ論者アリシカ國民ノ多數ハ「コシヤレトノ妥協ニ信賴ス
 ルコトヲ危險ナリトシ断然「コシヤレノ滿洲經營ニ反對スヘキコトヲ主張

セリ、然シテ独カヲ以テ「ロシヤ」ニ當ルコトヲ危フメリ、然ルニ英ニ於テモソノ所謂光輝アル孤立 *Isolation* ノ極東ニ於テ維持シ難キヲ視テ我カ兵ヲ借リテ「ロシヤ」ノ滿州經營ニ反對セシメント欲シ日英同盟ノ利益ヲ惟フモノアリキ、

独乙ハ「ロシヤ」ヲシテ極東ニカヲ傾ケシメント欲スルト同時ニ極東ニ於テ「ロシヤ」ニ對スル抵抗カノ弱キニ失セサルヲ冀セ我國ヲシテ英ト結ンテ「ロシヤ」ニ當ラシメント計畫シヒソカニ日英ノ同盟ニ轉旋スル所アリキ、
London = 於テ一九〇一年四月ノ頃ヨリ林公使ト *Lord Lansdowne* (外相) トノ間ニ個人的意見ノ交換始マリ加藤高明外相之レニ同意シ曾根外相モ同一ノ方針ヲ取り八月四日元老會議ニ於テ我國ノ日英同盟ニ對スル方針確定シ小村外務大臣ハ十月ニ入リテ正式ニ意見交換ノ权限ヲ林董大使ニ與ヘ十一月六日 *Handshaws* ハ具體的協商案ヲ提出セリ、然ルニ此ノ折伊藤公「ロシヤ」ヲ訪向シ日露協商ノ成ル俟レアリシヨリ日英同盟談判ハ促進セラレ第一日英同盟條約ハ一九〇二年(明治三十五年)一月三十一日調印サレ我國ニ於テハ二月十一日發表サレタリ、第一日英同

盟ハ極東ニ現状及ヒ全局(極東ノ)平和ヲ維持シ殊ニ清韓兩國ノ孤立ト領土保全ヲ担保シ各國人ノ商工業ノ均等ノ機會ヲ得セシムルヲ目的ノ主トナシ我國ハ清國及韓國ニ於テ特別ナル利益ヲ有スルコトヲ宣言シ若シ同盟中一國カ之等利益ヲ防衛スルタメニ優畧的行動ヲナス別國ト戰爭ヲナスニ至ルトキハ他ノ同盟國ハ中立ヲ守リ他國カ同盟國ニ反對シテ其ノ戰爭ニ加ハルニ至ルヲ妨クルタメニ努ムヘク、若シ他國カ同盟國ニ反對シテ其ノ戰爭ニ加ハルニ至ルトキハ他ノ同盟國ハ應援ヲナスヘキコトヲ定メタリ、而シテ有効期限ヲ五年トセリ、第一日英同盟ハ將ニ起ラントスル東亞ノ戰爭カ東亞ニ極限セララル、コト及ヒ一八九五年ノ政干渉ノ再現セララルヘキコトヲ担保トナレリ、

日英同盟ニ對シテ同年三月十九日露使宣言ヲナシタルカ「ロシヤ」ハ我國、英國及ヒ米國ノ压迫ニヨリ一九〇一年ノ四月八月ヲ以テ一旦清國ト約シテ一九〇二年十月八日以後一九〇三年十月八日迄三四回滿州ヨリ撤兵スヘシトナセリ、然ルニ「ロシヤ」ノ宮廷ニ於テ鴨綠江ノ上流ノ森林伐採ヲ計画シ滿韓ノ經營ヲ主張スル *Rejokrajoff* 一派ノ議論カ皇帝ヲ動かシ

三二。

ロシア政府ノ態度ヲ一変シ一九〇三年四月八日ノ第ニ撤兵期ノ境ヨリロシアハ滿州ノ永久占領ニ方針ヲ定メ七月十二日 *Verdicht* ノ閣議ヲ總督トセリ、永久ニ占領スルノ意思ヲ示シ清國ヲシテ占領ニ関スル密約ヲ締結セシメントセリ、而シテロシアハ人カ韓國ニ於テモ計畫スル所アリキコ、ニ於テ我國ハ一九〇三年七月二十八日「ロシア」トノ談判ヲ開始スルノ訓令ヲ發シ我國ハ滿州ニ関シテ「ロシア」カ夫那ノ領土保全ヲ認ムルノ約束ヲナスヲ求メタレトモ「ロシア」ハ荏苒コレヲ返答ヲハセリ、其ノ間ニ東亞ノ方面ニ於ケル軍備ヲ加ヘントセリ、談判七ヶ月ニ亘リ我國ハ一九〇四年二月六日國交ヲ斷絶シ自由行動ヲ採ルコトヲ宣言セリ（之レ *Blank*）ハ宣戰ナリト云フモ余ハ採ラス、八月八日ノ旅順ノ海戰ヲ以テ實戰開始セラル、ニ至レリ、戰爭中我ハ我國ニ對スル好意的中立ノ地位ニ出テムハ「ロシア」ニ對スル好意的中立ノ地位ニ立テ米ハ我ニ傾キ独ハ「ロシア」ニ傾ケリ、

一九〇五年五月二十七日ハ日ノ沖島海戰ニ於テ *Vallie* 艦隊全滅シテ後六月二十日合衆國大統領 *Roosevelt* ハ日露ノ間ニ周旋 *Good office*

Ces ノ試ミル、意ヲ表シ *Witte* 代表トナリ日ハ小村外相代表トシテ *Portsmouth* 條約九月五日ニ調印サレタリ、

之ヨリ先八月十二日第一日英同盟條約結ハレタリ、同盟ノ防護スル利益ノ範圍拡張サレ英ノ印度國境ノ安全ニカ、ル一切ノ事項ニ関スル利益ヲ含ムニ至リ又韓國ニ於ケル我國ノ政治上、軍事上、經濟上ノ卓越利益 *Prerogative* *independent interest* ヲ我ク認メ我國ノ利益保護上必要ト認ムル

処置並ニ管理的保護ノ如置ヲ行フ権利ヲ認ムルニ至レリ、而シテ締約國ノ一方カ挑発スルコトナシニ別國ノ攻撃ヲ受ケ特定利益ヲ防護スルタメニ戰爭スルニ至レハ他國ノ締盟國ニ反對シテ戰爭ニ加ハルコトナクモ直ニ締盟國ノ他方ニ對シテ應援義務發生スヘシトナセリ、有効期間ヲ十年トシ日露戰役ニツキテハ英ハ嚴正中立ヲ守ルヘキコトヲ特ニ明言セリ、

日露戰役ノ開始ハ直ニ外交ニ影響シ英及ヒムノ協商促進サレ戰爭ノ結果トシテ「ロシア」ノ威信ノ失墜セントセル事ハ *Morocco* 事件ニ於ケル独仏間ノ紛議ヲ生スルノ動機ヲ與ヘタリ、日露戰端開始後ニヶ月ニシテ英仏間ノ協商成リ、奉天ノ戰ノ後ニ通商ニシテ独帝 *Tangier* 二上

陸シ *Morocco* 事件ヲ惹起セリ。

三二二

沖島海戦後十五日ニシテ *de l'annule* 辞職セリ、日露ノ媾和ニ干スル談判開始後ニ至リ始メテ独乙カ *Morocco* 事件ニ関シ重要ナル讓歩ヲナスニ至レリ。

日露ノ間ニ於テハ *Potsdam* 條約ヲ豫見セル豫業、通商等ニ干スル諸條約ノ談判進行セルカ一九〇七年六月十日日仏協商成リ、七月三十日ニ日露間ニ一般的協約ヲ結ビ相互ノ現在ノ領土ノ保全ヲ尊重シ又一方カ清國ト結ビ又ハソノ相互ノ間ニ結ヘル條約上ノ権利ヲ諸國民ノ機會均等主義(門戶開放主義)ニ牴牾セサル限リ尊重スヘキコトヲ約シ清國ノ独立及領土保全及清國ニ於ケル諸國民ノ商事上ノ機會均等主義ヲ承認シ又現状ノ存続及ヒ上述ノ主義ノ尊重ノタメ凡テノ平和的手段ヲ尽スヘキコトヲ約セリ。

日仏ノ間ニ於テ一九〇七年六月十日ニ印度支那ニ関スル最惠民取扱ノ趣意ノ宣言ノ他ニ清國ノ独立及ヒ領土保全並ニ諸國民ノ待遇均等ノ主義ヲ尊重スルコトヲ約シ及ヒ *Asia* 大陸ニ於ケル相互ノ地位及ヒ領土ニ関スル權利

利ヲ維持スルヲ目的トシ、一方カ主権保護權又ハ占領權(租借地)ヲ有スル土地ニ接壤スル清國ノ土地ニ於ケル平和及ヒ安全ヲ確保スルタメニ相互的ニ幫助スヘキノ取極メヲ結フニ至レリ。此ノ日仏協商ニ依リ仏ハ印度支那ニ對スル把持ヲトキ我國ハ仏ノ資本ヲ利用スルノ機會ヲ与ヘラレタリ。

日英同盟、日仏協商及日露協約ニヨリ我國ハ間接ニ日仏同盟及英仏協商ヲ拒絶トスル政ノ新結合ノ系統ニ近ツクニ至レリ。一九一〇年七月四日ノ第二ノ日露協約ニヨリ兩締約國ハ滿洲ニ於ケル鐵道ニツキ相互ニ友交的協カヲ与ヘ此ノ目的ノタメニ有害ナル一切ノ競争ヲナサ、ルコト並ニ *Pan-American* 條約及ヒ其ノ他我國トノロシヤトノ間又ハ我國若シクハ「ロシヤ」ト支那トノ間ニ存スル現行的約定ニ基ク滿洲ノ現状維持ヲ尊重スルニ協力スルコトヲ決定セリ。

一九一一年七月十三日ニ至リ第三日英同盟條約結ハレタリ、大体ニ於テ第二日英同盟條約ト異ル所ナキモ韓國及ヒ印度ニ関スル特別ノ條文ヲ置クコトヲ廢シ而シテソノ一ツノ條款ニ於テ兩締約國ノ一方カ第三日ト總括的仲裁ノ判條約 (*General Treaty of Arbitration*) ヲ締結シタルト

三三三

キハ訣第三日英同盟條約ハソノ付裁々判條約ノ有效ニ存続スル限リ上述ノ
 第三日ト交戦スルノ義務ヲ其ノ締約國ニ負ハシムルコトナキヲ定ム。
 一九一六年ノ第三日露條約ノ公表セラレタル部分ニ於テハ極東ノ恒久的
 平和ヲ維持スルヲ目的トナシ其ノ第一條ニ於テ締約國ノ一方ニ対抗スル何
 等ノ政治上ノ協定又ハ聯合ニ加ハラサルコトヲ互ニ約シ其ノ第二條ニ於テ
 締約國ノ一方ニ依リ承認サレタル地方ノ東亞ニ於ケル領土又ハ特殊利益
 ノ侵害セラルハニ至リタル時ハ兩國ハ其ノ権利々益ノ擁護守衛ノタメ相互
 ノ支持及ヒ援カヲ目的トシテ採ルヘキ如置ニ付キ該議スヘキコトヲ約ス。
 一九〇八年ノ十一月三十日ニハ太平洋ノ現状維持ト支那ノ領土保全及ヒ
 高工業ノ機會均等主義ノ尊重支持ヲ約束スル日米間ノ公文ノ交換ニ依ル該
 高アリキ。一九一七年十一月二日我國及ヒ米合衆國間ニ公文ノ交換ニヨリ
 石井 *Handking* 該商行ハレ兩國政府ハ領土相近接スル國家ノ間ニ特
 殊ノ關係ノ生スル事ヲ是認シ *U.S.A.* カ我國ノ支那ニ於テ特殊ノソノ我カ
 國ノ所領ニ接壤セル地方ニ於テ特殊利益ヲ有スルコトヲ承認シ又兩國ハ支
 那ノ独立及ヒ領土保全ノ主義ヲ聲明シ支那ニ於ケル門戶開放又ハ高工業ノ

機會均等主義ノ尊重ヲ聲明セリ。
 日英同盟、日露條約、日仏條約及日米協商ハ極東ニ對シテ略同様ナル目
 的ヲ有スト云ヒ得、極東ニ於ケル現状維持及門戶開放主義ノ維持之レナリ。

第八章 第一 *Balkan* 戰爭

Balkan 半島ニ於テ一九一一年十月ノ頃ヨリ *Bulgaria*、*Ser-*
bia、*Greece* ノ間ニ於テ「トルコ」ニ對スル同盟ノ改行ハレタリ。
 一九一二年三月十三日 *Serbia*、*Bulgaria* ノ間ニ同盟條約結ハレタリ。
Montenegro モ亦之レニ加盟セリ。遂ニ「トルコ」カ伯林條約（一八七八
 年）ニ對シテ改革ヲ「ヨーロッパ」ニ於テ實行セサルコトヲ口實ト
 シ「トルコ」ニ對シテ宣戦スルニ決セリ。
 「トルコ」ハ九一ニニ一日ヲ以テ其ノ國內一般ニ行ハントスル行政改革案
 ヲ發表セシカ動搖セル諸民族ノ望ムトコロハ *Autonomy* ニアル故之
 トニ満足セズ *Bulgaria* ノ國境近キ *Kotchkana* ニ於テ「トルコ」カ *Bul-*
garia 人ヲ虐殺セル報道ニツキテ「トルコ」カ改「トルコ」ニ於テ陸軍ノ演
 習ヲ行ヒテ第一予備兵ヲ召集セルコトアリシヨリ *Bulgaria* ハ九月三
 日ニ宣

十日ニ動員ヲナシ Serbia, Greece モ亦動員ヲ行ヒ十一月十一日ニハ
トルコ方面ニ於テモ亦動員令ヲ發セリ. Balkanノ諸國ハ「トルコ」ニ
對シテ聯合的ナル最後通牒ヲ發シ以テ戰爭狀態ニ入ラントセリ.

仏國宰相 Poincaréハ Balkan 半島ニ於テ緊切ノ利害ヲ有スル頃
露西國カ完全ナル一致ヲ保ツコトヲ以テ大局ノ維持上緊要トルコトナリ
トシ「ロシア」外務大臣ノ同意ヲ經テ機ニ調停案ヲ出セリ. 其ノ内容ハ第一
「シリア」兩國ハ列強ノ名ニ於テ土耳其ニ向ヒ其ノ當テ柏林條約ニヨリテ
約束セル改革ヲ Macedonia 又 Albania ニ於テ迅速ニ実行スルコト
ヲ要求スルコト. 第二列強ハ戰爭起リ其ノ勝敗カ如何ニ決スルニ不尙續
土上ノ現状維持ヲ相約スルコトノニナリ.

Poincaréノ案ニ對シ修正ヲ加ヘテ後「ロシア」ノ西國ニシテ
ニ基テテ十月八日通牒ヲ Balkan 諸國ニ送り十日ニ「トルコ」ニモ此
ノ通牒ヲ提出セリ. 然ルニ十月九日ニ Montenegrus 先ツ帝ヲ弑シテ十
月十三日夜 (identical) Bulgaria, Serbia 又 Greece Turkey
ニ對シ公文ノ要求書ヲ提出シ「トルコ」ノ改革ニ對シ「トルコ」

ノ通牒發シレコトヲ得ナル要亦ヲ提出セリ. Greece モ亦別ニ抑留サレシ

Greeceノ商船ノ開放ニ關シテ二十四日時間ヲ期限トスル最後通牒ヲ發シ
又 Crete 島ノ併合ヲ断行セリ. 「トルコ」ニ三國ノ全文通牒ヲ以テ Ultimatum
ト稱シテ看做シ十月十八日 Bulgaria 又 Serbia ニ對シ宣戰セリ.

「トルコ」對シ Macedonia 又 Thrace ニ於テ強ニニ強ク Adriatic
Sea 半島ニ對シ Macedonia 又 Salonika 又 Greece 軍ノタメニ占領サシ Macedonia
又 Albania ノ Neutralité 方面ニ於テモ「トルコ」軍大敗セリ. 「トルコ」ノ

敗敗ニヨリ列強カ四強國ノ領土ノ現状維持ノ宣言ノ実行ヲ得サルコトカ
普ク認メシレ. 至レリ.

十一月月上旬ノ頃ヨリ Serbia 又 Albania 又 Adriatic 半島
ニ出シトルコトイフ尙屬カテ Serbia 又 Albania 又 Adriatic 半島

nia, Autonomy, Security 等ニ主張シ. 何テ強クハ Serbia
kia ニ對シ警告スル所ナリ. Serbia 又 Albania 又 Adriatic 半島

Pravda ヲ占領スル. 「ロシア」ハ Serbia 又 Albania 又 Adriatic 半島
ヲトテ聯合事件 (1908年)ノ際ニ於ケテカ如キ難局ニ陥レタリ.

英ハ之等ノ問題ヲ直チニ別々ニ処理スルコトヲ試ミシテ暫ク之ヲ保
 衛シ一般的解決ノ成キ親察莫ヨリ他ノ問題ト同時ニ処理スルヲ可トスル
 ノ意見ヲ發表セリ。コレ後ノ「ロンドン」大使會議ヲ開催ノ伏線ナリ。
 「トルコ」ノ敗戦ノタメニ *Constantinople* 之危殆ニ瀕セルヨリ
 「*Persia*」ハ「ロシア」英、西國ト協議ヲナシ、十月三十一日ニ調
 停ニ同シテ列強ノ間ニ協定ヲナスヘキ時期至レリトナシ列強ノ地位ヲ強
 ムルタメ各強國カ自己ノ利益ヲ求ムルノ念ナキヲ表示スル聯合的宣言ヲ
 發表スルコトヲ提議セリ。三國協商ノ英、仏、露ノ三國ハ全盟軍ヲシテ戰
 勝ノ利ヲ納メシメントセリ。之ハ「ロシア」カ *Slaves* 人種ノ發展ヲ
 利益ナリトシ、英仏モ *Balkan* 半島ノ新ナル勢力カニヨリ俄、埃ノ
 東進ヲ防カシムルコトヲ以テ得策トナセルナリ。而シテ自己ノ利益ヲ求
 ムル念ナキノ宣言ハ埃ノ野心ヲ防圧スル所以ナリ。
 埃ハ仏ノ提議ニ反対シ三國全盟ノ故、伊ノ二國ハ埃ヲ援ケ三國全盟ニ
 屬スル三國ハ十一月四日ト共ニ仏ノ提議ニ應ジ難キヲ返答セリ。

「トルコ」ハ列強ノ「バルカン」諸國民ニ対シテ休戦ヲ強フルタメニ國
 派ヲナメコトヲ求メシモ仏ノ拒絶ニアヒテ一月十四日ニ「トルコ」ハ
Bulgaria 王ト直接休戦談判ヲ開キ *Bulgaria* 政府ハ同盟國ト協議シテ
 休戦ノ條件ヲ定メ談判一時頓挫セルコトアリシモ終ニ十二月二日休戦規
 約結ハレ「ロンドン」ニ於テ媾和談判ヲ開クコトヲ約セリ。
 「ロンドン」ニ於ケル交戦國間ノ媾和會議ハ十二月十六日ニ開催セラレ
 全盟四國ノ媾和條件ニ対スル「トルコ」ノ對案出テ全盟四國如圖ハ一九
 一三年一月三日 *Adrianople*, *Crete* 島及 *Thrace* 海ノ諸島ニ屬ス
 ル最後通牒ヲ發シ一月六日「トルコ」ハ *Adrianople* ノ割讓ヲ認メナ
 ルノ新ナル提案ヲ出セリ。
 「バルカン」諸邦ハ此ノ提案ニ基キ議スルヲ肯ンセザリシモ列強ノ勢力
 ニヨリテ談判ノ破裂防止サレタリ。「ロンドン」ニ於テ別ニ開カレシ列
 強大使會議ニハ列強ノ交戦國ニ英フヘキ通牒ヲ議定シ「トルコ」ニ対シ
 テ *Adrianople* ノ割讓ヲ通告シ *Thrace* 諸島ノ処分ヲ列強ノ決定ニ
 委メハシトナセリ。「トルコ」政府ハ一月二十二日ニ國民議會ヲ開キ列
 三〇九

Albania の東伊及 *Serbia* の二國ノ共ニ望ミタル所ナリシカ境、伊西國ハ一九〇七年頃ヨリ決定フナシ *Serbia* 人ノ此レヲ得ルコトヲ妨クル為メニ *Albania* ニ独立ノ名義ヲ與ヘシトシテ君主國トナサントセリ。一九一二年 *Bulgaria*, *Serbia* 間ノ「トルコレ」領ノ分割ニ関スル條約ニ於テ *Macedonia* ノ大部分ハ之ヲ *Bulgaria* ニ屬セシメタルモノトシ *Serbia* カ土地ヲ *Albania* ニ於テ得ルキコトヲ豫想セルナリ。然ルニ *Albania* ノ土地ハ *Serbia* カ境及伊ノタメニ之レカ獲得ヲ妨ケラレ、ニヨリトルラ以テ *Serbia* ハ土地ノ分割ニ干シテ不平ヲ抱ケリ。而シテ *Bulgaria* ノ望ム所ノ *Manastir* 及ヒ *Salonika* ハ各々 *Serbia* 及 *Greece* ノ手ニ落チタリ。

一九一三年初メニ *Serbia* 及 *Greece* ハ *Bulgaria* 一対シテ同盟ヲ結ビ *Macedonia* ニ於テ占有スル土地ノ領有ヲ相互的ニ担保セリ。
Bulgaria ハ第一 *Balkan* 戦後ニ於テ努力ナタルニ拘ハラズ收得ノ勢カリシコトヲ懐リ堪及救ハ *Bulgaria* ヲハ恢復スル態度ニ出テナリ。蓋ニ於テ *Bulgaria* 〃 *Macedonia* 〃 土地ヲ得ルタメ一九一

二年六月二十九日 *Greece* 及ヒ *Serbia* 一対シテ宣戰ヲ行ハスシテ攻撃ヲ開始セリ。然ルニ *Bulgaria* 利ナク、七月六日ヨリ退却ヲ行ハシメ七月十日ニ至リ *Thrace* 又宣戰シテ *Bulgaria* ニ侵メセリ。
Rumania ハ「トルコレ」同盟四國トノ間ノ第一次ノ *Balkan* 戦後ニ於テ局外中立ヲ守リ全盟四國カ勝利ヲ得テ *Bulgaria* カ領土ヲ增加スルハカリニ於テハ中立ヲ守レテ報酬トシシ *Silistria* 方面ニ於テ國境ノ改正ヲ *Bulgaria* ニホメントシ其ノ戦後ノ終リノ頃 *Bulgaria* 一対シテ「ロシヤ」ノ調停ニヨリ「ロシヤ」ノ首都ニ於テ *Silistria* ノ市及ヒ其ノ附近ノ少シバカリノ土地ヲ得ルコトヲ定マリシモ *Rumania* ハ「トルコレ」満足セズ。コトニ到リ *Bulgaria* ノ戦敗ニ東シ戦ニ加ハルニ至レルナリ。
Rumania ノ干渉ニヨリ戦争ハ終局ヲ告グルニ至レリ。八月三十日休戰結ハレ *Balkan* 半島ノ五ヶ國ノ代表者カ *Rumania* 〃 都 *Bucharest* 〃 会合シ *Bulgaria*, *Serbia* 及 *Greece* 一併和ヲシ、其ノ要求條件ヲ容レサレヲ得ナリキ。 *Greece* 〃 *Romania* 〃 外ニ *Cir-*

Albania の兼伊及 *Serbia* の二國ノ共ニ宣延スル所ナリシカ塊、伊西國ハ一九〇七年頃ヨリ決定フナシ *Serbia* 人ノ此レヲ得ルコトヲ妨クル為メニ *Albania* ニ独立ノ名義ヲ與ヘ之レヲ君主國トナサントセリ。一九一二年 *Bulgaria*, *Serbia* 間ノ「トルトコ」領ノ分割ニ因スル條約ニ於テ *Macedonia* ノ大部分ハ之ヲ *Bulgaria* ニ屬セシメタルモノトシ *Serbia* ヲ土地マ *Albania* ニ於テ得ルキコトヲ豫想セルナリ。然ルニ *Albania* ノ土地ハ *Serbia* カ塊及伊ノタメニ之レカ獲得ヲ妨ケラルノニヨレトシテ *Serbia* ハ土地ノ分割ニ干シテ不平ヲ抱ケリ。五シテ *Bulgaria* ノ望ム所ノ *Moravia* 及ヒ *Salonika* 各々 *Serbia* 及 *Greece* ノ手ニ落チタリ。

一九一三年初メニ *Serbia* 及 *Greece* ハ *Bulgaria* 一対シテ同盟ヲ結ビ *Macedonia* ニ於テ占有スル土地ノ領有ヲ相互的ニ担保セリ。
Bulgaria ハ第一 *Balkan* 戦後一於テ努力大ナルニ拘ハラヌ收得ノ勢カリシコトヲ憤リ塊及款ハ *Bulgaria* マハ恢復スル態度ニ出ラザリ。蓋ニ於テ *Bulgaria* ハ *Macedonia* ノ土地ヲ得ルタメ一九一

正の外交 四十四の外

二年六月二十九日 *Greece* 及ヒ *Serbia* 一対シテ宣戰ヲ行ハスシテ攻撃ヲ開始セリ。然ルニ *Bulgaria* 利ナク。七月六日ヨリ退却ヲ行ハシメ七月十日ニ至リ *Roumania* 又宣戰シテ *Bulgaria* ニ侵メタリ。
Roumania ハ「トルトコ」同盟四國ト、間ノ第一次ノ *Balkan* 戦後ニ於テ局外中立ヲ守リ同盟四國カ勝利ヲ得テ *Bulgaria* カ領土ヲ増加スルバカリニ於テハ中立ヲ守レル報酬トシテ *Silistria* 方面ニ於テ國境ノ改正ヲ *Bulgaria* ニ求メントシ其ノ戦後ノ終リノ頃 *Bulgaria* ト談判シテ「ロシヤ」ノ調停ニヨリ「ロシヤ」ノ首都ニ於テ *Silistria* ノ市及ヒ其ノ附近ノ少シバカリノ土地ヲ得ルコトヲ定マリシモ *Roumania* ハコレニ満足セズ。コレニ到リ *Bulgaria* ノ戦敗ニ乘テ戰ニ加ハルニ進レルナリ。

Roumania ノ干渉ニヨリ戦争ハ終局ヲ告グルニ至レリ。八月三十日休戰結ハレ *Balkan* 半島ノ五ヶ國ノ代表者カ *Roumania* 部 *Balkan* *Peace* 二會合シ *Bulgaria*, *Serbia* 及 *Greece* ト講和ヲシ。其ノ要求條件ヲ容レサレヲ得ナリキ。 *Greece* ハ *Sanonika* 外ニ *Cu-*

Wallia, Creta ヲオサメ Serbia: Monastir ニ到ルマテ領地ヲ
コロメ Roumania ニ南方ノ土地ヲ收メタリ。コノ新「トルコ」ニモ亦
命ニ與シテ Adrianople ヲ回復スルヲ得タリ。

第十章 歐洲大戦

一九一三年、Balkan、東部: Bulgaria ノ平カナルヲ得サル所ニ
シテ、獨逸、奥國タル Slave 人ノ勢力ヲ Balkan ニ於テ增加
シ、獨逸、奥國タル Turkey, Bulgaria 等、獨逸ニ對シテ不滿ノ
念ヲ抱クニ至レリ。又獨逸ハ、Roumania 海峽ニテ獨逸ノ勢力ヲ及ホサン
トスルノ政策ノ実行ノタメニ Balkan 半島ヲ獨逸ノ勢力ノ下ニ置キ
Roumelia ヲ「トルコ」ノ勢力ノ下ニ置カントスルノ計畫ヲ頓挫セントス
ルニ至レリ。獨逸 Bosnia, Slave 人ノ反抗 Traisny Commission
ノ formation 人ノ反抗ヲオシトルニ至レリ。
於茲獨逸獨逸ニ於テハ外交上ノ威信ヲ回復スルノ計ヲメグラサハルハカ
ラストノ思想熾ンナルニ至リ。Balkan 條約結ハレシ後一九一三年
八月獨逸ハ伊ニ對シテ共ニ Serbia 人ヲ攻撃スルノ提議ヲナセリト云フ

一九一四年十二月五日 *Spalitti* ノ海戦中ノ而シテ獨逸ハ Balkan
半島ニ於テ「トルコ」, *Bulgaria*, *Roumania* ヲ連ラメル企圖ヲツクラシメ場合ニ
ヨリテハ Greece ヲミズレニ加ヘテ以テ Serbia ノ勢力ヲ縮ムントセリ

獨逸ハ一九一三年ニ陸軍ノ擴張ヲ行ヒ一九一四年ニ海軍ヲ擴張セリ
一九一四年ニ於ケル世界大戦ハ一方ニ於テ一九一五年、一九一八年、一九一
一年ノ事件ト共ニ獨逸人ノタメニソノ *Ag.* ノ場所ヲ要求シソノ *Ag. Welt*
Politik ヲ進歩セントスルノ一般の企圖ニ基ツキ他方ニ於テハ *Par-*
lia 海峽ニマテ勢力ヲ及ホサントスルノ特別的政策及ヒ之レカ妨ケ傳ル
ノキ *Balkan* 條約ヲ放棄シ、殊ニ Serbia ノ勢力ヲ縮ムントスル
ノ企圖ニ關係スル所アリト云ハサルハカラヌ。

一九一三年十一月初ニ獨逸皇帝 *Wilhelm II* カ *Potadam* ニ於テ白國王
Albert I ニ對シテ自ノ軍備ニヨリ漸次ノ強クハカラサルニ至レルヲ告
ケタリト云フ。

一九一四年三月二日 *Konstantinople*, *Germany* 「ロンドン」ハ一九一七
年ニ於テ軍中編成ノ改革ヲ終了スルニ至リテ一九一七年以前ニ獨逸ハ「ロ
ン

シアト帝ヲシテ独乙ニクミヌルヤ否ヤヲ決セシメサルヘカラストナセリ
 世界大戦前独乙ハ「トルコ」 *Bulgaria*、*Serbia*、*Rumania* ト全盟ヲ結ヘリ。ヲ致命
 中独ニワタスヘキヲ求メタリ。仏ノ首相 *W. Poincaré* ハ其ノ利益ノ命ス
 ル所ヲ行フヘキコトヲ独大使ニ答ヘタリ。仏ハ其ノ軍隊ヲ國境ノ十基米
 後方ニ退カシメ自ラ攻撃ノ責任ヲ負ハサラントセリ。独ハ先ツ仏ニ対シ
 攻撃ヲムケント欲シニ十九日ニ已ニ斥候カニケ所ニ於テ仏國境ヲ越ヘシ
 モノ、如キカ八月一日正時四十分仏カ動員令ヲ發シ五時頃独乙モ動員令
 ヲ發セリ。

八月二日独ハソノ軍隊ヲシテ仏國境ヲ越ヘシメ三日六時四十五分大使
 ハ開戦ノ宣言ヲ公布シテソノ義務ノ交付ノ請求ヲセリ。宣戦ノ理由トス
 ル所ハ仏ノ航空機カ独ノ領土上ニ於テ敵對行為ヲ行ヘリト云フニアリ。
 独ハ八月二日 *Luxemburg* ニソノ軍隊ヲ入レヌソノ軍隊ヲシテ白耳
 殺ヲ通過セシメントセリ。然レトモ独乙ハ英ヲシテ戦争ニ加ラシメント
 欲ミタリ。七月二十九日 *Reichmann* *Hollering* ハ伯林駐劄英大使 *Spencer*
Sheen ニ告グルニ英カ戦争ニ加ハラサレハ独ハ仏ノ土地ヲ奪フコトナカ

ルヘキモノトセリ。然シナカラ仏ノ植民地ニ関シテハ明カナル答ヲナス
 ヲサケヌ和蘭ニツキテソノ中立ヲナスヘキコトヲ説キシモ自國ノ中立ニ
 ツキテハ仏ノ行動ノ計画カ知悉サル、マテハ如何ナル保証ヲモ英フルコ
 トヲ得ストシ、ソノ独乙ノ敵ニクミセサル以上ハ戦争終了後自國ノ領土
 保全カ尊重セラルヘシト宣言セリ。

英政府ハ斯クノ如ク條件ヲ以テ中立ヲ欲セサルコトヲ明カニセリ。廿
 一日 *Grey* ハ *Wachen* ヲシテ *Reichmann* ニ對シ *Reich* ノ主權及
 領土上ノ獨立ノ尊重ノ基礎ニ於テ墮ニ満足ヲ與フルタメニ調停スルノ意ヲ
 ルヲ告ケ若シ平和維持ノタメニスレ合理的提議カ中歐ニ因ニヨリ拒絶サ
 レ且ツ仏カ紛争ノ渦中ニ於テラル、一ニ至レハ美モ亦戦争ニ引入レラル、
 コトヲ明言セシメタハ八月三日ニ独乙カ自國ノ中立ヲ破アルニ及ビ英ノ
 態度ハ一変スルニ至レリ。白國カ他強國ノ勢力ノモトニ立タサルコトハ
 英ノ自衛上必要ト為ス所ナレハナリ。
 一九一四年七月三十一日ニ歐洲戦争 (*European War*) ナクハカ
 ラサルニ至リ外相 *Sir Edward Grey* ハ全野ニ仏・独・西國ニ對

シ他方ノ侵サル、場合ニ於テ白國ノ中立ヲ侵スコトナキカラトシ、仏ハ
直チニ肯定的答ヲ與ヘシモ独政府ハコレニ對シテ明答セズ、

八月二日ニ独政府ハ白國ニ對シテ自軍隊ノ白國通過計畫ノ下ル故ヲ以テ
独乙カ兵ヲ白國內ニ入ル、ノ必要アリトナシ、白國ノ十二時間内ニ之ト
ヲ承認スヘキヤ否マヨ答フヘキヲ求メタリ、

八月三日午前七時白國カ独軍通過要求ヲ拒絶スルノ返答ヲナシ全時ニ
独ハ白國ニ向ヒテ仏ノ *Memoires* ニ對スル必要ナル保全ノ措置ヲ行ヒ
必要アレハ兵カヲ用フルノ止ムヲ得サルコトヲ宣言シ全時ニ独兵カ自國
領内ニ侵入セルヨリ白國ハ中立國タル故ノ干渉ヲ求メタリ、

茲ニ於テ八月四日英ハ白國ノ中立尊重ヲ独乙ニ求メ、若シ四日夜半マ
テニ満足ナル返答到着セサレハ英ハ中立ヲ維持スルガメソノ取方内ノ
總テノ手段ヲトラサルヲ得サルコトヲ説ケリ、独カ要求ヲ容レサルヨリ
英國ハ八月四日午後十一時ヨリ戦争状態ニ入レリ、
一九一四年六月二十八日獨ノ皇儲 *Prinz Ferdinand* 大公及其他
カ *Bosnia*、*Sarajevo* ニ於テ殺害サレシコトハ独乙ニ對シ

ヲ行動ノ機ヲ失ハ、獨ハコノ後ニヨリ *Serbia* ヲ孤セシトシ独乙ハ無
條件的ノ援助ヲ與フルヨリ *Maurice Bagan*、*Sardogah* ヲ古國ニ
又他國ノ調停ヲ入ル、前ニ *Faite Accompli* マシタルコトヲ勸メタ
リ、

獨ハ暗殺者カ獨ノ國籍ヲ有スル *Bosnia* 人ニシテ *Serbia* 政府
ト關係スル所ナキニ拘ハラズ、*「ロシヤ」* 對向中ノ仏大統領及ヒソノ宰相ノ

*「ロシヤ」*ノ都ヲ去ルノ時ヲハカリ七月廿三日ニ於テ不意ニ義シメ *Ulti-*
matum *Serbia*ニ提出シ四八時間内ニ返答ヲ求メタリ、其ノ
*Ultimatum*ノ中ニ於テ獨ノ代表者カ *Serbia* 國內ニ於テ獨排外ノ
運動ノ鎮圧ニ快カスルコトヲ認ムヘク又獨ノ官吏カ暗殺ノ陰謀ニ與レル
Serbia 在昔ノモノニ對スル裁判上ノ審判ニ關係スルヲ認ムヘクノ要
求ヲナセリ、*「ロシヤ」*ハ四八時間ノ返答期間ヲ延長セシメント欲セシメ獨
ノ拒絶ニアハリ、

Serbia ハ独ノ嚴シク要求ヲ容ルヘキニ至レルモ唯 *Serbia* 國內
ニ於テ獨ノ官憲ノ快カヲ行フノ意味ヲ明カニスルコトヲ求メ且ツ獨ノ官

史ヲ暗殺事件ノ裁判ニ關係セシムルコトノ憲法ニ於テモ刑事訴訟法上ニ於テモ國權ナルコトヲ説キテ此ノ旨ヲ無條件ニ承認スルコトヲ躊躇スルヤ二十五日據公使ハ外交關係ノ斷絶ヲ告ケ全公使館員ヲ率ヒテ直チニ *Belgrade* ヲ去リ七月二十八日 *Serbia* 「ローマ」駐劄代理公使カ伊ノ外相ヲ經由シテ *Serbia* ニシテ如何ナル形容ニ於テ據ノ官夫カ *Belgrade* 國內ニ於テ干渉ヲ行フヘキカニツキテ説明ヲ受ケルトキハ前後通牒全体ヲ承認スルヲ得ヘキノ意ヲ據ニ通セルモ據ハ之レニ耳ヲ傾クルコトナク二十八日ノ夕 *Serbia* ニ對シテ宣戰ヲ行ヘリ。

據ハ「ロシア」ヲシテ戰爭ニ加ハラサラシムルヲ得ヘシト信セルモノ如クモ「ロシア」ハ *Balkan* ニ於ケル *Serbia* 人ノ保護者トシテ人種上歴史上關係深キ *Serbia* カ據ノタメニ蹂躪サレタメニ「ロシア」ノ威信地ニ墜ツルヲ座視スルヲ得ス。

據ハ仏、英ヲシテ「ロシア」ニ對シテ平和的態度ヲトルコトヲ勸告セシメントセシモ據ノ優勢ニ對シテ「ロシア」ヲシテ威迫的態度ヲトラスシムルハ英仏ノ為シ得サル所ナリ。英ノ外務大臣 *Grey* ハ平和的解決ヲ議

外交大臣 田中 四十五/4

スルタメニ七月二十五日ニ於テ他ノ要國ノ調停ヲ實行シ得ルタメ聯合シテ「ロシア」ト據トノ相方ニ對シテ互ニ境ヲ越ヘサルコトヲ要求スヘキコトヲ據ニ提議セリ。

據政府ハ據ト *Serbia* トノ間ノ事件ヲ他國ノ干渉スルヲ不可ナリトシ「ロシア」ノ *Serbia* ノタメニ干渉スルヲ妨クルタメニ圧力ヲ加フルヲ欲スルモ據ニシテ *Serbia* ニ對シテ行動ノ自由ヲ受ケシメント欲セリ。

據乙カ「ロシア」ニ對シテ平和的態度ヲトルノ勸告ヲナサント提議セルニ對シテ英及仏ハ平和ノ脅威ハ「ロシア」ノ方面ニ存セサルヲ以テ斯クノ如ク勸告ヲ「ロシア」ニ與フル能ハストセリ。

七月二十六日 *Grey* ハ更ニ提案ヲナシ事件ニ直接關係ナキ四強國(英、法、仏、伊)カ協議ヲナシ現在ノ紛議ヲ解決スルノ一ツノ手段ヲ求メソノ間「ロシア」ノ *Serbia* 據ノ三國ハ凡テ、能動的單行行動ヲ行ハサルヘキコトヲ説ケリ。據ハ據、「ロシア」ノ間ノ紛議ヲ國際法廷ニ於テ裁判セシムルニ等シトナシテ相方ノ承認ナラシメテ斯ノ如キ協議ヲ行フ

得サルコトヲ説キテ *Grey*、提案ヲ容ル、コトヲ肯セザリキ、
英ハ独ニ対シテ独乙ノ是認スル調停ノ形式ヲ示サンコトヲ求メシモ独
ハ之レニ対シテ答フル所ナカリキ、

「ロシア」ハ獨ニ対シテ直接談判ヲ行フノ提議ヲナシ独ニ対シテ此ノ提
議ヲ支持スルコトヲ求メシカ獨ハ之レニ恣セヌ独乙モ亦之レヲ支持スル
コトヲ拒絶セリ、

七月二十八日獨ノ外務大臣 *Reichstadt* 伯カ *Serbia*ニ對スル通牒
ヲ基礎トスル談判ニ関シテ「ロシア」ト提議スルコトナカルヘキコトヲ
「ロシア」ノ首都駐劄ノ獨大使ニ訓令セリ、

斯ノ如ク獨ノ *Serbia*ニ宣戦スル以前ニ於テ「ロシア」ノ獨ト戦争
スルニ至レルヲ防クタメニ三種ノ提議試ミラレタリ (*Veritate* 例ヨリ)
即チ第一ハ *Grey*ノ獨及「ロシア」ニ對シテ全時ニ圧カラカフルノ

提案、第二ハ *Grey*、直接關係國ヲサレ四強國カ調停ノ會議ヲ開クノ
提議及ヒ、第三ハ「ロシア」ノ獨ト直接談判ヲ行ハントスルノ提議是ト
ナリ、之等ノ提議ハ皆獨乙ヌハ獨ノ拒絶スルトコトナレリ、

獨ノ宣戦後四ハ時間内ニ於テ「ロシア」ハ獨ノ一部動員ヲ為セルニ恣シ
テ其ノ軍隊ノ一部ノ動員ヲ命セシモ平和的解決ヲ求メタメ種々ノ提議ヲ
ナシ七月二十九日「ロシア」政府ハ英及仏ノ平和維持ノタメ提議スヘキ
凡テノ手續ニ賛成スルコトヲ宣言シ、三十日 *Sagoroff*ハ若シ獨ニシ
テ獨 *Serbia* 向ノ問題カ 事件ノ性質ヲ異フルニ至レルコトヲ認メ
ソノ *Ultimatum* 中ヨリ *Serbia*ノ主權ヲ害スヘキ諸兵ヲ除クコト
ヲ諾スルコトヲ宣言セハ「ロシア」ハソノ戦争ノ準備ヲ停止セシムヘキ
コトヲ約スヘシト説ケリ、

獨外務大臣ハ獨政府ニ詢ルコトナクシテ斯ノ如キ提言カ獨ノ容ル、敵
ハサル所ナルコトヲ直チニ宣言セリ、獨乙ノ宰相 *Reichmann* *Wall-*
berg、*London* 駐劄獨乙大使 *Lichinowsky* カ外相 *Grey*ト
交シテ談話ニヨリテ英ノ戦争ニ加ハルコトアルヘキヲ知リテ三十日午後
三時獨首相 *Reichstadt*ニ對シテ調停ヲ承諾スルコトヲ勸ハヘキコト
ヲ獨 *Miers* 駐劄獨乙大使 *Tschinsky*ニ打電セリ、又三十日午後九時
ニ *Grey*ノ提議ヲ受諾スルコトヲ勸ムヘキコトヲ *Tschinsky*ニ打電セ

英外相 Grey ハ「ロシア」ノ *Reparations* ト提議シ、*Belgrade* 及び領土ノ後ニソノ以上 *Belgrade* 於テ進軍ヲ行ハサルコトヲ諾シ「ロシア」ニ形勢觀望ノ態度ヲ維持スヘキコトヲ諾スヘキ基礎ニ於テ詰強固ノ調停ノ案ヲ行フヘキコトヲ提議セリ、三十日午後九時ノ電報ノ後ニ時向ヲ經テ *Bethmann H.* ハ一時 *Grey* ノ提議ヲ容ル、ノ勅告ニ爾スル電報ノ訓令ヲ実行セサルコトヲ命シタリ、其ノ後 *Grey* ノ新タニ調停ノ提議ヲナシカネテ戦争ノ際ニ於ケル英ノ態度ヲ明カニスルニ及ヒ(三十一日)八月一日ニ至リ独政府ハ再ヒ埃ニ對シテ埃ニシテ凡テ調停ヲ拒絶セハ中部歐 *Middle Europe* ノ二國ハ政全体ヲ相手トセサルヘカラサルコトヲ告ケ埃首相ハセハ *Serbia* ニ對スル軍事行動ヲ止ムル能ハストシ埃帝ニ合様ノ趣意ノ答ヲ独帝ニナセリ、

獨帝ハ埃ノ英ハ調停ノ提議ヲ容ル、ノ意思ヲキキ見又独乙ノ勅告ノ報道 (*Sokolnigiger*) ヲ監視シ三十日午後七時一般の勅告ヲ行フノ事ヲナシソノ翌日ニ公ニセラル、又埃ニ三十一日午後七時一般的

勅告ヲ命シタリ、而シテ埃ハ一方ニ於テ英ノ調停ノ提議ニ付キテ考慮スルノ意齎アルコトヲ説ケルモ埃ノ調停ヲ承認スル條件トスル所ハ調停ノ向軍事行動ヲ遂行シ而シテ英カ「ロシア」政府ヲシテ勅告ヲ中止セシムルコトニアリ、

「ロシア」ノ一般的勅告ノ独乙ハ直接ニ事件ニ關係シ七月三十一日午後二時独帝ハ露帝ニ電報ヲ送り「ロシア」ニシテ戦備ヲ止メサレハ戦争起ルハク「ロシア」ハズレカ責任ヲ負ハサルヘカラストナセリ、今時ニ独ハ *Kriegsgefahrzustand* ノ宣言ヲナシソノ夜半ニ独ハ「ロシア」ニ *Ultimatum* マ送りテ「ロシア」カ埃ノ方面ト独乙ノ方面トヲ向ハス凡テ戦備ヲ止ムヘク十二時間中ニ返答ヲナスヘキコトヲ求メタリ、

「ロシア」ハ *Ultimatum* ニ對シテ答フル所ナク八月一日午後七時十分独ハ「ロシア」ニ對シテ宣戦スルニ至レリ、独ハ「ロシア」カ先ツ勅告セルコトニ重キヲ置キ明戦ノ責任ヲ「ロシア」ニ嫁セントセシモ「ロシア」ノ勅告ハ必スシモ開戦ヲ意味スルモノニ非サルヲ以テ「ロシア」ヲシテ埃方面ニ於テモ勅告ヲ止メシメントスルノ無理ナル注文ヲ

会メレ *Ultimatum* ヲ提出シテ戦争状態ノ發生ヲ必然的ナラシムシマ
 爾後ノ責任ヲ負フモノトナサハルヘカラス
 獨ハ外交上ノ脅威ニヨリ「ロシア」ハ、自ノ勢力ヲ挫ク能ハサシテ是ヲ
 勘クトモノノ軍人社会ノ間ニハ戦争ニヨリソノ目的ヲ達セントスルヲ考
 ヘカ盛ンニ行ハレシモノ、如シ、独乙ハ先ツ自ヲタホシテ後「ロシア」
 ニ及ハントシ自ノ境ニ兵力ヲ集中シ自ニ対シテ十八時間内ニ於テ中立ノ地
 位ヲ守ルヘキヤ否マヲ答フヘキコトヲ求メ自ニシテ中立ラキル意欲アリ
 ト答フルトキハ其ノ担保トシテ *Frankfurt* 及 *Worms* ノ要塞、コレヨリ
 先々八月二日 *Gregory* ハ *London* 駐劄自大使 *Leander* ニ対シテ独
 乙艦隊カ英海峡ニ入り又ハ自ノ沿岸ニ対シテ策戦行動ヲ企ツルヲ北洋
 ヲ恐過スルトキハ英艦隊ハソノ兵力内ノ凡テノ保護ヲ與フヘキコトヲ述
 ヘ又自耳義中立侵害ハ戦争原因タルヘキコトヲ信スルコトヲ述ヘタリ

参考書

La vil des Perples
Turner, Europe since 1870

意外交史 四十五ノ外

Collected Diplomatic Documents.

獨ハ八月五日ノ夕刻「ロシア」ニ対シテ宣戦セシカ英及自ニ対シテハ
 木タソノ艦隊ノ準備ヲラスシテ之ヲ敵トスルハ非常ナル危険ニ類スルノ
 故ヲ以テ宣戦ノ期日ノ猶予ヲ独乙ニ付シテ求メタリ、独乙ハ十二日ヲ以
 テ作ル五日間ノ猶予ヲ與ヘタリ、自ハ八月十日ニ獨大使ニ旅券ヲ與ヘ又
Wien ニアル自大使ヲシテ旅券ヲ受取リテ *Wien* ヲ去ラシメタリ(一
 十二日ニ去ル)
 日英ハ自ノ倫敦駐劄獨大使ニ旅券ヲ交付シ十二日夜半ニ於テ戦争状態
 カ壞ト英トノ間ニ開カレシコトヲ告ケタリ
 九月四日ニ英、自、「ロシア」三國間ニ單獨媾和ヲ行ハサルコト及ヒ他ノ
 同盟國ト平メ核定スルコトヲクシテ平和ノ條件ヲ敵ニ提出セサルコトニ
 関スル「ロンドン」宣言結ハレ翌年十月十九日我國モコレニ加盟シ今年十
 一月三十日ニハ伊太利モ之レニ加ハレリ
 我國ハ日英同盟ノ關係上一九一四年八月十五日敝政府ニ対シ *Ulti-*
matum ヲ發シ日本及支那ノ海洋ノ方面ヨリ独乙國ノ艦隊ノ即時ニ退

去スルゴト、其ノ退去スル能ハサルモノハ直チニ之レカ式裝ヲ解除スル
コト及ヒ膠州灣租借地全部ヲ結局ニ於テ支那ニ還附スルノ目的ヲ以テ一
九一四年九月十五日ヲ限リ無償且ツ無條件ヲ以テ我回ノ官憲ニ交付スル
コトヲ要求シ八月二十三日正午ヲ以テ返答期トセリ、独乙ハゴノ *ultimatum*
*matum*ニ對シテ答フルトコロナカリシヲ以テ我回ハ二十三日ニ独乙
ニ對シ直戦ヲナセリ、

伊ハ三国同盟ニ屬セルモ *Serbia*ニ對スル埃ノ侵襲的行動カ大敵ノ
原因ヲナセリトシテ防衛同盟ノ性質ヲ有スル三国同盟ニ基ク應援義務ノ
發生ヲ認メス初メ独ハ埃ヲシテ三国同盟條約第七條(相互的代償主義)
ニヨリ伊ト協商セシメントセシカ埃帝及ソノ首相 *Berchtold*ハ代償
ノ要求ニ應スルコトヲ拒メリ、一九一五年五月二十四日ニ至リ独埃ハ伊
ヲ本方トシテ戦争ニ加ハラシムルコトヲ見テセメテソノ中立ヲ維持セシ
メント欲シ *Balkan* 半島方面ニ於テ埃ノ領土増加ニ對スル代償ノ回
應ニツキテ伊ト談判スル所アリシカ伊ハ埃ハ「ロシア」ト談判シ遂ニ一
九一五年五月四日三国同盟ヲ廢棄シ五月二十三日ヲ以テ埃ニ對シ八月廿

八月ヲ以テ独乙ニ對シテ宣戦シ協商側ニ加ハルニ至レリ、

*Romania*ニ對シテ同盟ヲ結ビタリシカ一九一六年八月以テ降却ツテ
聯合側ニ加ハリテ戦争ニ参加スルニ至レリ、

聯合側ニ屬セルハ英、仏、ロシア、日本、伊、米、*Serbia*、*Mor-*
Tenegro、*Romania*、*Portugal*、*Greece*、その他合計二十七
ヶ國ニ及ヒ全盟側ニ於テハ土耳其、*Bulgaria*、オズレニ加ハレリ、

戦争中全盟側カ一時勢力ヲ得テ白耳義ノ大部分及 *Serbia*ヲ蹂躪シ
仏ノ東北部及ヒ「ロシア」ノ西部ヲ占領シ *Romania*モ亦潰乱セラ
ル、ニ至リシモ聯合軍ハ制海権ヲ占メテ独乙ノ海軍艦隊モノノ效ナク、
無制限的ノ潛艦戦ハ米合衆國ノ参戦ヲ致サシメ全盟側ノ等力次第ニ縮マ
リ、畧四年以上ノ戦争ノ後 *Bulgaria*カ一九一八年九月二十九日降伏
シ、十月三十一日ニハ *Turkey* 降伏シ十一月四日ニハ埃又降ルニ至レリ、
協商側ノ強國ハ米國ト独乙トノ交渉ニ基キ平和條約ヲ締結スルタメ休
戦ヲ欲ニ所望スルニ決シ十一月十一日休戦規約ナレリ、協和手備條約案
*Preliminaries*ヲ議スルタメ協商側ノ諸國ノ代表者カ *Paris*ニ會シ

所三場和于備會議ヲ紅線シ一九一九年一月以降最高會議 總會及數多ノ
委員會ヲ設ケテ對敵條件及世界永久平和ニ關係スル國際聯盟及國際労働
組織ニ関シ審議シ五大國ノ會議若シクハ最高會議ヲ先ツ申テ總會ノ議ニ
附セリ時ニ會ヲ總會ニ付セスシテヤミシコトアリ

France 向願 山東問題 (Munich) Poland 問題等ノ推測アリシ
カ條ニ條約案ノ決定ヲミレニ至リ議決ノ結果トシテナレド計独平和條約
ノ案カ五月七日 Versailles ニ於テ独乙全權ニ交付サレタリ 口頭ノ談
判ヲ許サス 吾面ノ交接ニヨリ議論ノ未儘少ノ訂正ヲ加ヘ 六月二十八
日ニ Versailles 於テ平和條約ノ署名終レリ

對獨條約ハ St. Germain 於テ交付サレ調印サレタリ Bulgaria
ニアトノ條約ハ Neuilly (十一月) 一九一九年八月「トルコ」ニ
Versailles ニテ交付調印サレタリ
對德條約ハ一九二〇年一月十日 Versailles ニ於テ批准交換ヲナシ世
界大戰終レリ
平和條約中東ノ對敵媾和條件ヲ以テ目スヘキ部分ニ關シテ第一ニ注意

スヘキハ領土分配主義ニアリ政ノ土地ノ分配ニツキテ民族主義的主張カ
原則トシテ採用サレシマモト Poland, Czechoslovakia,
Serd-Croat-Slovene State (Jugo-Slavie) 如キ新國境ニ
據シテ民族主義的境取線ニヨリテ定メラハ Alsas-Lorraine ヲ以テ
入り壞ノ土地ノ伊 (indemnities) ノ主張ニ合ス 及「ルーマニア」
(Roumania) ハ大体ニ於テ民族主義ニヨリ境取線ニ從フモノト認メ得
Malmedy Eupen カ白耳義ニ入ルヲ認メラレシ如キモ又然リ 但シ
政ニ於テ民族主義的主張ノ外人民ノ必要トスル經濟的通路ヲ確カムルノ
主張又ハ國防ヲ確カムルノ主張ヲ認メラレシコトアリ
独乙ノ海外領土ニ關シテコレヲ聯合側ノ五強國ニ讓ルコトノ定メシモ
國際聯盟規約ニヨリテ住民ノ進化及繁達ヲ計ルノ名義ノモトニ之等ノ土
地ヲ國際聯盟ノ下メニスル特別國ノ委任統治 Mandatory system
ノモトニオソヘキコトヲ定メ 而シテ實際ニ於テ戰爭中独乙ノ海外領土
ヲ占領セル國ハソノ土地ニ關スル後見國(委任國)トナレリ
媾和條件ニツキテコトニ注意スヘキハ債金ノ問題ナリ 英仏ノ主銀行

ハレヌミテ軍費賠償ヲ行ハシメサルコト、シテ戦争開始ノ責任カ致及ヒ
ソノ同盟国ニアルコト明言シ認メシメハ第ニヨハ條ノ戦争ニヨル公盟及ヒ
聯合國政府及ヒソノ人民ノ損害ヲ賠償セシムルコト、ナレリ、平和條約
ノ恒久平和ノ確立ニ関スル一部分ハ國際聯盟規約及労働ニ関スル規定ハ
第一編及第十三編ニナリトス。

外交史 終り

大正十三年九月八日印刷
大正十三年九月十二日発行

(非賣品)

編輯兼
発行者

東京市麹町區飯田町三丁目九番地

矢田長次郎

印刷所

同

北光社

振替口座東京二五二一五番

14
6836

終

